

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアビジネス事情	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 授業用に用意したテキストやプリントを各自読んで内容を理解できる。アジアを代表する情報通信系企業に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。沖縄企業の海外進出や県のアジア経済戦略を理解できる。	メッセージ 毎回、プリントを配布します。なお、テストに対応できる練習問題を配って、授業中に解答します。初学者も大丈夫です。
	到達目標 初歩的なアジアビジネスの実際を理解できる。現実のIT産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。	

学びの準備	到達目標 初歩的なアジアビジネスの実際を理解できる。現実のIT産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	県内企業のアジア圏取引の現状と課題について
	2	沖縄県におけるIT人材育成の課題&台湾香港の情報化と人材育成
	3	シンガポールにおける経済およびIT政策&東南アジアの概況
	4	世界における情報通信関連産業の趨勢&沖縄スマートハブの形成
	5	アップルの正体&虚構のアベノミクスー日本の人材育成
	6	サムスンの二番手商法&岐路に立つ韓国経済
	7	スマホ帝国の全貌&ガラパゴス化する日本の製造業
	8	中国の暗転&中国のIT事情
	9	台湾IT企業の戦略（鴻海とSHARP）
	10	華人ビジネスと沖縄（華人ネットワークの秘密）
	11	香港経済の展望&辺境東アジアのアイデンティティ沖縄香港台湾
	12	アジア各国の市場の現状と今後の見通し
	13	沖縄経済圏&県観光のグローバル・ブランディング
	14	那覇とアジア交通体系の連携（LCCの価格破壊）
	15	国際物流でアジアを制す（リージョナル物流ハブ）
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスをよく読むこと
		参考文献① 1 3章&参②P107-136
		参考文献① 1 2章& 1 0章
		プリント読み&練習問題
		プリント読み&参考書読み
		プリント読み&参考書読み
		参考書読み&練習問題
		プリント読み
		参考書&プリント読み
		参考書読み
		参考書読み
		参考書読み&練習問題
		参考書&プリント読み
		プリント読み&課題作成
		プリント&テストの準備
		課題の提出

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト指定しない。参考文献①沖縄国際大学公開講座（2015）沖縄国際大学産業総合研究所『沖縄の観光・環境・情報産業の新展開』泉文堂 ②沖縄国際大学公開講座（2016）『産業情報学への招待』編集工房東洋企画
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①テキスト指定しないので、必ず授業プリントを持参する。②レポート提出前に、関連する授業プリントを再確認しておくこと。
-------	--

学びの実践	評価 レポート・期末テストと出席状況で総合的に評価する。レポート報告50点・期末テスト30点・平常点20点の割合で評価する。無断欠席が連続5回以上になると、期末テストの参加を認めない。平常点は出席・授業態度を確認する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「グローバル・マーケティング演習」、「グローバル・マーケティング総論」 次のステージ：授業で学んだ実践と知識は現実のビジネス世界に応用できる。ITビジネス、沖縄の地域産業について、全般に知識を高められる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報処理の基礎技能を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	意思決定論	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	意思決定は我々の日常生活に欠かすことのできない行為であり、意思決定を効果的に行うためには情報収集・現状分析・代替行為の決定といった一連の情報処理プロセスを理論的根拠に基づき実践することが必要となる。本講義では、人間の主観的判断の計測や収集情報の整理、問題構造の分析等を支援する際に有効となる手法やアルゴリズムについて学ぶ。	具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。
到達目標	意思決定を支援する手法やアルゴリズムを理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	意思決定支援手法の概要	講義の復習および課題
	2	意思決定基準 (i)	講義の復習および課題
	3	意思決定基準 (ii)	講義の復習および課題
	4	意思決定と確率 (i)	講義の復習および課題
	5	意思決定と確率 (ii)	講義の復習および課題
	6	期待値と期待効用	講義の復習および課題
	7	主観確率	講義の復習および課題
	8	主観的判断の計測と階層分析法 (i)	講義の復習および課題
	9	主観的判断の計測と階層分析法 (ii)	講義の復習および課題
	10	階層構造と構造化アルゴリズム (i)	講義の復習および課題
	11	階層構造と構造化アルゴリズム (ii)	講義の復習および課題
	12	マルコフ連鎖 (i)	講義の復習および課題
	13	マルコフ連鎖 (ii)	講義の復習および課題
14	リスクと不確実性 (i)	講義の復習および課題	
15	リスクと不確実性 (ii)	講義の復習	
16	試験・総括		
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考文献： ・木下栄蔵 著「わかりやすい意思決定入門」、近代科学社 ・松原望 著「意思決定の基礎」、朝倉出版			
学びの手立て			
「履修の心構え」 初回講義を欠席した者は、仮登録を取り消すので注意すること。 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。			
評価			
試験結果、出席状況、レポートにより評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目として「知的情報処理」がある。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。	メッセージ 本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
	到達目標 ・ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。 ・演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出
	9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出
	10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出
	11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出
	13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（1）	教科書の理解・課題の提出
	14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（2）	教科書の理解・課題の提出
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出	
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。 ・講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 ・質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。		
	評価 評価は、出席状況(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。 [/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。</p>	<p>本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。 演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解	
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出	
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出	
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出	
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出	
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出	
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出	
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出	
	9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出	
	10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出	
	11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出	
	12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出	
	13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（1）	教科書の理解・課題の提出	
14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（2）	教科書の理解・課題の提出		
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出		
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。</p>			
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。 講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。 			
評価	<p>評価は、出席状況(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名 ウェブプログラミング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平良 直之	前期	金 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい インターネットの普及とともに、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	メッセージ 本講義では基礎的な情報技術をわかりやすく解説することに努めますが、情報リテラシーやプログラミング概論、プログラミングIを履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は、私たちが普段利用する情報システムの基礎技術に関するものであり、2年次後期の専門演習基礎でどのクラスに所属するかに限らず、履修することを強くお勧めします。
	到達目標 インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	次回講義の予習課題
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①(記述ルール、定数、配列)	当該講義の演習/次回講義の予習
	3	PHPの基礎②(制御文、ユーザ定義関数)	当該講義の演習/次回講義の予習
	4	演習: PHPの基礎	当該講義の演習/次回講義の予習
	5	PHPの組み込み関数①(文字列・配列の操作)	当該講義の演習/次回講義の予習
	6	PHPの組み込み関数②(ファイルの操作、メール送信)	当該講義の演習/次回講義の予習
	7	演習: PHPの組み込み関数	当該講義の演習/次回講義の予習
	8	WebでのPHP①(テキスト・ボタンの利用)	当該講義の演習/次回講義の予習
	9	WebでのPHP②(認証、セッション、外部コマンド)	当該講義の演習/次回講義の予習
	10	演習: WebでのPHP	当該講義の演習/次回講義の予習
	11	PHPにおけるクラス	当該講義の演習/次回講義の予習
	12	MySQLによるデータ操作の基本①(データの挿入、検索、更新、削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
	13	MySQLによるデータ操作の基本②(テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
	14	PHPにおけるデータベース利用①(データベース接続とデータの検索)	当該講義の演習/次回講義の予習
15	PHPにおけるデータベース利用②(データの挿入・更新・削除)	当該講義の演習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 未定(第一回目の講義で周知します) 参考資料: ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験と課題レポートの総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。 [/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブプログラミング	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	インターネットの普及とともにない、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	本講義では基礎的な情報技術をわかりやすく解説することに努めますが、情報リテラシーやプログラミング理論、プログラミングIを履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は、私たちが普段利用する情報システムの基礎技術に関するものであり、2年次後期の専門演習基礎でどのクラスに所属するかに限らず、履修することを強くお勧めします。
到達目標	インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	次回講義の予習課題
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①(記述ルール、定数、配列)	当該講義の演習/次回講義の予習
	3	PHPの基礎②(制御文、ユーザ定義関数)	当該講義の演習/次回講義の予習
	4	演習: PHPの基礎	当該講義の演習/次回講義の予習
	5	PHPの組み込み関数①(文字列・配列の操作)	当該講義の演習/次回講義の予習
	6	PHPの組み込み関数②(ファイルの操作、メール送信)	当該講義の演習/次回講義の予習
	7	演習: PHPの組み込み関数	当該講義の演習/次回講義の予習
	8	WebでのPHP①(テキスト・ボタンの利用)	当該講義の演習/次回講義の予習
	9	WebでのPHP②(認証、セッション、外部コマンド)	当該講義の演習/次回講義の予習
	10	演習: WebでのPHP	当該講義の演習/次回講義の予習
	11	PHPにおけるクラス	当該講義の演習/次回講義の予習
	12	MySQLによるデータ操作の基本①(データの挿入、検索、更新、削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
	13	MySQLによるデータ操作の基本②(テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除)	当該講義の演習/次回講義の予習
14	PHPにおけるデータベース利用①(データベース接続とデータの検索)	当該講義の演習/次回講義の予習	
15	PHPにおけるデータベース利用②(データの挿入・更新・削除)	当該講義の演習/次回講義の予習	
16	試験・総括		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト: 永田順伸「PHP+MySQLマスターブック」マイナビ出版 参考資料: ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
学びの手立て	「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
評価	出席状況(50点)と試験・課題レポート(150点)の総得点で評価する。総得点の9割以上秀, 8割以上優, 7割以上良, 6割以上可とし6割未満不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「データベース」「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エグゼクティブ・セミナー	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 哲	2年	st-uechi@hkg.odn.ne.jp	

学びの準備	ねらい 産業社会の成り立ちと現状を理解し、県内外でビジネスを展開する経営者をゲストに招き話を聞くことで、自分自身の進路・就職・仕事、そして生き方を考える機会を提供する。	メッセージ 県内外で活躍する企業経営者やビジネスマンから直接体験を聞き、質問、議論することで、将来の進路や仕事、生き方に向き合ってもらいたい。
	到達目標 将来の生き方の方向性を設定できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、産業社会の概論	
	2	産業社会の成り立ち（歴史）と現在社会。沖縄の産業の実情。	
	3	沖縄におけるICTの活用（NTT地域支援室）	
	4	広告業界から見る沖縄の産業界	
	5	地域特産品の全国展開	
	6	沖縄の独自性を商品化	
	7	eコマースのメリットとデメリット	
	8	離島の優位性	
9	世界に誇る沖縄のものづくり		
10	建築業界の現状		
11	アパレル業界でも沖縄らしさを		
12	伝統工芸の産業化		
13	空手のビジネス		
14	六次産業		
15	ウェルネス産業		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。その都度参考文献は紹介します。		
	学びの手立て 履修の心構え 無断欠席はしないこと。 居眠り、私語は退席してもらいます。		
	評価 評価点 出席：50 レポート：40 テスト：10		

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後、気になったゲストで話した企業との関係を作ってもらいたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学Ⅰ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「なぜ、一部の国々では急速に所得が成長しているのに、他の国々では貧困におちているのだろうか。」「なぜ、どの国も景気後退や失業率の増加が生じるのだろうか。」など、社会で起こっている様々な問題について、経済学のツール（道具）を使って考える学問です。この講義では、将来、みなさんが社会で活躍するのに役立つ知識として経済学のツールを習得してもらう事が目的です。	メッセージ 経済学的な考え方を身につけると、「社会を見る目」が変わります。この講義では、数学の知識も若干必要です。しかし、これらが苦手な人も怖がらずに、この講義にチャレンジしてください。ぜひ、一緒に学びましょう。
	到達目標 新聞やTVで失業やインフレーションのニュースを知ったときに、経済学のツールを使うとどのように理解できるのかを考える力を養います。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、科学としてのマクロ経済学	
	2	マクロ経済学のデータ	予習：テキスト第2章を読む
	3	マクロ経済学のデータ	予習：テキスト第3章を読む
	4	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	予習：テキスト第3章を読む
	5	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	復習：練習問題を解く
	6	今までの復習と質問受付	
	7	貨幣とインフレーション	予習：テキスト第4章を読む
	8	貨幣とインフレーション	予習：テキスト第4章を読む
9	貨幣とインフレーション	復習：練習問題を解く	
10	開放経済	予習：テキスト第5章を読む	
11	開放経済	復習：練習問題を解く	
12	失業	予習：テキスト第6章を読む	
13	失業	予習：テキスト第6章を読む	
14	失業	復習：練習問題を解く	
15	まとめ & 小テスト		
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：N. グレゴリー・マンキュー（足立英之他訳）『マンキュー マクロ経済学Ⅰ 入門編 第3版』（東洋経済新報社）、2011年 参考文献：伊藤元重『マクロ経済学第2版』（日本評論社）2012年		
	学びの手立て 【受講時の態度について】 基本的な受講マナー（私語、携帯電話など）を守ってください。 【受講に際して】 授業で学んだ概念や理論を使って、最近の経済ニュースについて考えてください。 【講義方法】 テキストの内容に沿った形で、パワーポイントのスライドを用いて授業を行います。		
	評価 30%：授業課題レポート（第8回目もしくは9回目の講義内で、レポート課題を出題する。） 70%：期末テスト		

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用マクロ経済学Ⅱ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 応用マクロ経済学Ⅰでは、長期（価格が調整される）の経済変動について学びました。この講義では、短期（価格が調整されない）における経済変動や経済政策について考える力を習得してもらう事が目的です。	メッセージ 「経済学を学ぶことの楽しさ」は「現実問題に対して、経済学がどのように応用できるのか」を考える事にあります。一緒に最新の経済ニュースに対して、経済学のツールがどのように使えるのか考えましょう。
	到達目標 財政政策や金融政策の意図について、経済学のツールを使って考え、深く理解する力を養います。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、前期の復習	
	2	前期の復習	復習：練習問題を解く
	3	景気変動へのイントロダクション	予習：テキスト第7章を読む
	4	景気変動へのイントロダクション	予習：テキスト第7章を読む
	5	景気変動へのイントロダクション	復習：練習問題を解く
	6	今までの復習と質問受付	
	7	総需要 1：IS-LM の構築	予習：テキスト第8章を読む
	8	総需要 1：IS-LM の構築	復習：練習問題を解く
9	総需要 2：IS-LM の応用	予習：テキスト第9章を読む	
10	総需要 2：IS-LM の応用	予習：テキスト第9章を読む	
11	総需要 2：IS-LM の応用	復習：練習問題を解く	
12	インフレと失業	予習：テキスト第11章を読む	
13	インフレと失業	予習：テキスト第11章を読む	
14	インフレと失業	復習：練習問題を解く	
15	まとめ & 小テスト		
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：N. グレゴリー・マンキュー（足立英之他訳）『マンキュー マクロ経済学Ⅰ 入門編 第3版』（東洋経済新報社）、2011年 参考文献：伊藤元重『マクロ経済学第2版』（日本評論社）2012年		
	学びの手立て 【受講時の態度について】 基本的な受講マナー（私語、携帯電話など）を守ってください。 【受講に際して】 授業で学んだ概念や理論を使って、最近の経済ニュースについて考えてください。		
	評価 30%：授業課題レポート（第8回目もしくは9回目の講義内で、レポート課題を出題する。） 70%：期末テスト		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経済学
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用ミクロ経済学Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>経済学は限られた資源（土地、労働力、設備やお金など）で財・サービスを生産し、それを分配し、消費して生活をするという人間の経済活動について研究する。ミクロ経済学は、売り手と買い手が市場の価格を通じて意志決定を行うという市場メカニズムについて究明する。講義では主に「家計の経済活動における意志決定」、「企業の経済活動における意志決定」を取り上げる。</p>	<p>家計や企業の経済活動は複雑に見えますが、経済学の基本概念を用いて家計や企業の行動原理を学習します。</p>
到達目標	<p>①家計の経済行動を説明する無差別曲線、予算線、効用最大化の基本概念を学習する ②企業の経済行動を説明する生産関数、費用関数について学び、利潤最大の原理を学習する ③個別の消費者行動、企業行動の事例に基本概念を適用して理解を深める</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第一回 家計の経済活動：選好と効用 第二回 無差別曲線の性質① 第三回 無差別曲線の性質② 第四回 予算の制約 第五回 需要量の決定① 第六回 需要量の決定② 第七回 所得変化・価格変化の効果 第八回 企業の生産活動、生産関数① 第九回 生産関数② 第十回 費用曲線① 第十一回 費用曲線② 第十二回 産出量の決定① 第十三回 産出量の決定② 第十四回 供給変化の効果 第十五回 期末試験 第十六回 講義の総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は特に指定しません。参考文献は下記と通りです。 ①伊藤元重、『ミクロ経済学』日本評論社 ②ポールクルーグマン、ロビン・ウェル『ミクロ経済学』東洋経済 ③N・G・マンキュー著、足立ほか訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』、東洋経済新報社</p>

学びの手立て	<p>共通科目の「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」、産業情報学科選択科目の「経済学概論Ⅰ」「経済学概論Ⅱ」で経済学の基本的な考え方を学んでおいてください。基本的な考え方を経済現象の説明に応用します。</p>
評価	<p>出席、レポート提出、中間・期末試験を基に総合的に評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>応用ミクロ経済学Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅱ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用ミクロ経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>応用ミクロ経済学Ⅰで学習した家計と企業の経済行動の知識を基に、市場の資源配分についてさらに学習を深める。まず、完全競争市場における資源配分の効率性についてふれ、次に独占市場や寡占市場、独善的競争市場について学ぶ。さらに、市場がうまく機能しない市場の失敗について学び、不完全な情報の下では経済行動に問題が生じ、資源配分がうまくいかないことについて学習する。</p>	<p>市場の働きは複雑に見えますが、経済学の基本概念を用いて市場を作動原理を学習します。基本概念を個別の経済事例に適用して理解を深めます。</p>
到達目標	<p>①市場について、完全競争、独占、寡占、独占的競争に類型して理解を深めます。 ②市場による資源配分は十分ではなく、「市場の失敗」が存在すること、その対応について学びます。 ③市場における情報は不完全であり、これを補う家計や企業、市場の対応について学習します。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回 応用ミクロ経済学Ⅱ概要説明 第2回 完全競争市場と資源配分① 第3回 完全競争市場と資源配分② 第4回 独占市場について① 第5回 独占市場について② 第6回 寡占市場について① 第7回 寡占市場について② 第8回 中間試験 第9回 独占的競争市場① 第10回 独占的競争市場② 第11回 市場の失敗① 第12回 市場の失敗② 第13回 不完全情報① 第14回 不完全情報② 第15回 期末試験 第16回 講義の総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しません。参考文献を以下のあげます。 ①『ミクロ経済学』伊藤元重、日本評論社 ②ポールクルーグマン、ロビン・ウェルス『ミクロ経済学』東洋経済 ③マンキュー『ミクロ経済学』東洋経済新報社</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>共通科目「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」、産業情報学科選択科目「経済学概論Ⅰ」「経済学概論Ⅱ」で経済学の基本的な考え方を学習しておくことが必要です。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況、小テスト、課題、中間テスト、期末テストの状況を総合して評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>応用マクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅱ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄型企業戦略特別講義	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大森 洋介、 呉屋 真也	3年	yosuke.omori@i-ways.co.jp	

学びの準備	ねらい 観光に次ぐリーディング産業となったIT市場について、企業の戦略と最先端のテクノロジーを学習します。IT市場の求める人材像やスキルを講話から探り、地域振興の課題と可能性を捉えます。	メッセージ グローバルにも通ずるIT市場のトレンドを学習することで、身の回りにおこる変化を正確に把握できる人材を育成します。ITの魅力を一人数多くの学生にお伝えし、産業人材育成に寄与します。 ※受講対象：産業情報学科3年次
	到達目標 デジタルマーケティングやITサービスなどテクノロジーを活用した社会の仕組みを理解し、施策を立案できるようになる事。ITスキルの重要性に気づき、さまざまな分野でIT技術を活かせる人材の育成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	IT社会の現状と今後
	3	IT企業戦略1
	4	IT企業戦略2
	5	IT企業戦略3
	6	マーケティングの変容理解
	7	ITを活用した社会と働き方1
	8	ITを活用した社会と働き方2
	9	ITを活用した社会と働き方3
	10	今後起こりうる変化1
	11	今後起こりうる変化2
	12	今後起こりうる変化3
	13	求められるスキル2
	14	求められるスキル3
	15	総括・まとめ
	16	
	テキスト・参考文献・資料など 各回の講義ごとに、講師から準備された資料が配布されます。 また、この講義に関する参考書はありません。適宜指示します。	
	学びの手立て 授業は、講義と対話/ケーススタディ等の組み合わせで構成されます。 感じたことをその場でオープンに発言していただくことを期待しています。	
	評価 レポート・・・毎回学びをレポートとして提出する。企業の講話を通して、沖縄経済・人材育成について課題抽出し、提案があれば質により加点する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義で学習したITに関する知識を持ち、情報系科目・企業戦略科目に学習を発展させる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄新ITビジネス特別講義	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_松本 安立、_杉浦 哲郎、_岡田 良、_中西 利文、_大城 健、_岩本 潤一	2年	098-917-1560	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>県内ITビジネスで活躍する講師（企業経営者や実務家等）による講座に参加し、ITビジネスに対する興味を高め、更に知識を深めることで、実務者とのITビジネスに関する対話が可能となり、将来のキャリア形成に役立つことを目指します。</p>	<p>事前の専門知識は不要です。ITビジネスの現場で活躍する多数の講師で取り組みますので、この機会に、知識と人脈を増やして下さい。</p> <p>※受講対象：産業情報学科2・3年次</p>
到達目標	<p>これまでの業界の状況だけでなく、これからの産業振興の展開まで触れることで、受講生がITビジネスに対する造詣が深い人材として育つことを目標とします。参加者の中から近い将来、ITビジネスで活躍する人材が数多く輩出されることを願っています。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	IT産業概論	
	3	これからの沖縄IT産業	
	4	ネットワーク概論	
	5	これからのWebサイト制作	
	6	Webマーケティング概論	
	7	Webマーケティング実践	
8	Webマーケティング実践		
9	コンテンツ制作概論		
10	コンテンツ制作概論		
11	ソフトウェア開発概論		
12	ソフトウェア開発概論		
13	人工知能技術「ディープラーニング」の現状と今後		
14	人工知能技術「ディープラーニング」の現状と今後		
15	人工知能技術「ディープラーニング」の現状と今後		
16	※最新のトピックを紹介するため、講義内容が変更になる可能性もあります。		
テキスト・参考文献・資料など	<p>各回の講義ごとに、講師から準備された資料が配布されます。また、この講義に関する参考書はありません。適宜指示します。</p>		
学びの手立て	<p>授業は、複数企業による講師陣により、Web・ネットワーク・デジタルコンテンツ・プログラム・AI(人工知能)といった多種多様なテーマで、講義と対話/ケーススタディ等の組み合わせで構成しております。質問等、積極的な参加を期待しています。※講師の都合により講義スケジュールが変更になる場合もありますのでご容赦ください。</p>		
評価	<p>レポート 【100%】・・・レポート課題に対する課題抽出、分析、提案の質により評価を行います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義で学習した内容をきっかけとして、県内で展開されるITビジネス全般に関する知識を深め、卒業後のキャリア形成に役立てて頂けるとありがたいです。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境資源経済論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 薫	2年	研究室 5-632 kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、都市において発生する環境問題を概観する。このような環境問題には、水環境、大気環境、エネルギー、廃棄物などの問題が含まれる。講義では、これらの問題を個別に取り上げるだけでなく、問題相互の関連性を検討し、都市環境のマネジメントを考える。</p>	<p>都市を中心に、様々な環境問題やその政策について事例を挙げながら考えていきたい。都市河川の巡検も予定しているので、現場で実際に触れて感じて、考えて欲しい。</p>
到達目標	<p>①都市の水・大気・エネルギー消費と二酸化炭素・省エネ・廃棄物などに関する専門知識を事例を挙げながら説明できる。 ②都市での環境保全の取り組みなどについて、自分自身の意見を述べるができる。 ③都市での環境政策などについて提案することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明	
	2	都市と水環境①-都市の水収支	参考文献：①②④を読む
	3	都市と水環境②-水の供給と保全	同上
	4	都市と水環境③-那覇の都市河川	都市河川を調べる
	5	都市の大気環境と熱環境①-大気汚染の変遷と特徴	参考文献：①②を読む
	6	都市の大気環境と熱環境②-大気汚染物質とその対策 1	同上
	7	都市の大気環境と熱環境③-大気汚染物質とその対策 2	同上
	8	都市の大気環境と熱環境④-ヒートアイランド現象の特徴	参考文献：①②⑤を読む
	9	都市の大気環境と熱環境⑤-ヒートアイランド現象の対策	同上
	10	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出①-日本の都市	参考文献：①②を読む
	11	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出②-二酸化炭素の削減対策	同上
	12	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出③-都市への集中と交通	同上
	13	都市の省エネと環境保全：スマートシティ	参考文献：⑥を読む
	14	物質の循環と廃棄物①-循環型社会	参考文献：①②を読む
15	物質の循環と廃棄物②-廃棄物の問題と活用	同上	
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：特に指定はない。毎回レジメを配布する。 参考文献：①花木啓祐(1994)『都市環境論』岩波書店。②福岡義隆・本条毅(1995)『都市の風水土 都市環境学入門』朝倉書店。③都市環境学教材編集委員会編(2003)『都市環境学』森北出版。④吉越昭久編(2001)『人間活動と環境変化』古今書院。⑤森山正和編(2004)『ヒートアイランドの対策と技術』学芸出版社。⑥岡村久和(2011)「スマートシティ」アスキーメディアワークス。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>履修の心構え：講義に出席し内容を理解していない限りレポートや試験は書けません。従って、講義中は私語をつつしみ受講して下さい。途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。 学びをふかめるために：環境に関する新聞記事を読んだり、環境省http://www.env.go.jp/のWebサイトを見ることを推奨します。</p>
--------	---

評価	<p>テスト(40点)：上記の目標達成の①を評価します。 平常点(30点)：講義やDVD視聴の感想、講義への参加姿勢を評価します。 課題・レポート(30点)：授業で取り上げた課題に対する意見や討論内容の意見などを評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：多くの人口や産業が集まる都市を中心に、地域環境や環境政策などを学んでいるため、それらの課題を解決できる手法や取り組みを考えて欲しい。 関連科目：「環境資源経済論Ⅱ」「交通と環境」「環境政策論」「エコビジネス論」は受講して欲しい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境資源経済論Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 薫	2年	研究室 5-632 kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、自然環境や既存の産業・文化などの地域資源を活かした地域活性化の取り組みやその課題について考える。前半では、地域資源を活かした観光地振興について、後半では、自然環境資源を活用したエコツーリズムについて考察する。	地域資源や地域環境を活用した地域活性化や観光振興に興味ある学生を歓迎する。身近にある資源をどのように活用するかを考えよう。
到達目標	①地域資源を活用した観光振興や自然環境資源を活用したエコツーリズムなどに関する専門知識を事例を挙げながら説明できる。 ②地域資源や自然環境資源を活用した地域振興について、自分自身の意見を述べるができる。 ③地域振興の提案をすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明	
	2	地域資源の種類、観光資源の評価	参考文献：①を読む
	3	観光地の活性化①：観光による活性化の特徴、地域資源の活用	参考文献：②を読む
	4	観光地の活性化②：着地型観光の特徴と取り組み事例	参考文献：③を読む
	5	観光地の活性化③：コミュニティビジネスによる地域振興	参考文献：①を読む
	6	観光によるコミュニティビジネスの企画・立案・発表（各自）	企画書作成し、発表の準備
	7	観光地の活性化④：地域ブランディングによる地域振興	参考文献：②を読む
	8	グリーンツーリズムと地域振興	参考文献：④を読む
	9	都市観光地とまちづくり	参考文献：①を読む
	10	海岸観光地とまちづくり①	同上
	11	海岸観光地とまちづくり②	同上
	12	観光と自然環境①：エコツアーの効果と影響	参考文献：⑤を読む
	13	観光と自然環境②：環境収容能力、討論「どのガイドを優先すべきか」	同上、討論の意見をまとめる
	14	エコツーリズムの開発と運営	同上
15	エコツアーオペレーターと認証システム	同上	
16	試験		

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキスト：特に指定はない。毎回レジュメを配布する。</p> <p>参考文献：①片柳勉ほか編著(2013)『地域資源とまちづくりー地理学の視点から』古今書院。②敷田麻実ほか(2009)『観光の地域ブランディング』学芸出版社。③尾家建生・金井萬造編著(2008)『これでわかる！着地型観光地域が主役のツーリズム』学芸出版社。④井上和衛ほか(1996)『日本型グリーン・ツーリズム』都市文化社。⑤スー・ビートン（訳：小林英俊）(2002)『エコツーリズム教本』平凡社。</p>

学びの手立て
<p>履修の心構え：本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。</p> <p>学びを深めるために：観光に関する新聞を読んだり、観光庁http://www.mlit.go.jp/kankocho/、日本エコツーリズム協会http://www.ecotourism.gr.jp/のWebサイトをみることを推奨する。</p>

評価
<p>テスト（40％）：上記の到達目標の①を評価します。</p> <p>平常点（30％）：講義やDVD視聴の感想、講義への参加姿勢を評価します。</p> <p>課題・レポート（30％）：コミュニティビジネスの企画・立案・発表、授業内容の討論内容の意見を評価します</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：観光を視点を地域活性化やエコツーリズムなど学んでいるため、観光以外でも地域的課題を解決できるようにしたい。</p> <p>関連科目：「沖縄の観光」は受講して欲しい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ITの急速な発展を背景として、企業におけるIT活用の高度化はとどまることを知りません。次々と出現する技術あるいはコンセプトにより、この傾向はさらに加速度的に進行するものと思われます。本講義では、企業経営におけるITの役割に着目し、その段階的な進歩過程と各フェイズにおける企業サイドからのITへの期待の変容などを論理的考察しながらより定性的な理解を目指します。	情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く講義、演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。
到達目標	① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 情報の特質と価値 2週目 情報技術の進化 3週目 通信ネットワーク技術の進化 4週目 セキュリティシステムと暗号化技術 5週目 インターネットと企業 6週目 ケーススタディー（1）：情報化の歴史 7週目 情報の産業化：情報産業の発展 8週目 企業の情報化：企業における情報技術の活用 9週目 情報技術と競争優位の戦略① 10週目 情報技術と競争優位の戦略② 11週目 知的財産権と競争優位 12週目 ケーススタディー（2）：特許権と競争優位 13週目 ケーススタディー（3）：著作権と競争優位 14週目 デファクト・スタンダードと競争優位 15週目 ケーススタディー（4）：デファクト・スタンダード 16週目 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。
	学びの手立て ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解消してください。
評価	成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、出席状況および受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(20点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「企業情報論Ⅱ」の受講を推奨します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ITの発展は企業の高度情報化を促し、その構造を根本的に変革する重要なファクターとなっている。本講義では、企業情報論Ⅰで取り上げた企業と情報技術の多層的な関係を十分に理解したとの前提に基づき、企業における情報システムのマネジメントに着目し、様々なビジネスモデルにおける競争戦略上の優位性について解説する。また近年注目されているCGMなどについても取り上げる。	情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く講義、演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。
到達目標	① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 経営情報システムの進化 2週目 情報システムマネジメントの原理① 3週目 情報システムマネジメントの原理② 4週目 情報システムのマネジメントモデル 5週目 ITマネジメントとアウトソーシング 6週目 通信ネットワークを活用したアウトソーシング 7週目 ケーススタディ(1)：アウトソーシング 8週目 中小企業の情報システム 9週目 ECの現状 10週目 ケーススタディ(2)：EC向けASP 11週目 ECにおける法的課題 12週目 ビジネスモデル特許 13週目 遠隔地域における情報技術の戦略的活用 14週目 ロジスティックシステムとSCM 15週目 ケーススタディ(3)：物流の情報化 16週目 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。
	学びの手立て ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解消してください。
評価	成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、出席状況および受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(20点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「卒業論文演習Ⅰ」そして「卒業論文演習Ⅱ」における卒業論文の作成に役立ててもらえればと考えます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業と産業財産権	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-有賀 俊二	3年	ptt637@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業で知的財産権担当として実践できる実務的な講座とする。 1) 知的財産権の魅力を探る。 2) 商標・特許の調査を特許庁のHPで実践する。 3) 特許庁へ商標出願を実践する。	メッセージ 「下町ロケット」など知的財産権問題が注目される近年、増々重要性を増す、特許・商標などの産業財産権の魅力を実践を通して十分に味わってもらい、沖縄から世界を目指す人材になってもらいたい。
	到達目標 情報化社会において、即戦力となる知財スキルを備えた人材を育成する。知財の実践的な知識の習得、知財の発想力・創造力の育成、知財の実践力・対応力の育成、特許庁の特許・商標・意匠検索システムの活用スキルを習得し、特許庁への出願実践スキルを習得。県内トップクラスの知財担当者となることできる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	知的財産権制度の全体概要	
	3	企業の知的財産権活用事例研究	
	4	商標制度の概要と商標権の役割	オリジナル商標の検討
	5	特許制度の概要：特許公報の読み方	同上
	6	実用新案制度の概要と特許法と相違	オリジナル商標の提出
	7	意匠制度の概要と意匠権の役割	同上
	8	著作権、不正競争防止法と知的財産権	同上
9	商標情報検索実習	オリジナル商標の先願検索	
10	商標情報分析、調査報告書の作成演習	同上	
11	意匠・特許情報検索実習	商標調査報告書の提出	
12	商標出願書類の作成演習 1	同上	
13	商標出願書類の作成演習 2	商標出願書類の作成	
14	意匠出願書類の作成演習	商標出願書類の提出	
15	簡単な特許出願書類の作成演習	同上	
16	知財トラブル事例：出願課題提出	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回、オリジナルの資料をMoodleで提供します。		
	学びの手立て 講義の資料、課題提出、オリジナル商標レポートなどすべてMoodleで配布、提出となります。 Moodleの取扱いは、サポートの学生が付く予定です。 実践的講義です。講義の知識を活かしてオリジナル商標を自分で考え、自分で調査し、実際に特許庁に提出できる書類を作成します。実際に在学中に商標権者となった学生もいます。		
	評価 講義において、課題を4回程度出します。 期末試験に替え、以下のオリジナル商標の各レポートを順次提出してもらいます。 1) 商標エントリー票、 2) 調査報告書、 3) 商標出願書類 配点は、課題(30%)、商標エントリー票(20%)、調査報告書(25%)、商標出願書類(25%)とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義で実際に特許庁に出願できる商標出願書類を作成します。実際に特許庁に出願して実績を作り、この実績を就職活動に活かすことができます。また、就職後の企業内知財担当を担うことができます。近年商標出願は企業における必須戦略です。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1 年	ohi@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。

到達目標
1. PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。 2. 認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 3. スクラッチによるプログラミングができる。 4. ミニゲームの企画・開発ができる。 5. 自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	配布資料の理解・課題の作成
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	配布資料の理解・課題の提出
	4	スクラッチの基本操作①－スプライトの動き	配布資料の理解・課題の作成
	5	スクラッチの基本操作②－制御命令	配布資料の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作③－サウンド制御	配布資料の理解・課題の作成
	7	スクラッチの基本操作④－見た目の制御	配布資料の理解・課題の提出
	8	スクラッチの基本操作⑤－条件分岐	配布資料の理解・課題の作成
	9	シューティングゲームの作成①	配布資料の理解・課題の提出
	10	シューティングゲームの作成②	配布資料の理解・課題の作成
	11	シューティングゲームの作成③	配布資料の理解・課題の提出
	12	個人製作によるゲームの企画・開発①	配布資料の理解・課題の作成
	13	個人製作によるゲームの企画・開発②	プレゼンテーションの準備
	14	最終発表会①	プレゼンテーションの準備
15	最終発表会②	プレゼンテーションの準備	
16	総括		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	・石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム ・阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社 資料は随時配布します。また参考文献等は講義時にて紹介します。

学びの手立て
・演習科目のため皆出席を原則とします。 ・実習を含む講義内容であるため、パソコン教室での講義となる。 ・学籍番号毎にクラスが割り当てられているため、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めません。 ・本演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要です。

評価
通常課題（合計50点満点）、最終課題（50点満点）および出席率をもとに以下のように評価を算定する。 (通常課題点数+最終課題点数) × (出席率)

学びの継続
次のステージ・関連科目 本演習の後、後期の「基礎演習Ⅱ」にて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の「専門演習基礎」に臨むこととなります。またその後も必須科目である、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「卒業論文演習Ⅰ」、「卒業論文演習Ⅱ」へと関係するため、誠心誠意取り組んでもらいたいと考えます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1 年	k. ooyama@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。

到達目標
1. PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。 2. 認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 3. スクラッチによるプログラミングができる。 4. ミニゲームの企画・開発ができる。 5. 自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	配布資料の理解・課題の提出
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	配布資料の理解・課題の提出
	4	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き	教科書の理解・課題の提出
	5	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令	教科書の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作 (3) サウンド制御	教科書の理解・課題の提出
	7	スクラッチの基本操作 (4) 見た目の制御	教科書の理解・課題の提出
	8	スクラッチの基本操作 (5) 条件分岐	教科書の理解・課題の提出
	9	シューティングゲームの作成 (1)	教科書の理解・課題の提出
	10	シューティングゲームの作成 (2)	教科書の理解・課題の提出
	11	シューティングゲームの作成 (3)	教科書の理解・課題の提出
	12	個人製作によるゲームの企画・開発 (1)	教科書の理解・課題の提出
	13	個人製作によるゲームの企画・開発 (2)	教科書の理解・課題の提出
	14	最終発表会 (1)	教科書の理解・課題の提出
15	最終発表会 (2)	教科書の理解・課題の提出	
16	総括		

テキスト・参考文献・資料など
講義時に指定する。 ・石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム ・阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社

学びの手立て
・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通達する。 ・学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。 ・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎(必修科目)が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。

評価
通常課題(合計50点満点)、最終課題(50点満点)および出席率をもとに以下のように評価を算定する。 (通常課題点数+最終課題点数) × (出席率)

学びの継続
次のステージ・関連科目 本演習の後は、後期の基礎演習Ⅱにて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	1 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。</p>	<p>プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。 認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 スクラッチによるプログラミングができる。 ミニゲームの企画・開発ができる。 自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	配布資料の理解・課題の提出
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	配布資料の理解・課題の提出
	4	図書館オリエンテーション	課題の提出
	5	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き	教科書の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令	教科書の理解・課題の提出
	7	スクラッチの基本操作 (3) 相互プロジェクト	教科書の理解・課題の提出
	8	スクラッチの基本操作 (4) タイピングソフト	教科書の理解・課題の提出
	9	スクラッチの基本操作 (5) インベーダーゲーム	教科書の理解・課題の提出
	10	スクラッチの基本操作 (6) さんすうドリル	教科書の理解・課題の提出
	11	スクラッチの基本操作 (7) ネコ探偵物語	教科書の理解・課題の提出
	12	ゲーム制作 (1) 企画	課題の提出
	13	ゲーム制作 (2) 開発	課題の提出
	14	最終発表会 (1) 第1グループ	課題の提出
15	最終発表会 (2) 第2グループ	課題の提出	
16	総括		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 石原正雄「スクラッチ2.0アイデアブック」カットシステム <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。) ・ 実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・ 授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通達する。 ・ 学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。 ・ この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎(必修科目)が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。
--------	--

評価	<p>通常課題(合計50点満点)、最終課題(50点満点)および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 (通常課題得点+最終課題得点) × (出席率)</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習の後は、後期の基礎演習Ⅱにて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと連携するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に、ブロックプログラミングによる論理的思考の育成があります。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	スクラッチを用いて、論理的に物事を組み立てる能力を育成する。本演習ではスクラッチによるグラフィカルなユーザーインターフェースを用いてプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。少し具体的に言えば、本講義では、コンピュータの基本的な処理について学び、簡単な計算や反復計算、条件分岐のプログラム作成を通して、プログラミングについて理解を深める。	ブロック・プログラミングから論理的思考方法を学んでもらいます。次にJava言語を用いて簡単なプログラムをしてもらいます。
到達目標	簡単なシューティングゲームを完成させます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	スクラッチとは	授業共有ファイル その1
	2	スクラッチの基本操作(1) スプライトの動き	授業共有ファイル その2
	3	スクラッチの基本操作(2) 制御命令	授業共有ファイル その3
	4	スクラッチの基本操作(3) サウンド制御	授業共有ファイル その4
	5	スクラッチの基本操作(4) 見た目の制御	授業共有ファイル その5
	6	スクラッチの基本操作(5) 条件分岐	授業共有ファイル その6
	7	シューティングゲームの作成(1)	授業共有ファイル その7
	8	シューティングゲームの作成(2)	授業共有ファイル その8
	9	シューティングゲームの作成(3)	授業共有ファイル その9
	10	Javaでの開発手順	授業共有ファイル その11
	11	画面に文字を表示するプログラムを記述する。	授業共有ファイル その12
	12	プログラムの作成I(順次処理)	授業共有ファイル その13
	13	プログラムの作成II(if文:分岐処理)	授業共有ファイル その14
14	プログラムの作成III(for文:反復処理)	授業共有ファイル その15	
15	二つの関数の交点の算出プログラムの作成。	授業共有ファイル その16	
16	課題提出	授業共有ファイル その1~16	
実践	テキスト・参考文献・資料など	石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム、ポータルの授業共有ファイルに掲示するプリント(各自ダウンロード)。 やさしいJava、ソフトバンク、高橋麻奈	
	学びの手立て	毎時間の授業内容は、授業共有ファイルにアップロードされます。それを参照しながら、講義を進めていきます。スクラッチは、無料のソフトウェアなので、自宅のPCで学習&ソフト開発ができます。	
	評価	出席:規定通り。 提出物:10回程度の提出物。 授業態度:他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例:おしゃべり等)。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理システム演習。専門演習基礎。卒業論文演習。プログラミング。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	1年	初回の授業時に決めます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「情報を整理・分析する能力」と「論理的に自分の意見を伝える能力」— この2つ能力は、一般的なビジネスの場や、これからの大学生活においても重要です。この演習の前半は、日々のニュースで目にするようなトピックに関する情報やデータを整理・分析を養います。そして、後半では発表やグループ討論を行う事で、「論理的なプレゼンテーションを行うスキル」を身につけます。</p>	<p>次の項目に一つでも当てはまる方を熱烈歓迎します。①静かになった時、「そろそろ発言しなきゃいけないかな」と思って発言する人。②主体的に行動できる人。</p>
到達目標	<p>情報を全く収集せずに述べられた意見は「思い込み」でしかありません。しかし、情報を収集すれば良いということでもありません。自分の意見を効率的に伝えるには、情報を整理・分析して論理的に話す事が重要です。そこで、このゼミでは、「情報を整理・分析する能力」と「論理的に自分の意見を伝える能力」を養います。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, 班分け	
	2	参考文献の収集	
	3	データの読み方	
	4	データの読み方	
	5	経済統計	
	6	経済統計	
	7	経済統計	
8	経済統計		
9	経済統計		
10	経済統計		
11	経済統計		
12	経済統計		
13	課題報告		
14	課題報告		
15	課題報告		
16			
テキスト・参考文献・資料など	山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門-研究のための8つの力-』ミネルヴァ書房, 2011年		
学びの手立て	このゼミでは、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルや情報やデータを整理・分析する能力を身につける事を目標とします。初回にも説明しますが、出席と課題の実践は必要条件ですから、自律的なスケジュールリングができない方は注意して下さい。		
評価	課題提出30%、成果報告70%とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Excelの表計算・グラフ作成をを自分で実行できるようになる。 国内総支出の考え方によって景気を観察する力を身につける。 経済が「働く、給料をもらう、買い物をする」世の中の仕組みであることを理解する。	メッセージ 初学者を対象にした実習です。 PCやインターネットを使った経済学の学習に興味を持つきっかけにしたいと思います。
	到達目標 Excelによる表計算、グラフ作成の結果を説明できる。 国内総支出・県内総支出のデータと式を使って景気を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	沖縄県と全国データの観察①
	3	沖縄県と全国データの観察②
	4	沖縄県と全国データの観察③
	5	生産・分配・支出とデータ
	6	実物部門・金融部門とデータ
	7	表計算とグラフ作成の基礎
	8	国民経済計算・県民経済計算
		時間外学習の内容
		シラバスを読んでおく
		利用データのWebサイトを確認
		データの金額・規模を確認する
		経済の仕組みとデータを復習
		生産・分配・支出について復習
		実物部門・金融部門について復習
		Excelの入力を復習する
		Excelの表計算を復習する
		設備投資の考え方・計算を復習
		政府支出の考え方・計算を復習
		$Y=C+I+G+(EX-IM)$ の計算を復習
		$Y=C+I+G+(EX-IM)$ の計算を理解
		寄与度の考え方・計算の復習
		寄与度の計算結果を理解する
		回帰分析の計算を復習する
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布する。 参考文献 [1]唐渡広志『44の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2013年。 [2]山本祐・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。	
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。	
	評価 提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：国内総支出・県内総支出について、Excelを利用した計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 PCやインターネットを使った経済学の学習を続けてもらいたい。 関連科目として、「産業情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「データ解析論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 基本的な情報収集力、分析力、自己の主張、見解を論理的にまとめる能力を身につけます。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	1年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習の目的は、産業情報学科における今後の学習に活かすため情報の収集・分析、レポート・論文作成、プレゼンテーションの基本を身につけることです。この演習では、まず身近な経済統計情報を基に情報の収集、整理、統計データの基本的な分析について学びます。次に報告レポートの作成を通じて自己の主張、見解を論理的にまとめること、プレゼンテーションについて学びます。	社会においては、情報収集能力、分析力、分析したことをまとめる能力が求められています。基礎演習Ⅱで、これらの基礎をしっかりと学んでください。

到達目標
①主にインターネットを用いて、信頼のある確かな情報を収集する技能を習得します。
②ワード、エクセルを用いて、レポート、論文を作成する基本を習得します。
③パワーポイントなどにより、作成したレポート、論文を発表するための資料作成、プレゼンテーションの技能を習得します。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	基礎演習Ⅱの基本事項	
	2	インターネットを通じた情報収集①	政府・大学機関サイト情報収集
	3	インターネットを通じた情報収集②	政府・大学機関サイト情報収集
	4	統計データの分析①（増加率、構成比）	基本概念の理解、データ整理
	5	統計データの分析②（寄与率、寄与度）	基本概念の理解、データ整理
	6	統計データの分析③（変動係数について）	基本概念の理解、データ整理
	7	統計データの分析④（ローレンツ曲線について）	基本概念の理解、データ整理
	8	統計データの分析⑤（記述統計①）	基本概念の理解、データ整理
	9	統計データの分析⑥（記述統計②）	基本概念の理解、データ整理
	10	レポート作成の基本①	レポートの形式を学習
	11	レポート作成の基本②	レポート、目次の作成
	12	レポート作成の基本③	レポートの作成
	13	プレゼンテーションの基本①	プレゼンテーション原稿作成
	14	プレゼンテーションの基本②	報告の準備
15	レポート報告とディスカッション②	ディスカッションの準備	
16	レポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など
テキストは特にしていません。演習の際に参考文献などを紹介します。
①『大学生のためのレポート論術』、小笠原喜康、講談社
②『経済論文の作法』、小浜裕久・木村福成、日本評論社

学びの手立て
①クラス分けがありますので、指定されてクラスで受講して下さい。
②学籍番号順に座席指定を行います。
③欠席する場合は欠席届をだしてください。遅刻した場合は減点となります。
④演習中に演習以外の事（アイフォンを操作したり他のサイトを見ているなど）を行った場合は、「不可」の対象となります。

評価
出席状況(100点)、課題の提出(100点)、レポートの提出・報告(100点)をもとに総合的に評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目
専門演習基礎、プログラミング理論、情報リテラシー演習

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	1年	初回の授業時に決めます。	

学びの準備	ねらい 「情報を整理・分析する能力」と「論理的に自分の意見を伝える能力」— この2つ能力は、一般的なビジネスの場や、これからの大学生活においても重要です。この演習の前半は、日々のニュースで目にするようなトピックに関する情報やデータを整理・分析を養います。そして、後半では発表やグループ討論を行う事で、「論理的なプレゼンテーションを行うスキル」を身につけます。	メッセージ 次の項目に一つでも当てはまる方を熱烈歓迎します。①静かになった時、「そろそろ発言しなきゃいけないかな」と思って発言する人。②主体的に行動できる人。
	到達目標 情報を全く収集せずに述べられた意見は「思い込み」でしかありません。しかし、情報を収集すれば良いということでもありません。自分の意見を効率的に伝えるには、情報を整理・分析して論理的に話す事が重要です。そこで、このゼミでは、「情報を整理・分析する能力」と「論理的に自分の意見を伝える能力」を養います。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, 班分け	
	2	参考文献の収集	
	3	データの読み方	
	4	データの読み方	
	5	経済統計	
	6	経済統計	
	7	経済統計	
	8	経済統計	
	9	経済統計	
	10	経済統計	
	11	経済統計	
	12	経済統計	
	13	課題報告	
	14	課題報告	
	15	課題報告	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門-研究のための8つの力-』ミネルヴァ書房, 2011年		
	学びの手立て このゼミでは、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルや情報やデータを整理・分析する能力を身につける事を目標とします。初回にも説明しますが、出席と課題の実践は必要条件ですから、自律的なスケジュールリングができない方は注意して下さい。		
	評価 課題提出30%、成果報告70%とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎数学	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 数学への取り組み方を見なおす。具体的には、 ①解答を待たずに自分で計算する。 ②計算プロセスを省略せずに丁寧に記述する、 ③復習に利用できるノートを作成する。 の3つを実行する。	メッセージ 専門科目を受講するための基礎学力の養成が目的です。 また、本講義程度の計算力は、就職試験でも必要になります。頑張りましょう。
	到達目標 高校数学Ⅰ・Aの主な学習内容について、計算ミスなく解答できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済情報と数学：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	式と計算①	テキスト第6章問題A 1~3
	3	式と計算②	第3回練習問題(配布プリント)
	4	直線と1次関数	第4回練習問題(配布プリント)
	5	まとめと問題練習1	第5回配布プリントの復習
	6	2次関数と最大・最小①	第6回練習問題(配布プリント)
	7	2次関数と最大・最小②	第7回練習問題(配布プリント)
	8	2次関数と最大・最小③	第6・7回練習問題の復習
9	2次不等式	第9回練習問題(配布プリント)	
10	指数と対数、いろいろな関数	第10回練習問題(配布プリント)	
11	まとめと問題練習2	第11回配布プリントの復習	
12	個数の処理と確率①	第12回練習問題(配布プリント)	
13	個数の処理と確率②	第13回練習問題(配布プリント)	
14	個数の処理と確率③	第14回練習問題(配布プリント)	
15	まとめと問題練習3	第15回配布プリントの復習	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト [1]木村哲三・浦田健二『経済学を学ぶための基礎数学 第2版』同文館出版、2010年。 参考文献 [1]浅利一郎・山下隆之『はじめよう経済数学』日本評論社、2003年。 [2]尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学:高校数学からきちんと攻める』日本評論社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義中は自分のアタマと手を使って計算する。ノート記述だけでは理解につながらないので注意すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：基本計算から2次関数まで計算ミスなく解答できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎学力として、本講義程度の計算力は維持してもらいたい。 関連科目として、「経済原論Ⅰ・Ⅱ」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎数学	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1 年	企業システム学科 仲地健 email: knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい "情報"とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ（情報）を作り出すことを情報処理という。本講義では情報処理に必要な基本的な知識を学ぶ。	メッセージ 本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。
	到達目標 専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	講義の復習および課題演習
	2	式と計算(i)	講義の復習および課題演習
	3	式と計算(ii)	講義の復習および課題演習
	4	関数(i)	講義の復習および課題演習
	5	関数(ii)	講義の復習および課題演習
	6	平面図形と式(i)	講義の復習および課題演習
	7	平面図形と式(ii)	講義の復習および課題演習
	8	方程式と不等式(i)	講義の復習および課題演習
	9	方程式と不等式(ii)	講義の復習および課題演習
	10	方程式と不等式(iii)	講義の復習および課題演習
	11	順列と組合せ(i)	講義の復習および課題演習
	12	順列と組合せ(ii)	講義の復習および課題演習
	13	確率(i)	講義の復習および課題演習
	14	確率(ii)	講義の復習および課題演習
	15	確率(iii)	講義の復習および課題演習
	16	試験・総括	講義の復習および課題演習
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・石村園子「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」共立出版 ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験結果、課題レポートにより評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報数学」および「経済数学」がある。また、情報処理に関連する講義科目が関連科目となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融経済論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習内容が実生活の何処のことか常にイメージして受講する。 貯める立場・借りる立場で金融を考える。 経済学を使って金融を考える。	メッセージ 金融は「貯める・借りる」世の中の仕組みの事です。 「実生活に役立つ知識」として金融論を身につけるきっかけにしてください。
	到達目標 金融政策を自分の言葉で説明できる。 金融システムを自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	貨幣	マネーの定義を復習する。
	3	金利①	金利の重要概念を復習する。
	4	金利②	金利と債券価格を復習する。
	5	金融政策のためのマクロ経済学①	IS-LMモデルを復習する。
	6	金融政策のためのマクロ経済学②	金融政策の枠組みを復習する。
	7	金融政策の課題と日本銀行	日本の金融政策を復習する。
	8	金融政策の基本手段と新しい展開	非伝統的金融政策を復習する。
	9	金融システムと金融仲介機関の枠割	信用創造を復習する。
	10	銀行以外の金融機関	諸金融機関について復習する。
	11	金融システム安定化のための政策	ブルーデンス政策を復習する。
	12	金融機関の破綻への対応策	セーフティ・ネットを復習する。
	13	金融市場に関する規制	諸金融規制について復習する。
	14	間接金融型の金融商品	間接金融型の金融商品を復習する。
	15	直接金融型の金融商品	直接金融型の金融商品を復習する。
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。 参考文献 [1]家森信善『金融論』中央経済社、2016年。 [2]島村高嘉・中島真志『金融読本 第30版』東洋経済新報社、2017年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。	
	学びの手立て	履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 教材プリントの内容を理解するための解説を行う。講義中は集中して説明を聞き、ノート記述すること。	
	評価	期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：金融政策・ブルーデンス政策について説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済論が、「貯める・借りる」世の中の仕組みを説明する経済学の一分野であることを覚えてもらいたい。 関連科目として、「国際金融論」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報処理の基礎技能を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営科学	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業経営における最適戦略を模索する上で様々な科学的アプローチが提案されている。これらは第二次世界大戦中の軍事目的の取り組みが発端だと言われており、複雑化・多様化した現代社会においては合理的な判断は必須となっている。本講義では、経営に関する科学的アプローチについて紹介し議論する。	メッセージ 具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。
	到達目標 企業における業務計画の科学的アプローチを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	講義の復習および課題
	2	線形計画法(i)	講義の復習および課題
	3	線形計画法(ii)	講義の復習および課題
	4	線形計画法(iii)	講義の復習および課題
	5	日程計画とPERT(i)	講義の復習および課題
	6	日程計画とPERT(ii)	講義の復習および課題
	7	日程計画とPERT(iii)	講義の復習および課題
	8	日程計画とPERT(iv)	講義の復習および課題
9	在庫管理(i)	講義の復習および課題	
10	在庫管理(ii)	講義の復習および課題	
11	在庫管理(iii)	講義の復習および課題	
12	在庫管理(iv)	講義の復習および課題	
13	待ち行列理論(i)	講義の復習および課題	
14	待ち行列理論(ii)	講義の復習および課題	
15	待ち行列理論(iii)	講義の復習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・福田，児玉，中道「OR入門」多賀出版 ・大村平「ORの話」日科技連		
	学びの手立て 「履修の心構え」 初回講義を欠席した者は、仮登録を取り消すので注意すること。 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験結果，出席状況，レポートにより評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「意思決定論」がある。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報システム論	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	2年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>企業経営における情報化や情報システム導入の利点を理解し、情報システムの重要性を学ぶ。経営情報システムの構成、経営情報システムの効果、情報化のインパクトなどを中心に講義を進めていく。具体的には情報技術の経営・経済への応用事例や様々な分野の取り組みを解説する。特に、企業における先進的情報システムの事例を取り上げ、今後の展開としてどのような点が重要かを議論する。</p>	<p>近未来に対する解決力・創造力を養うための専門科目としての位置づけで、これから社会で必要とされる経営情報システムの仕組みを理解する。積極的に講義に参加し、受講者が個々におもしろいアイデアを見つけ出すというようなモチベーションで望んで欲しい。</p>
到達目標	<p>これからの社会はコンピュータ機器の利用およびインターネットなしでは考えられないため、このような技術が未来をどのように変えていくのかを自ら考え、積極的に参画していく社会はどのように変容していくのかを想像することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンスー情報システムとはー	ウェブサイトからのダウンロード
	2	経営情報システム	技術用語の復習
	3	経営戦略と情報システム	技術用語の復習
	4	戦略的情報システム	技術用語の復習
	5	意思決定と情報システム	技術用語の復習
	6	eビジネスモデル	事例の考察
	7	前半まとめ及び確認問題	課題
8	意思決定活動と応用ソフトウェア1	技術用語の復習	
9	意思決定活動と応用ソフトウェア2	技術用語の復習	
10	企業事例・ERP	事例の考察	
11	コンピュータの歴史とハードウェア1	技術用語の復習	
12	コンピュータの歴史とハードウェア2	技術用語の復習	
13	ソフトウェアとエンドユーザーコンピューティング	技術用語の復習	
14	コンピュータネットワークとグループウェア	技術用語の復習	
15	後半まとめおよび最終試験	考察	
16	試験解答および総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	ウェブサイトで講義時に使用する資料を配布（講義で使用する資料をPDF化し公開する）するため、初回の講義は必ず出席すること。参考文献は講義時に紹介する。		
	学びの手立て		
	この講義で学んだ経営情報システムに関する知識や技術を応用すれば、専門演習などの卒業論文等ですぐに利用することが可能である。また、卒業研究や社会に出てから情報システムを構築および利用したいと考える者は受講するのが望ましいと考える。インターネットを取り巻く環境は著しく変化し、これからも速いスピードで変容し続けるため、情報収集能力が必要となる。膨大かつ陳腐化が激しい情報を積極的に収集し、自ら考える能力を養うことが必要である。		
	評価		
	出席状況・課題レポートと試験を総合的に判断し評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	ウェブマーケティングや専門ゼミ等でこの講義で学んだ技術や知識が生かせると考える。これから、起業する者、就職して本格的に情報系の仕事をする者、インターネットを利用したビジネスを考えている者などは、この講義で得た知識が役に立つと思われる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習内容が生活の何処のことかイメージできるようにする。 経済学の考える手順に慣れる。 現実の経済現象をどのように考えたらよいか、理解する。	メッセージ 初学者を対象にした講義です。 経済に興味を持つ、経済分野の学習を始める、きっかけにしても らいたいです。
	到達目標 買い手と売り手それぞれの考え方について自分の言葉で説明できる。 有効需要とマクロ経済政策について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済学とはどのような学問か：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	需要と供給①	テキスト第1章
	3	需要と供給②	テキスト第1章
	4	需要曲線と消費者行動①	テキスト第2章
	5	需要曲線と消費者行動②	テキスト第2章
	6	費用の構造と供給行動①	テキスト第3章
	7	費用の構造と供給行動②	テキスト第3章
	8	学習内容の復習1	テキスト第1～3章の演習問題
9	経済をマクロからとらえる①	テキスト第9章	
10	経済をマクロからとらえる②	テキスト第9章	
11	有効需要と乗数メカニズム①	テキスト第10章	
12	有効需要と乗数メカニズム②	テキスト第10章	
13	マクロ経済政策①	テキスト第12章	
14	マクロ経済政策②	テキスト第12章	
15	学習内容の復習2	テキスト第9・10・12章の演習問題	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト [1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社、2015年。 参考文献 [1]安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。 [2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義内容の要点をつかむためのプリントを毎回配布する。講義中は集中して説明を聞き、記述すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：買い手と売り手について経済学の考える手順で説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世の中の仕組みを説明するための道具として、経済学を身に付けてもらいたい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 論理的に自分の主張を伝える — そのような能力は一般的なビジネスパーソンにとっても、これから就職の面接に臨む皆さんにとっても大変重要なものでしょう。経済学は、様々な社会経済問題について、論理的思考を突き詰めて現象を説明・予測しようとする学問です。将来、みなさんがビジネスの世界で活躍するのに役立つ知識として経済学のツールを習得してもらう事が目的です。	メッセージ 経済学的な考え方を身につけると、「社会を見る目」が変わります。なお、この講義ではミクロ経済学の範囲に重点を置いて説明します。
	到達目標 新聞やニュースで企業の活動や政府の行動を目にしたときに、経済学のツールを使うとどのように理解できるのかを考える力を養います。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、経済学の10大原理	
	2	経済学の10大原理	予習：テキスト第3章
	3	相互依存と貿易からの利益	予習：テキスト第3章
	4	相互依存と貿易からの利益	復習：講義資料の見直し
	5	市場における需要と供給の作用	予習：テキスト第4章
	6	市場における需要と供給の作用	復習：講義資料の見直し
	7	今までの復習と質問受付	
	8	需要、供給、および政府の政策	予習：テキスト第5章
9	需要、供給、および政府の政策	復習：講義資料の見直し	
10	弾力性		
11	消費者、生産者、市場の効率性	予習：テキスト第6章	
12	消費者、生産者、市場の効率性	復習：講義資料の見直し	
13	外部性	予習：テキスト第7章	
14	外部性	復習：講義資料の見直し	
15	まとめ & 小テスト		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：グレゴリー・マンキュー 『マンキュー入門経済学』，東洋経済新報社		
	学びの手立て 【受講時の態度について】 基本的な受講マナー（私語、携帯電話など）を守ってください。 【受講に際して】 授業で学んだ概念や理論を使って、最近の経済ニュースについて考えてください。 【講義方法】 テキストの内容に沿った形で、パワーポイントのスライドを用いて授業を行います。		
	評価 30%：授業課題レポート（第8回目もしくは9回目の講義内で、レポート課題を出題する。） 70%：15回目に行うテスト		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済原論1では、「家計や企業がどのように意思決定をしているのか」ならびに「家計や企業がどのように市場で相互作用しているのか」について学びました。この講義では、「失業や経済成長などの経済全体に関わる現象」について考えます。	メッセージ 経済学的な考え方を身につけると、「社会を見る目」が変わります。なお、この講義ではマクロ経済学の範囲に重点を置いて説明します。
	到達目標 失業や経済成長に関するニュースを目にしたときに、経済学のツールを使うとどのように理解できるのかを考える力を養います。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、ミクロ経済学の復習	
	2	ミクロ経済学の復習	予習：テキスト第8章
	3	国民所得の測定	予習：テキスト第8章
	4	国民所得の測定	復習：講義資料の見直し
	5	生産費の測定	予習：テキスト第9章
	6	生産費の測定	復習：講義資料の見直し
	7	今までの復習と質問受付	
	8	生産と成長	予習：テキスト第10章
	9	生産と成長	復習：講義資料の見直し
	10	失業	
	11	貯蓄、投資と金融システム	予習：テキスト第11章
	12	貯蓄、投資と金融システム	復習：講義資料の見直し
	13	総需要と総供給	予習：テキスト第12章
	14	総需要と総供給	復習：講義資料の見直し
	15	まとめ & テスト	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：グレゴリー・マンキュー 『マンキュー入門経済学』，東洋経済新報社		
	学びの手立て 【受講時の態度について】 基本的な受講マナー（私語、携帯電話など）を守ってください。 【受講に際して】 授業で学んだ概念や理論を使って、最近の経済ニュースについて考えてください。 【講義方法】 テキストの内容に沿った形で、パワーポイントのスライドを用いて授業を行います。		
	評価 30%：授業課題レポート（第8回目もしくは9回目の講義内で、レポート課題を出題する。） 70%：期末テスト		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習内容が生活の何処のことかイメージできるようにする。 経済学の考える手順に慣れる。 現実の経済現象をどのように考えたらよいか、理解する。	メッセージ 初学者を対象にした講義です。 経済に興味を持つ、経済分野の学習を始める、きっかけにしても らいたいです。
	到達目標 資源配分の視点で市場の諸問題を自分の言葉で説明する。 マクロ経済の諸問題を自分の言葉で説明する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済学について：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	市場取引と資源配分①	テキスト第4章
	3	市場取引と資源配分②	テキスト第4章
	4	独占と競争の理論①	テキスト第5章
	5	独占と競争の理論②	テキスト第5章
	6	市場の失敗①	テキスト第6章
	7	市場の失敗②	テキスト第6章
	8	学習内容の復習1	テキスト第4～6章の演習問題
9	貨幣の機能①	テキスト第11章	
10	貨幣の機能②	テキスト第11章	
11	インフレ・デフレと失業①	テキスト第13章	
12	インフレ・デフレと失業②	テキスト第13章	
13	経済成長と経済発展①	テキスト第15章	
14	経済成長と経済発展②	テキスト第15章	
15	学習内容の復習2	テキスト第11・13・15章の演習問題	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト [1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社、2015年。 参考文献 [1]安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。 [2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義内容の要点をつかむためのプリントを毎回配布する。講義中は集中して説明を聞き、記述すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：買い手と売り手について経済学の考える手順で説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世の中の仕組みを説明するための道具として、経済学を身に付けてもらいたい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 公式の計算を着実に実行する。 解答に到達するために必要な基本計算をミスなく実行する。 経済学で利用する数学がどの様なものか、大まかに理解する。	メッセージ 2年次以降の専門科目を学習する準備がねらいです。 数学の得意・不得意よりも、講義内容をコツコツ復習計算する学びの態度がポイントです。
	到達目標 偏微分と線形代数の基本内容について、計算ミスなく解答できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済情報と数学：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	微分の基本計算	第2回練習問題(プリント配布)
	3	微分の公式と計算①	第3・4回練習問題(プリント配布)
	4	微分の公式と計算②	第3・4回練習問題(プリント配布)
	5	1変数関数の極大・極小	第5回練習問題(プリント配布)
	6	偏微分と全微分①	第6回練習問題(プリント配布)
	7	偏微分と全微分②	第7回練習問題(プリント配布)
	8	偏微分と全微分③	第8回練習問題(プリント配布)
	9	まとめと問題練習1	第9回配布プリントの復習
	10	線形代数の基礎①	第10回練習問題(プリント配布)
	11	線形代数の基礎②	第11回練習問題(プリント配布)
	12	行列式と固有値①	第12回練習問題(プリント配布)
	13	行列式と固有値②	第13回練習問題(プリント配布)
	14	行列式と固有値③	第14回練習問題(プリント配布)
	15	まとめと問題練習2	第15回配布プリントの復習
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。 参考文献 [1] 浅利一郎・山下隆之『はじめよう経済数学』日本評論社、2003年。 [2] 尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学:高校数学からきちんと攻める』日本評論社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 講義中は自分のアタマと手を使って計算する。ノート記述だけでは理解につながらないので注意すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：微分の基本計算から偏微分まで計算ミスなく解答できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の学習を、経済学の様々な分野を学ぶきっかけにしてもらいたい。 関連科目として、「経済原論Ⅰ・Ⅱ」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際金融論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 外国為替レートの動向が実生活の何処と関わるのか、常にイメージして受講する。 貯める立場・借りる立場で国際金融を考える。 経済学を使って国際金融を考える。	メッセージ 国際金融は国境を越えた「貯める・借りる」世の中の仕組みのことです。 「実生活に役立つ知識」として国際金融論を身につけるきっかけにしてください。
	到達目標 外国為替レートの決定理論を自分の言葉で説明できる。 国際金融市場の動向について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	為替レートと外国為替市場	基本概念を復習する。
	3	経常収支と国際貸借	国際資金フローについて復習する。
	4	国際通貨制度の変遷	国際通貨制度について復習する。
	5	長期の為替レート決定理論	購買力平価説を復習する。
	6	短期の為替レート決定理論①：金利平価説	金平価説を復習する。
	7	短期の為替レート決定理論②：アセットアプローチと効率市場仮説	アセットアプローチを復習する。
	8	国際経済におけるマクロ経済政策①	国際マクロ経済政策を復習する①。
	9	国際経済におけるマクロ経済政策②	国際マクロ経済政策を復習する②。
	10	国際金融のトリレンマ	国際金融のトリレンマを復習する。
	11	国際収支と為替取引	国際収支と為替取引を復習する。
	12	主要通貨の動向とその背景①：円相場の推移	円相場を復習する。
	13	主要通貨の動向とその背景②：ドルとユーロの行方	ドル相場・ユーロ相場を復習する。
	14	国際証券投資	国際証券投資を復習する。
15	為替レートと企業の為替リスクマネジメント	為替リスクマネジメントの復習。	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。 参考文献 [1]清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融：理論から実践まで』日本評論社、2016年。 [2]小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年。 [3]永易淳・江坂太郎・吉田裕司『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣、2015年。		
	学びの手立て 履修の心構え 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 教材プリントの内容を理解するための解説を行う。講義中は集中して説明を聞き、ノート記述すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：国際通貨制度・為替レートの決定理論・国際マクロ経済政策について説明できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際金融論が、国境を越えた「貯める・借りる」世の中の仕組みを説明する経済学の一分野であることを覚えてもいてもらいたい。 関連科目として、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	3年		

学びの準備	ねらい "世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。"	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	国際貿易と日本の経済成長①	
	3	国際貿易と日本の経済成長②	
	4	貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム	
	5	貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整	
	6	貿易の基礎理論③ ヘクシャー＝オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論	
	7	貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当	
	8	貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金	
	9	為替レートの決定①	
	10	為替レートの決定②	
	11	IS-LM分析① IS曲線とLM曲線	
	12	IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策	
	13	IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策	
	14	ポリシーミックス	
	15	まとめ	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 その都度紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、コンテンツマネジメントについて学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンテンツマネジメント論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	E-mail: k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、コンテンツ制作における技術やメディア、運営、法制度等の仕組みや構造について学び、マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。また、ウェブサイト構築における規格や言語、情報の視覚化、著作権問題、運営等を総合的に学ぶ。	メッセージ コンテンツ制作における技術や運営、法制度等の産業別の仕組みや構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な総合的な知識を習得してほしい。
	到達目標 ・コンテンツ制作に関する技術や構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	コンテンツマネジメント概要	基本概念の理解
	3	メディアと技術 (1)	講義の予習・復習
	4	メディアと技術 (2)	講義の予習・復習
	5	デジタルコンテンツ (1)	講義の予習・復習
	6	デジタルコンテンツ (2)	講義の予習・復習
	7	インターネットとコンテンツ	講義の予習・復習
	8	コンテンツの権利と法制度	講義の予習・復習
	9	コンテンツとデジタル技術 (1)	講義の予習・復習
	10	コンテンツとデジタル技術 (2)	講義の予習・復習
	11	コンテンツとデジタル技術 (3)	講義の予習・復習
	12	企画とプロセス	講義の予習・復習
	13	制作と進行	講義の予習・復習
	14	事例 (1)	講義の予習・復習
	15	事例 (2)	講義の予習・復習
	16	統括	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。		
	学びの手立て 欠席した場合は、必ず欠席届を提出すること。 資料、参考書等をもとに講義を進めるため、講義内容を理解するためのノート記述を行うこと。		
	評価 講義内で課題提出、テスト等を実施し総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、情報リテラシー演習、UIデザイン概論
-------	--

※ポリシーとの関連性

コンピュータ会計を学ぶことにより、産業情報学科の目的であるコンピュータの知識と共に会計の知識を掘り下げます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-井口 千秋	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ほとんどの企業の会計処理がコンピュータで行われている現代。これまで学んできた商業簿記をより実践に近い手法として会計ソフト(弥生会計)を活用し、理解を深めたい。	簿記検定は、就職に有利な資格第1位(リクルートキャリア調べ)という記事があります。それを実務的な手法としてコンピュータを用いたのがコンピュータ会計です。また、コンピュータを活用しての会計は個人事業主・中小企業から大企業までほとんどの企業で行われています。経理・事務などの就職を希望している学生にとっては、適正を確認する良い機会になると考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ会計の基礎から活用まで一連の流れを確認する。 ・希望者は、コンピュータ会計の資格試験を受けることをお勧めします。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	スキルチェック	
2	企業活動と会計処理		
3	会計ソフトの操作		
4	現金についての会計処理		
5	仕入についての会計処理		
6	売上についての会計処理		
7	経費についての会計処理		
8	その他の債権・債務などについての会計処理		
9	給与についての会計処理		
10	企業が関係する税金		
11	会計データの入力処理と集計		
12	会計データの集計と活用		
13	月次決算の会計処理		
14	月次決算の会計処理【進んだ学習】		
15	証票にもとづく起票とデータ入力【一連の流れを確認します。】		
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ会計 初級 テキスト・問題集 【実況出版株式会社】 H29年度版で統一(データが古いと開かないため。) 		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 出席は、授業開始から10分以内とします。 PCにより、学籍番号と姓名(漢字)入力をお願いします。</p> <p>②レポートの提出方法は次のいずれかを指定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 沖国ポータルのレポートに添付。 印刷して提出。 代行提出。 		
評価	<p>出席：45点 レポート：45点 最終確認：10点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>コンピュータ会計の検定試験は初級～1級まであります。ぜひ、チャレンジしてみてくださいは如何でしょうか？</p> <p>http://www.zenkei.or.jp/license/computer.php</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	最適化概論	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、組合せ最適化問題について、我々の身近なところに現れる具体例を用いて学ぶことをねらいとしている。	メッセージ 実社会で役立つ、ゲーム理論や工学の分野の最適化問題とそれを解決するためのいくつかの手法を学びます。
	到達目標 ゲーム理論における各種解法の習得と組合せ最適化における実社会の問題の解法を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	組合せ最適化についてのあらし	授業共有ファイル その1
	2	線形計画法を用いた組合せ最適化 I	授業共有ファイル その2
	3	線形計画法を用いた組合せ最適化 II	授業共有ファイル その3
	4	ゲーム理論 I (囚人のジレンマゲーム・支配戦略均衡点)	授業共有ファイル その4
	5	ゲーム理論 II (パレート最適、交渉ゲーム)	授業共有ファイル その5
	6	ゲーム理論 III (ミニマックスゲーム、ナッシュ解)	授業共有ファイル その6
	7	ゲーム理論 III (シャープレイ値、コア)	授業共有ファイル その7
	8	工学における組合せ最適化問題について	授業共有ファイル その8
	9	割り当て問題	授業共有ファイル その9
	10	ナップザック問題	授業共有ファイル その10
	11	2次割り当て問題	授業共有ファイル その11
	12	多角形詰め込み問題	授業共有ファイル その12
	13	最適解と局所解、組合せ問題の難しさ (厳密解法と近似解法)	授業共有ファイル その13
	14	進化計算手法による組合せ問題の解法 I	授業共有ファイル その14
15	進化計算手法による組合せ問題の解法 II	授業共有ファイル その15	
16	テスト	授業共有ファイル その1~15	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定は、ありません。 必要な資料は、pdf形式かパワーポイント形式でポータルの授業共有ファイルにアップロードしますのでダウンロードして、テキストとしてください。		
	学びの手立て 毎時間、授業共有ファイルにアップロードされる電子ファイルを参照すること。		
	評価 出席：規定通り。 試験：規定通り。 提出物：1~2回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例：おしゃべり等)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎。専門演習。卒業論文演習。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅰ（経済と情報）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-服部 圭介	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では「ゲーム理論」と呼ばれる意思決定の理論の基本と応用を学びます。ゲーム理論は、経済学の一分野として誕生したものの、現在は経営学・政治学・生物学や工学にまで応用されるようになりました。また、男女間の恋愛や友人関係、スポーツや勝負事で勝つためのツールとしても有用です。本講義を通じて、「戦略的な意思決定」ができる能力を磨いてください。	「ゲーム理論」はその名のとおり、じゃんけんや野球などの「ゲーム」も対象にしていますが、それよりも、社会に起こる様々な問題を「人々がそれぞれ、あるルールのゲームにおいて、戦略的に行動した結果」と捉えて分析ができるという楽しさがあります。講義のごく一部は数学（中学生レベル）を用いますが、ほとんどの部分は理解さえすれば中・高校生でも楽しめる内容です。
到達目標	ゲーム理論の基本的な概念を学ぶことで、「戦略的な意思決定の能力」を育成します。「戦略的な意思決定」とは、例えば「相手が自分を出し抜こうと知恵を絞っていることをふまえて、自分はどうのような行動・選択を行うのがベストなのか」とあるとか「全てのプレイヤーがそのように『他人の行動を予測して行動する』状況では、どのような結果が実現するのか」というようなことを意味します。つまり、戦略的思考の能力をつけることは、「状況を捉えて望ましい選択ができるようになる」という個人的な便益だけでなく「社会や集団がより良い状態になるにはどのようにすれば良いのか」を考える社会的な利点もあります。さらには、ゲーム理論をもちいて、オリジナルな研究のアイデアが生まれるような練習も、講義中に行います。卒業論文などに活かせることを期待します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゲーム理論とは：ゲーム理論の必要性、ケーススタディ	講義の復習
	2	同時手番ゲームの分析（1）：支配戦略・被支配戦略	講義の予習・練習問題を解く
	3	同時手番ゲームの分析（2）：共有知識・数字あてゲーム	講義の予習・練習問題を解く
	4	ゲームの均衡概念（1）：最適反応とナッシュ均衡	講義の予習・練習問題を解く
	5	ゲームの均衡概念（2）：ケーススタディ	講義の予習・練習問題を解く
	6	混合戦略を含むナッシュ均衡（1）：期待利得・混合戦略均衡	講義の予習・練習問題を解く
	7	混合戦略を含むナッシュ均衡（2）：変則じゃんけん・PK戦	講義の予習・練習問題を解く
	8	交互手番ゲームの分析（1）：ゲームの樹・バックワードインダクション	講義の予習・練習問題を解く
	9	交互手番ゲームの分析（2）：ケーススタディ	講義の予習・練習問題を解く
	10	契約と繰り返しゲーム（1）：契約によるジレンマからの脱却	講義の予習・練習問題を解く
	11	契約と繰り返しゲーム（2）：有限繰り返しゲーム	講義の予習・練習問題を解く
	12	契約と繰り返しゲーム（3）：無限繰り返しゲームとシッペ返し戦略	講義の予習・練習問題を解く
	13	コミットメント：チキンゲーム・ケーススタディ	講義の予習・練習問題を解く
	14	進化ゲーム理論：タカ・ハトゲーム、流行	講義の予習・練習問題を解く
15	まとめと小テスト	小テストの見直し	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など レジュメを配布しますので、教科書は必要ありません。参考文献については講義内で紹介します。
-------	--

学びの手立て	本講義を受講するにあたって、前もって必要となる知識は特にありません。集中講義ですので、すべての講義に参加できる方のみ受講してください。経済学・経営学・政治学・生物学系の大学院へ進学を希望の方には、本講義の受講を特におすすめします。
--------	---

評価	成績評価は15回目に行う小テストの結果を用います。また、受講生の講義への貢献に従って、加点をします。小テストは、配布するレジュメの練習問題と同レベルのものを出題します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義では、回数の関係上、ゲーム理論のごく一部しか解説することができませんが、さらに高いレベルのトピックスを独学で学べるような指導を講義中に行います。戦略的思考の技術は、社会に出ても有用なものですので、受講後も引き続き独学で学習を続けることをおすすめします。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅲ (e ビジネス)	その他	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 直司	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、ロボットを動かす基礎的な知識である、ロボットの運動学、動力学、運動制御、ロボットの運動計画、タスクを実行するロボットに必要なその位置推定手法について学習する。さらに、ロボット技術を利用したトピックや研究を通してロボット技術について学んでいく。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ロボットの運動学、動力学、運動計画、位置推定手法を理解する。 ロボット技術の活用状況、重要性について説明できる。 自律移動ロボットやロボット遠隔操作技術など、特有の技術について説明できる。 	<p>産業用ロボットは一般の人々の目に触れない工場で広く普及している。一般家庭にも普及しているロボット技術の例としてお掃除ロボットが挙げられる。今後、IoTの発展とそのロボット技術との結びつきにより、ロボット技術は、新たなビジネスの展開やサービスの提供へと発展し、より身近なものになっていくと期待され、本講義では、様々なロボット技術について学んでいく。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンスと序論	授業内容の予習
	2	ロボットの運動学	授業内容の予習とこれまでの復習
	3	ロボットの動力学	授業内容の予習とこれまでの復習
	4	ロボットの運動制御	授業内容の予習とこれまでの復習
	5	ロボットの運動計画	授業内容の予習とこれまでの復習
	6	ロボットの位置推定手法	授業内容の予習とこれまでの復習
	7	ロボットシステム	授業内容の予習とこれまでの復習
8	コンピュータビジョン	授業内容の予習とこれまでの復習	
9	ロボットナビゲーション	授業内容の予習とこれまでの復習	
10	自律移動ロボット	授業内容の予習とこれまでの復習	
11	ロボットの遠隔操作の基礎	授業内容の予習とこれまでの復習	
12	ロボットの遠隔操作技術	授業内容の予習とこれまでの復習	
13	ロボットのための地図	授業内容の予習とこれまでの復習	
14	遠隔行動誘導	授業内容の予習とこれまでの復習	
15	まとめ	これまでの復習	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<p>特に教科書は指定しない。 参考書：「ロボティクス」, Craig, 共立出版, 5,460円。「はじめてのロボット創造設計」, 米田他, 講談社, 3,675円。</p>			
学びの手立て			
<p>授業内容の学習には、予習・復習が不可欠である。授業の各回に対応した内容を予習して授業に望むこと。授業後は、授業で行った内容を復習すること。</p>			
評価			
<p>成績は到達目標を基に作成されたレポートや課題などの総合計点（100%）で評価することを予定している。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：ロボットプログラミング</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報論	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、情報通信技術の産業分野における活用、産業構造や産業の仕組みに与える影響などの理解の上に、この情報化を支える情報通信や情報サービス等の情報産業の構造、技術動向、人材ニーズについて学ぶ。また情報化の進展に伴い重要性が増してきた情報モラルとプライバシー保護、知的所有権、セキュリティ管理等、産業の情報化及び情報の産業化に伴う動向等についても概説する。</p>	<p>情報技術の基本的な理解の上に、産業そして社会におけるその活用を学ぶ本講義は、続く講義、演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。</p>
到達目標	<p>① 情報そのもの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術や情報システムが産業に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 情報モラル、プライバシー保護、知的所有権などの情報リテラシーを習得する。 ⑤ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業情報論で何を学ぶ	配布資料を読み、出席すること。
	2	情報についての基本的理解①－分類と特性	配布資料を読み、出席すること。
	3	情報についての基本的理解②－経営資源と情報	配布資料を読み、出席すること。
	4	情報化の進展と社会そして産業との関わり	配布資料を読み、出席すること。
	5	卸・小売・物流業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	6	金融・サービス業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	7	製造・建設業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
8	情報産業の発展と社会①－情報産業の構造と市場	配布資料を熟読してもらいたい。	
9	情報産業の発展と社会②－情報産業の技術と人材	配布資料を熟読してもらいたい。	
10	身近な事例研究①－コンテンツ産業	日常を情報技術から考える。	
11	身近な事例研究②－外食産業	日常を情報技術から考える。	
12	身近な事例研究③－アパレル産業	日常を情報技術から考える。	
13	情報化基盤と新技術の開発動向	配布資料を読み、出席すること。	
14	情報化基盤と周辺環境の変化	配布資料を読み、出席すること。	
15	情報化基盤と新たなビジネスモデル	配布資料を読み、出席すること。	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解消してください。</p>		
評価	<p>学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、出席状況および受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(20点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習において習得した、情報技術そして社会・産業・生活への活用といった基本的理解の展開として、2年次より履修が可能となる、「ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「経営科学」、「情報と職業」の受講を推奨します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業ネットワーク論	後期	土 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當銘 栄一	3年	ptt467@okiu.ac.jp (電子メール)	

学びの準備	ねらい 本講義では、あらゆる事例や各種データを用いた演習などを通して、経済学の専的な視点からの物事を捉える力(専門性)を確保すること、さらにビジネスシーンで求められる自律性や問題解決力の向上を目的としている。	メッセージ 目まぐるしく変化する経済社会の中において、将来的にどのような職種に就くにしても専門的な見地からの説明力(客観性)、自律性や問題解決力(実行力)は必須条件となっている。本講義を通して、あらゆる情報を自分なりに読み解き、分析する力を養ってほしい。
	到達目標 ①専門性の確保：各種データ分析などから今起きていることを自ら整理し、それらを読み解くことで地域経済の個性(産業構造など)を読み解けるようにしたい。さらに、地域経済の個性を牽引するものは何なのか、当該産業のみならずそれらを取り巻く環境(他者とのつながり)を踏まえたマクロ的な視点での分析力を身につけることができるようにしたい。②自律性と問題解決力の向上：講義で毎回行う予定の演習などを通して、先述①の視点を踏まえた上で自らの考えをまとめながらアウトプットし、ビジネスシーンで求められる客観的な視点での提案力を培うことができるようにしたい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	地域経済の個性とは① (県内産業を取り巻く環境)
	2	地域経済の個性とは② (本県における産業構造の把握など)
	3	産業ネットワークの視点からみた本県の経済構造① (産業間の取引構造を知る)
	4	産業ネットワークの視点からみた本県の経済構造② (産業連関分析)
	5	小テスト①(本県における産業構造の特徴とは?)
	6	産業ネットワーク強化による持続的な経済発展を考える (産業まつりの事例)
	7	産業ネットワークと景気動向 (つながるメリットとデメリット)
	8	地域をよくするために必要なこと① (産業ネットワークを見える化する)
	9	地域をよくするために必要なこと② (外から稼ぐ産業と内で稼ぐ産業)
	10	小テスト② (持続的な経済発展にむけて必要なこととは?)
	11	事例研究 (台頭するシェアリング・エコノミーと沖縄経済)
	12	事例研究 (外で稼ぐ産業とは)
	13	事例研究 (内で稼ぐ産業とは)
	14	本県にとって必要な産業政策とは (試案プランニング)
	15	本県にとって必要な産業政策とは (まとめと総復習)
16	期末テスト	
	時間外学習の内容	

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは特に指定しない。講義時に必要な資料やデータを提供する。

学びの手立て
 ・講義内容は積み上げ方式で進行するので、なるべく休まないこと。(欠席する場合は翌週までに欠席届と添付資料を提出すること)
 ・講義中の私語は厳禁とする。

評価
 ・評価配分：期末試験 70%、小テストや出席ポイント 30% (出席は毎回とる予定)
 ・評価基準：毎回の演習 (出席票を兼ねる) や定期的なテストにおいて、講義内容をベースとして客観性を踏まえた上で自らの考えが述べられているか、受講態度 (講義への参加や熱意) などを評価する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 卒業論文や各種レポート作成時に、本講義で習得した手法や考え方を活かしてほしい

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業連関論	前期	木3	2
	担当者 田口 順等	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場する言葉であるが、これらの計算には産業連関表を用いられている。産業連関表を用いた分析である産業連関分析は、経済波及効果に限らずさまざまな分析に用いられる有用な手法である。この講義では、産業連関表や産業連関分析を解説し、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、実習を行う。</p>	<p>産業連関分析や経済波及効果は分析手法の一つで卒論などで取り上げない限りは役に立たない知識かもしれません。Excelの操作や数学（特に行列の知識）やマクロ経済学といった様々な学問・知識を総動員して授業や課題に当たることは、問題解決能力を養い、将来形を変えて役に立ちます。ちょうどプロを目指さないのにスポーツをすることは無意味ではなく、体力・精神力を鍛えるように。</p>
	到達目標	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業連関表から経済の循環を知る。マクロ経済学の知識を産業連関表に当てはめて理解しましょう。 2. 数学（特に行列の知識）、Excel操作を習得する。行列やExcel操作で方程式や逆行列の計算方法を理解しましょう。 3. 経済波及効果を情報リテラシーを使って考察する。経済波及効果の限界と問題点を知り、経済波及効果の実例を検証しましょう。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要	
	2	産業連関分析の基本①：産業連関表について、基本取引表	マクロ経済学の復習
	3	産業連関分析の基本②：投入係数表、自給率など	Excelの操作と課題
	4	行列①：行列、逆行列の概念	数学（行列）の復習
	5	行列②：表計算ソフトによる計算	Excelの操作と課題
	6	産業連関分析の基本③：逆行列係数表	Excelの操作と課題
	7	産業連関分析の基本④：付帯表	Excelの操作と課題
	8	産業連関分析の応用①：経済波及効果	Excelの操作と課題
	9	直接効果の計算①：具体事例	事例の考察と課題
	10	直接効果の計算②：社会調査、アンケート調査など	事例の考察と課題
	11	産業連関分析の応用②：表計算ソフトによる計算	これまでの講義内容の復習
	12	産業連関分析の応用③：経済波及効果の計算	Excelの操作と課題
	13	産業連関分析の応用④：経済波及効果の事例分析	事例の考察と課題
	14	演習①：経済波及効果	これまでの講義内容の復習
15	まとめ		
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年 藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらくIO入門』日本評論社2005年 土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構えについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席と遅刻を区分し、出席点に反映させます。 ・授業内容は単独でその場限りではなく、その知識を積み重ねて授業内容は発展していきます。最初は簡単に思っても、徐々に習得した知識を前提にした授業になり、油断や欠席をすると理解できなくなってしまいます。欠席は極力せず、真摯に取り組んでください。 ・数学・特に行列の知識が必要で授業はこの分野を避けて通れません。またマクロ経済学の分野にも該当し、経済学基礎や情報数学を履修し、内容覚えていなければ理解できない部分があります。
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>授業態度3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。 授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：情報数学・経済数学などの数学科目、情報処理基礎、経済学概論Ⅱ（マクロ経済学分野） 類似科目：産業連関の基礎、産業連関の応用（どちらも地域環境政策学科提供科目）</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、ITに関する基礎知識を学びます

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	システム開発と情報化	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい IT戦略とマネジメントに関する基礎的な内容を修得する。	メッセージ 基本情報技術者試験のストラテジ系とマネジメント系分野について学びます。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得する。	

学びの準備	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得する。
-------	---------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	企業と法務（1）
	3	企業と法務（2）
	4	企業と法務（3）
	5	経営戦略（1）
	6	経営戦略（2）
	7	情報誌システム戦略（1）
	8	情報誌システム戦略（2）
学びの実践	9	開発技術（1）
	10	開発技術（2）
	11	開発技術（3）
	12	プロジェクトマネジメント（1）
	13	プロジェクトマネジメント（2）
	14	サービスマネジメント
	15	システム監査と内部監査
	16	期末試験
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ（2015） 参考書：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2015），「データ構造とアルゴリズム」インフォテック・サーブ	
学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。	
学びの実践	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論，プログラミング理論，プログラミング I，データベース，情報処理システム論
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化社会と教育	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会と教育（初等、中等、高等）の関係を、多角的に捉える視野を育む。	メッセージ 情報技術の発展は、教育のあり方に対して大きな変化をもたらしています。まずは現状を整理し、そして今後も革新が進む情報技術を、教育にどのように活かしていくか、広い視野を持って考えていきましょう。
	到達目標 ・情報と教育との関係を説明できる ・教育における情報化社会の持つ意味と課題を説明できる ・メディア教育の持つ意味と課題を説明できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・情報と教育	ガイダンスの理解
	2	大学の授業改革と情報通信技術	復習・課題
	3	インターネット大学	復習・課題
	4	大規模公開オンライン授業	復習・課題
	5	情報化社会と高等教育の未来	復習・課題
	6	学校における児童・生徒を取り巻く情報化社会への対応	復習・課題
	7	情報化社会と小学校の授業の実際・学校の取り組み	復習・課題
	8	情報化社会と中学校の授業の実際・学校の取り組み	復習・課題
	9	情報化社会と高等学校の授業の実際・学校の取り組み	復習・課題
	10	家庭・地域における児童・生徒をとりまく情報化社会への対応	復習・課題
	11	メディア・リテラシーの概要	復習・課題
	12	メディア教育の歴史的展開	復習・課題
	13	メディア教育の内容と方法	復習・課題
	14	学校教育におけるメディア教育	復習・課題
	15	メディア教育を支援する教材とガイド	復習・課題
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する 参考文献：「情報化社会と教育」放送大学教育振興会		
	学びの手立て ・自身の意見を述べるよう積極性を持つこと。 ・課題（締め切り厳守）を提出しない者には期末試験の受験を認めない。		
	評価 通常課題（合計50点満点）、期末試験（50点満点）および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 (通常課題得点+期末試験得点) × (出席率)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育者を目指すものは、情報化社会と教育における世の情勢を捉えながらも、自身の考えを以て創意工夫を凝らした教育を志すように望む。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化と法	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-有賀 俊二	3年	ptt637@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい インターネットに代表されるコンピュータ・ネットワークの急激な発展に伴って、経済社会の変化に対して法的な対応の問題やモラルの問題が注目されている。これらの問題への基本的な理解と的確な対応力を習得する。	メッセージ 今やインターネットなくして企業は成り立たないといわれる今日、次代の情報化社会の中心を担う、君たち産業情報学部学生こそ、情報化に伴う法的問題の適格な対応スキルを身に付け、沖縄から世界を目指す人材となってほしい。
	到達目標 急激な発展に伴う情報化社会の様々な問題に対して、的確に対応できるスキルを身に付ける。 1) 情報化における様々な法的問題の知識 2) 情報化による法的問題への対応力 3) 情報化戦略としての商標出願スキルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	情報化と法との関わり	課題1 予定
3	情報化と知的財産権 (1)	オリジナル商標の検討	
4	情報化と知的財産権 (2)	課題2 予定	
5	コンピュータ・プログラムの法的保護	オリジナル商標の検討	
6	表示の法的保護	課題3 予定	
7	営業秘密の法的保護	オリジナル商標の検討	
8	企業情報開示の問題	オリジナル商標の検討	
9	情報公開制度	課題4 予定	
10	個人情報保護	オリジナル商標の検討	
11	電子商取引に関する問題	オリジナル商標の検討	
12	製造物責任と情報提供	オリジナル商標の提出	
13	情報モラルとサイバー犯罪	オリジナル商標出願書類作成	
14	商標戦略	オリジナル商標出願書類作成	
15	情報化と法的問題の事例	オリジナル商標出願書類作成	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、オリジナルの資料をMoodleで提供します。		
	学びの手立て 講義の資料、課題提出などすべてMoodleで配布、提出となります。 Moodleの取扱いは、サポートの学生が付く予定です。 事例を中心とし、実務的な講義です。一般的には知られていないが、産業情報技術を事業に活かすために、これだけは掴んでおきたい、掴んでおけば効果的に展開できるスキルです。オリジナル商標を考えます。		
	評価 講義において、課題を4回程度出します。 出席状況、課題提出(商標エントリーを含む)、期末試験を総合的に評価します。 配点は、出席(10%)、課題(60%)、期末試験(30%)とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 特に知的財産権の中で商標に関しては、自分で考え、自分で調べ、自分で出願できるスキルが身につく、企業の知財担当者としてのスキルともなります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ハードウェア、情報処理システム、ソフトウェア、データ構造とアルゴリズムなど、情報処理技術の基礎的な内容を修得する。	メッセージ 2017年度入学生は、上級情報処理士の資格取得、基本情報技術者試験 午前試験免除制度の適用に必要な科目です。情報処理技術の基本を本講義では学ぶが、入学時のベースがかなり異なるため、今までに全く学んだことがない者は予習・復習を必ず行うこと。それでも、わからない場合は授業外に質問すること。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	教科書・参考書の内容確認
	2	コンピュータの基本構成	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	コンピュータのデータ表現(1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	コンピュータのデータ表現(2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	中央処理装置と主記憶装置(1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	中央処理装置と主記憶装置(2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	補助記憶装置	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	入出力装置	当該講義の復習/次回講義の予習
	9 情報処理システム(1)	当該講義の復習/次回講義の予習	
	10 情報処理システム(2)	当該講義の復習/次回講義の予習	
	11 ソフトウェアの分類	当該講義の復習/次回講義の予習	
	12 OSの機能と構成(1)	当該講義の復習/次回講義の予習	
	13 OSの機能と構成(2)	当該講義の復習/次回講義の予習	
	14 プログラム言語と言語プロセッサ	当該講義の復習/次回講義の予習	
	15 ファイル編成方式	当該講義の復習	
	16 期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」インフォテック・サーブ(2015) 参考書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ(2015)、「データ構造とアルゴリズム」インフォテック・サーブ		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義形式：プログラミング理論、情報処理システム論、情報通信ネットワーク論 演習形式：プログラミングI・II、ウェブプログラミング、データベース、情報処理システム演習、ロボットプログラミングシミュレーション
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では、MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイン画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。</p>	<p>Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。</p>
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル	その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル	その1 & その2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	授業共有ファイル	その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル	その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル	その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル	その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル	その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル	その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	授業共有ファイル	その9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	授業共有ファイル	その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル	その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル	その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル	その13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル	その14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	授業共有ファイル	その15	
16	課題提出	授業共有ファイル	その1～15	
テキスト・参考文献・資料など	<p>APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、ポータルの授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。Android関連書籍。関連Webページ。</p>			
学びの手立て	<p>授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。</p>			
評価	<p>出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では、MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	メッセージ Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。
	到達目標 課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル その1 & その2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	授業共有ファイル その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	授業共有ファイル その9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	授業共有ファイル その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル その13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル その14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	授業共有ファイル その15	
16	課題提出	授業共有ファイル その1～15	
	テキスト・参考文献・資料など APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、ポータル授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。 Android関連書籍。関連Webページ		
	学びの手立て 授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。		
	評価 出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム論	後期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 開発の現場で必須となりつつあるUMLとJavaを用いた開発を通して実際の開発過程を理解することを目指す。UMLの基本と各UML図の概要と描き方を解説し、また、現場で行われているシステム開発の例をもとにUMLの実際の活用方法について解説する。さらに、UMLの学習だけでなくオブジェクト指向の考え方や各種開発プロセスについても解説する。	メッセージ プログラミング I・II を履修済みであることが望ましい。
	到達目標 UMLの基本と各UML図の概要を理解し、オブジェクト指向分析や設計を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション, UMLとは何か?	次回講義の予習
	2	オブジェクト指向とUML	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	開発プロセス	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	ユースケース図	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	オブジェクト図	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	クラス図	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	シーケンス図	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	シーケンス図	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	総合問題	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	コミュニケーション図	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	ステートマシン図	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	アクティビティ図	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	パッケージ図, サブの図	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	実践例 (組み込みシステム)	当該講義の復習/次回講義の予習
15	実践例 (組み込みシステム)	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 竹政昭利 他「かんたんUML入門」技術評論社 (2013) インフォテック・サーブ「ITワールド」インフォテック・サーブ (2015) 河合 昭男「ゼロからわかる UML超入門」技術評論社 (2010) オージス総研「その場でつかえるしっかり学べるUML2.0」秀和システム (2006) 桐越 信一他「UMLモデリング教科書 UMLモデリングL2 第2版」翔泳社 (2008)		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目: 「情報処理概論」「プログラミング理論」「システム開発と情報化」 次のステージとして「ロボットシミュレーション (ロボットプログラミング)」がある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報数学	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	1年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、情報数学 I に引き続き情報処理に必要なとなる基本的な数学を学ぶ。具体的には、集合と論理、n進数、情報科学分野で必須となるベクトルと行列について学習する。	メッセージ 本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。
	到達目標 集合と論理、n進数、ベクトルと行列など、専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。	

学びの準備	到達目標 集合と論理、n進数、ベクトルと行列など、専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	
	2	集合と論理 (i)	講義の復習および課題演習
	3	集合と論理 (ii)	講義の復習および課題演習
	4	集合と論理 (iii)	講義の復習および課題演習
	5	n進数 (i)	講義の復習および課題演習
	6	n進数 (ii)	講義の復習および課題演習
	7	n進数 (iii)	講義の復習および課題演習
	8	ベクトル (i)	講義の復習および課題演習
	9	ベクトル (ii)	講義の復習および課題演習
	10	ベクトル (iii)	講義の復習および課題演習
	11	行列 (i)	講義の復習および課題演習
	12	行列 (ii)	講義の復習および課題演習
	13	行列の応用 (i)	講義の復習および課題演習
	14	行列の応用 (ii)	講義の復習および課題演習
	15	行列の応用 (iii)	講義の復習
16	試験・総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・石村園子「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」共立出版 ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版店
-------	--

学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
-------	---

学びの実践	評価 試験結果、出席状況、課題レポートにより評価する。
-------	--------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理に関連する講義科目が次のステージとなる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報通信ネットワーク論	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	インターネットや携帯電話の普及により情報通信ネットワークは私たちの生活に欠かすことができないものとなりました。また、ネットワークの存在を前提とした各種社会サービスの普及により、企業や行政が正常に機能するためには必須なものとなりました。本講義では、その情報通信ネットワークを利用するだけでなく、構築・運用するのに必要な知識の習得を目指します。	インターネットで使われるプロトコルの基本からネットワークの応用技術まで学ぶ、情報処理概論などにおいてネットワークの基本的な知識を学習済みであることが望ましい。
到達目標	プロトコル階層モデルを理解する インターネットでの実用面での運用法について理解する 基本的なセキュリティ技術について理解する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・情報ネットワークの歴史	次回講義の予習
	2	情報ネットワークのプロトコル	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	データリンク層プロトコル	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	ネットワーク層プロトコル	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	トランスポート層プロトコル	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	アプリケーション層プロトコル	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	トラヒック理論の基礎	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	ネットワーク層プロトコルの実際	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	コンテンツ配信	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	アクセス系ネットワーク	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	IP電話	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	セキュリティ	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	エンタープライズネットワーク	当該講義の復習/次回講義の予習
14	NGN (次世代ネットワーク)	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	総まとめ	当該講義の復習	
16	総合演習・期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：池田博昌，山本幹「情報ネットワーク工学」(2008) 参考文献： ・インフォテック・サーブ「ITワールド」インフォテック・サーブ(2015) ・アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社(2009) ・アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社(2003) ・山内雪路「よくわかる情報通信ネットワーク」東京電機大学出版局(2010)		
学びの手立て	難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献，またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。		
評価	出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「情報処理概論」「情報通信ネットワーク実習」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報と職業	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-岡田 良	2年	ptt697@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県は観光やIT産業を中心に自立的経済発展を目指している。とりわけここ15年で様変わりしたIT産業の変遷と発展要因を学ぶとともに、現在及び近い将来の業界トレンドを理解する。さらに職種に関する理解を深め各人の卒業前就職活動もしくは卒業後の就労に際し高いモチベーションをもつことを目的としている。現実的・具体的な職種の現状を正しく理解することをねらいとしている。</p>	<p>将来、IT業界への就労に世海を持つ学生はもちろん、他業界においても情報技術はどのように貢献しているのかを知りたい学生向きの講義としています。(私は)産業振興のプロフェッショナルとして地域の振興の考え方についても述べていきます。さらに就職活動に対する考え方についてや面接などの対応方法についても取り組んでいきます。</p>
到達目標	<p>今日の学生は仕事に関する知識に乏しいため目指す職種像が描けていないでしょう。このような状態でやみくもに就職活動に挑んでも必ずしも良い結果につながるとは言えないと考えています。本講義履修後はIT業界だけでなく様々な職種の理解ができるようになるとともに、企業が内定を出すまでの経緯を学ぶことにより、以て就労するための過程を知ることになります。本講義を通して学生の”人間力”を養えればと考えております。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	本講義の目的と概要をガイダンス。	
	2	講義スケジュール説明後、県内産業の動向について簡単に解説する。	
	3	さまざまな産業の動向やその職種や企業活動について理解を深める。	
	4	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解する(その1)。	
	5	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解する(その2)。	
	6	沖縄県および自治体の政策を学び、IT業界の変遷と業界の動向を学ぶ。	
	7	過去15年を振り返りながら、近い将来におけるIT業界の動向を模索する。	
	8	講師自身の職務(IM)や実践に触れながら地域振興の必要性と理解を深める。	
	9	企業成長→事業創成⇒産業創造への発展要因を解説する。	
	10	国・地方行政またはその職員が産業振興に果たす役割を解説する。	
	11	これからの大学の在り方と学生に求められるものについて論じる。	
	12	企業では内定者を決めるまでにどのような過程を経ているのかを知る。	
	13	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する(1)。	
14	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する(2)。		
15	講義のまとめ		
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	学びの手立て		
	評価	<p>出席状況および学期末試験の結果を総合的に判断し評価します。なお、学期末試験時にはノート、書籍等参考になるもの持ち込みは可とします。また、やむ負えない事情で試験当日欠席した者についてはメールによるきめられた期限内での提出を認めることとします。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報マネジメント演習	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-砂川 徹夫	3年	sunakawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では情報化先進企業の情報管理・活用事例の紹介等を通して、情報化の目的、情報システムの導入・活用状況、情報化人材の育成や情報セキュリティ等の運用管理状況等多角的視点で情報マネジメントの評価分析視点を理解させる。	理解を踏まえて、2～4人のグループ単位で「県内組織体（企業等）の情報管理実態・意向調査」の課題を与え、分析報告と発表等を行うことで、より情報マネジメントに対する理解を深める。就職したい、最新の情報システムを導入し活用している等興味関心のある企業等を数社リストアップし、関連する企業情報を収集する。
到達目標	①情報マネジメントの構成要素を理解できる。 ②企業情報化のレベル分析を理解できる。 ③県内の企業等のヒアリング調査をととして、企業情報化の実態や意向等を体験することができる。 ④調査内容を調査レポートのまとめ、P Pスライドを作成して発表することができる。 ⑤企業調査をととして、企業が求める人材や採用情報等を収集でき、就職活動等に活用できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報マネジメントの概念と構成要素（基本ステップ）	企業情報化の先進事例を収集する
	2	情報管理プロセスの評価項目抽出と理解	企業情報化の先進事例を収集する
	3	情報管理レベルの評価設定と分析方法	企業情報化の先進事例を収集する
	4	調査企業の選定と実態調査票の設計	企業情報化の先進事例を収集する
	5	情報化先進企業の事例研究1（情報化の目的・活用レベル）	企業情報化の先進事例を収集する
	6	情報化先進企業の事例研究2（導入情報システムのレベル）	企業情報化の先進事例を収集する
	7	情報化先進企業の事例研究3（経営者や社員の情報化意識レベル）	企業情報化の先進事例を収集する
	8	情報化先進企業の事例研究4（運用管理組織レベル）	企業情報化の先進事例を収集する
	9	情報化先進企業の事例研究5（情報セキュリティ管理レベル）	企業情報化の先進事例を収集する
	10	各グループの調査企業の事例発表1	企業情報化の先進事例を収集する
	11	各グループの調査企業の事例発表2	企業情報化の先進事例を収集する
	12	各グループの調査企業の事例発表3	企業情報化の先進事例を収集する
	13	各グループの調査企業の事例発表4	企業情報化の先進事例を収集する
	14	各グループの調査企業の事例発表5	企業情報化の先進事例を収集する
15	各グループの調査企業の事例発表6	企業情報化の先進事例を収集する	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など プリント教材「情報マネジメント演習・講義資料」を配布する。
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者全員に、2～4人のグループ単位で「県内組織体（企業等）における情報管理実態・意向調査」に関する課題を与え、レポート提出、パワーポイントを利用した発表を行う。 ・電話応対、FAXやメール対応、ビジネス文書の作成、ビジネスマナー等企業訪問に必要な基本的ビジネス知識・スキルを理解する。 ・希望する「2～4名のメンバー構成とグループリーダー」と希望する調査先を「第1希望から第3希望まで」申し出る。 ・各自でグループ編成ができない方は担当教員に申し出る（調整を行う）
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・企業調査レポートの提出（グループ）（40点）と個々人の情報化レベル分析（30点）、スライド作成と発表（30点） ・欠席減点 1回につき10点減点（但し、大会参加や病気等公認欠席の場合申し出により減点無し） ・専門雑誌の情報化先進事例等を読んでのレベル分析や意見・感想等のプラスαレポート提出1件当たり10点加点 ・各配点の得点を合計し、学部履修規程の「成績及び評価」基準に基づき評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ul style="list-style-type: none"> ・企業調査や調査レポートのまとめ、発表等の経験を卒論研究や就職活動等に活かして欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名 情報マネジメント論	期別 後期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 -砂川 徹夫	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ sunakawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、第4の経営資源として重要になってきた“情報”の特質や企業経営等における情報の役割を明らかにし、情報を効果的・効率的に運用管理する方式としての情報管理の概念や意義特性、情報管理システムの構成要素である情報処理システム、情報源（データベース）、情報化人材、運営システム等について体系的に理解させる。	メッセージ 最近のインターネット等の情報ネットワークやマルチメディア環境を踏まえて、インターネット活用と情報モラル、デジタルコンテンツと知的財産権、個人情報の保護、情報セキュリティ等の最新動向について理解を深めます。テレビや新聞、WEBニュース等で最新の情報収集に努めて下さい。
	到達目標 ①重要な経営資源である”情報”と”マネジメント（管理）”に関する概念を理解できる。 ②情報マネジメント（情報管理）の体系について理解できる。 ③情報技術・システムを利用する際の情報セキュリティについて理解できる。 ④情報技術・システムを利用する際の情報モラルや著作権等に対する理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報マネジメント（管理）論で何を学ぶか（体系、概念、意義等）	テーマに関する最新情報を収集する
	2	情報マネジメントの情報概念と特性	テーマに関する最新情報を収集する
	3	情報価値とナレッジマネジメント	テーマに関する最新情報を収集する
	4	情報行動と意思決定	テーマに関する最新情報を収集する
	5	情報管理の基本プロセスとマネジメントの概念	テーマに関する最新情報を収集する
	6	情報の収集と生成のマネジメント	テーマに関する最新情報を収集する
	7	情報の蓄積・分析のマネジメント	テーマに関する最新情報を収集する
	8	情報コミュニケーションのマネジメント	テーマに関する最新情報を収集する
	9	情報マネジメントと情報システム	テーマに関する最新情報を収集する
	10	情報マネジメントと人材	テーマに関する最新情報を収集する
	11	情報マネジメントと組織	テーマに関する最新情報を収集する
	12	情報共有と情報モラル、プライバシー保護	テーマに関する最新情報を収集する
	13	デジタルコンテンツと知的財産権	テーマに関する最新情報を収集する
	14	情報ネットワークとセキュリティ管理	テーマに関する最新情報を収集する
	15	情報マネジメント分野の最新動向	テーマに関する最新情報を収集する
	16	期末試験	テーマに関する最新情報を収集する
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用せず、最新情報に更新したパワーポイントスライドを用いる。 ・使用するスライドについては、メモ欄を設けたレジюме資料を配付する。 		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板への板書はできるだけせず、PCスライドやOHPを用いて講義を進める。重要な内容は各自メモすること。また、情報化の進展は秒進分歩。常に新聞記事に目を通し、情報関連の最新情報を収集すること。 ・新聞記事や専門雑誌等を読んだの意見感想、講演会やシンポジウム等に参加しての概要レポート等をA4用紙1～2枚程度にまとめて提出するとプラスαレポートとして評価する。 		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認を毎回実施、1回欠席で10点減点する。但し、欠席した理由が”大会参加”、”就職活動”、”病気治療”等公欠扱いの時は配慮するので申し出ること。 ・新聞記事や専門雑誌等を読んだの意見感想、講演会やシンポジウム等に参加しての概要レポート等をA4用紙1～2枚程度にまとめて提出するとプラスαレポートとして、10点満点の範囲で評価加点する。 ・評価は、期末試験（100点）と欠席減点、プラスαレポート加点等を合計して、学部履修規程の「成績及び評価」基準に基づき評価する。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目、情報マネジメント演習を履修し、実際の企業情報化の実態及び意向等を見聞する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術について、プログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。後半は少人数のグループごとに個別のテーマを企画し、Webサイトを作成し公開する。	メッセージ CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。
	到達目標 ・Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。 ・演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。 ・学んだ知識・スキルを活用してチームによる課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	Webデザイン：Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	3	Webデザイン：情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	4	Webデザイン：素材の制作1	教科書の予習・復習
	5	Webデザイン：素材の制作2	教科書の予習・復習
	6	Webデザイン：素材の制作3	教科書の予習・復習
	7	Webページを実現する技術：HTMLの基礎	教科書の予習・復習
	8	Webページを実現する技術：CSSの基礎	教科書の予習・復習
9	Webページを実現する技術：文書要素の制御	教科書の予習・復習	
10	Webページを実現する技術：文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習	
11	Webページを実現する技術：CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習	
12	グループワークの準備・言語と規格	グループごとにWebサイト作成	
13	Webサイトの運用	グループごとにWebサイト作成	
14	知的財産権	グループごとにWebサイト作成	
15	課題発表：グループごとのWebサイト	グループごとにWebサイト作成	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会 参考書：「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会 「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 ・質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。		
	評価 講義への参加状況、各回での作成課題（20%）、ならびに最終課題（80%）を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、ウェブプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。 [/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術について、プログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。後半は少人数のグループごとに個別のテーマを企画し、Webサイトを作成し公開する。</p>	<p>CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。 演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。 学んだ知識・スキルを活用してチームによる課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	Webデザイン：Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	3	Webデザイン：情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	4	Webデザイン：素材の制作1	教科書の予習・復習
	5	Webデザイン：素材の制作2	教科書の予習・復習
	6	Webデザイン：素材の制作3	教科書の予習・復習
	7	Webページを実現する技術：HTMLの基礎	教科書の予習・復習
	8	Webページを実現する技術：CSSの基礎	教科書の予習・復習
	9	Webページを実現する技術：文書要素の制御	教科書の予習・復習
	10	Webページを実現する技術：文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習
	11	Webページを実現する技術：CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習
	12	グループワークの準備・言語と規格	グループごとにWebサイト作成
	13	Webサイトの運用	グループごとにWebサイト作成
14	知的財産権	グループごとにWebサイト作成	
15	課題発表：グループごとのWebサイト	グループごとにWebサイト作成	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など			
<p>教科書：「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会 参考書：「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会 「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会</p>			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> 演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。) 実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。 			
評価			
講義への参加状況、各回での作成課題(20%)、ならびに最終課題(80%)を重視し、総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、ウェブプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に、暗号化とセキュリティがあります。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セキュリティ概論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨今、個人情報や企業の機密情報の流出が、社会的に深刻なものとなってきている。情報漏洩を防ぐ方法、本人確認の手法など暗号の重要性が見直されている。本講義では、暗号の歴史から現在の主な暗号方法、そして近未来の量子暗号までの概要を学ぶことをねらいとしている。</p>	<p>私達は、知らず知らずのうちに暗号化技術を利用しています。暗号化技術を知ることが、高度情報社会を知ることと個人情報の大切さを理解することになります。</p>
到達目標	R S A公開鍵暗号方式とエルガマル暗号方式における暗号化と復号を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ギリシア・ローマ時代の暗号（シーザー暗号、スキュレータ）	授業共有ファイル その1
	2	江戸時代の暗号（上杉暗号）	授業共有ファイル その2
	3	第二次世界大戦と暗号技術（赤／紫暗号、エニグマ）	授業共有ファイル その3
	4	情報化による文明構造の変革（デジタル技術とマルチメディア）	授業共有ファイル その4
	5	情報セキュリティの登場	授業共有ファイル その5
	6	社会基盤としての暗号	授業共有ファイル その6
	7	現代社会と暗号利用（電子マネー、電子決済、デジタル放送など）	授業共有ファイル その7
	8	DES型暗号	授業共有ファイル その8
	9	共通鍵暗号	授業共有ファイル その9
	10	公開鍵暗号	授業共有ファイル その10
	11	素数と余りと法の世界	授業共有ファイル その11
	12	R S A暗号方式	授業共有ファイル その12
	13	エルガマル暗号方式	授業共有ファイル その13
14	電子署名・ハッシュ関数／ハッシュ値	授業共有ファイル その14	
15	未来の暗号（楕円曲線暗号／量子暗号方式）	授業共有ファイル その15	
16	テスト	授業共有ファイル その1～15	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは、毎回、ポータルにアップロードされます。また必要な資料も、pdf形式やパワーポイント形式でポータルの授業共有ファイルにアップロードされます。それらを参考文献としてください。</p>		
学びの手立て	<p>毎時間、授業共有ファイルにアップロードされる電子ファイルを参照すること。</p>		
評価	<p>出席：規定通り。 試験：規定通り。 提出物：1～2回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>最適化概論。専門演習。情報処理システム演習。卒業論文演習。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行う。 (1) テーマ絞り込みのための調査研究 (2) テーマに沿った研究	メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について切磋琢磨すること。
	到達目標 テーマに沿った研究成果の報告書の提出。2月末。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 9月～11月：テーマに沿った調査研究を行い、2～3度、プレゼンテーションをしてもらう。 12月～2月：テーマに沿った研究成果の報告書を提出する。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った、資料など。
	学びの手立て 常に最新技術動向やグローバル社会について関心を払うこと。
	評価 授業態度50%。提出物25%。プレゼンテーション25%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、Ⅱ。卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ。
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能の基礎部分を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通知する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 ・研究計画が立案できる。 ・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。 ・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。 ・自身の研究内容を論理的に説明できる。 	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義時に指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通知する。 ・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。 ・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。 ・この演習の単位を取得していない場合、3年次の専門演習Ⅰ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。
	<p>評価</p> <p>最終課題（100点満点）および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 （最終課題得点）×（出席率）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	2年	初回の授業時に決めます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「論理的に自分の主張を伝える」これから就職の面接に臨む皆さんにとっても大変重要なものでしょう。経済学は、様々な社会経済問題について、論理的思考を突き詰めて現象を説明・予測しようとする学問です。このゼミでは、テキストの輪読やグループ討論を通じて、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルを身につける事を目標とします。</p>	<p>前提知識は問いませんが、意欲のある学生を募集します。特に、次の項目に一つでも当てはまる方は是非、一緒に勉強しましょう。 ①ゼミが静かになった時、「そろそろ発言しなきゃいけないかな」と思って発言する人。②「ミクロ経済学」「マクロ経済学」等の社会科学の理論科目が好きな人。③ゼミの基本は学生同士で切磋琢磨しお互いに向上しあうことです。主体的に行動できる人。</p>
到達目標	論理的に自分の考えを伝える能力を養います。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、班分け	
	2	資料作成方法の説明	
	3	資料作成方法の説明	
	4	報告	
	5	報告	
	6	報告	
	7	報告	
	8	報告	
	9	報告	
	10	報告	
	11	報告	
	12	報告	
	13	報告	
	14	報告	
15	報告		
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 大竹文雄『経済学的思考のセンス』，中公新書</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読の進め方 <p>報告担当者がテキストのレジュメを準備し報告します。わからない点や納得のいかない点を議論します。このゼミでは、テキストの輪読やグループ討論を通じて、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルを身につける事を目標とします。初回にも説明しますが、出席と課題の実践は必要条件ですから、自律的なスケジュールリングができない方は注意して下さい</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>出席状況30%、課題提出30%割、成果報告40%とする。但し、講義の 1/3 以上欠席したものは原則不可とする。</p>
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	2年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学における講義はレポート・論文の作成やプレゼンテーション（発表）など自分の意見や主張を述べ、文章に表すなど高校までの授業や勉強方法とは異なる方法で課題や試験を回答・提出しなければならない。そこでこの講義では、問題解決能力、情報の収集、レポートの作成方法や発表についての技術・方法について紹介し、実際に練習・演習を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 問題解決能力に必要な考える「型」を学ぶ 問題に取り組む方法はすでに先人の知識として蓄積されています。まずはそれを真似て、自分なりに応用してみましょう</p> <p>2. レポート・卒論など文章の書き方を学ぶ 長文や文章の書き方もコツと練習の繰り返しで上手になります。まずは簡単なものから学びましょう。文章表現は就活のエントリーシートや面接での自己PRにも役に立ちます。</p>	<p>中国のことわざに「魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ」というものがあります。考え方や行動の仕方を身につけることでどんな分野でも応用することができます。大学で学んだことが直接社会で仕事で役に立たないと嘆くのではなく、その過程で得た苦労や考え方は一生役に立つものです。これが問題解決能力です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習案内、注意点	自己紹介の準備
	2	表現方法①	
	3	表現方法②	
	4	制約条件、時間管理①	スケジュールの管理
	5	制約条件、時間管理②	
	6	問題の設定①定義	
	7	問題の設定②応用（就職活動を事例に）	内容に関する意見・自分への適応
	8	レポート・論文の作成①定義・手順	課題（感想文）
	9	レポート・論文の作成②書き方	
	10	レポート・論文の作成③構成	
	11	論理的思考能力①	課題の設定
	12	論理的思考能力②	
	13	グループディスカッション①議論の手法	
	14	グループディスカッション②演習	アイデアの創出
15	グループディスカッション③発表	資料の準備	
16			

テキスト・参考文献・資料など
講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

学びの手立て

トレーニングを続けることで筋力をつけることができますが、適切な指導を受けないと効率的に筋力はずかえってケガをしてしまいます。能力も同じで、方法と練習を適切に行うことで上達していきます。これは日本の伝統的な守破離の精神に通じるものがあります。まずは「守」練習で忠実に真似をし、「破」で教えを少し変えてみる、そして「離」で教えから離れて新しい技術・考え方を編み出すといったものです。簡単な課題から始め徐々にレベルを上げ、練習と実践を繰り返し、能力を身につけていきましょう。

評価

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

上位科目：専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ
関連科目：基礎演習Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Processing (Javaベースのオープンソース統合環境) によるプログラミングを通して問題解決能力の養成, 基本的な情報技術に関する知識の習得を目指す。また, プログラミングのみならずフィジカルコンピューティングについても検討を行っていく。	メッセージ AR (拡張現実感), VR (仮想現実感) などのインタフェースについても検討を行います。 最後には各自で課題作成に取り組み, ゼミ内で発表会を行います。
	到達目標 Java/Processingに関する一般的な知識を有し, 小規模なプログラムが適切に書ける。 AR/VRに関する一般的な概念を理解し, 簡単なシステムを構築できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	Processing プログラミングの基礎 (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	Processing プログラミングの基礎 (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	Processing プログラミングの基礎 (3)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	2Dグラフィック (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	2Dグラフィック (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	アニメーションと3Dグラフィック	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	イベント処理	課題作成・発表準備
	9	課題発表 (イベントを利用したアプリケーション)	課題作成・発表準備
	10	ライブラリの活用	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	Processing と外部機器の接続	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	ARプログラミング (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	ARプログラミング (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	14	個人製作によるシステムの企画・開発 (1)	課題作成・発表準備
15	個人製作によるシステムの企画・開発 (2)	課題作成・発表準備	
16	最終発表会		
	テキスト・参考文献・資料など 田原 淳一郎「Processingプログラミング入門」カットシステム (2010) 【参考文献】 Casey Reas 他「Processingをはじめよう 第2版」オライリージャパン (2016) 田所淳「Processing クリエイティブ・コーディング入門」技術評論社 (2017) 西田竜太「遊んで学ぶ はじめてのプログラミング (GAME DEVELOPER BOOKS)」秀和システム (2016) 橋本直「ARプログラミング Processingでつくる拡張現実感のレシピ」オーム社 (2012)		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので, 必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく, 参考文献も適宜調べること。 演習時間以外にも課外活動 (情報関連シンポジウム参加, 情報系ゼミの卒論発表会参加等) を紹介しますので, 積極的に参加するようにしましょう。		
	評価 出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	様々な経済データを利用してExcel計算を行う。表計算を通じ、分散・標準偏差・相関係数・回帰分析の計算の仕組みを理解する。データ分析機能を使ったExcel計算を使いこなすようになる。	初学者を対象にした演習です。Excelを使った経済学の学習に興味を持つ、きっかけをつくっていきます。

到達目標	分散・標準偏差の計算結果を説明できる。 相関係数・回帰分析の計算結果を説明できる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	Excelの基本操作	絶対参照・複合参照の復習
	3	基本統計量①：計算	データ分析の設定を復習する
	4	基本統計量②：計算結果の理解	統計量の概念を復習する
	5	分散・標準偏差の計算の仕組み①：表計算	計算の仕組みを復習する
	6	分散・標準偏差の計算の仕組み②：様々なデータによる計算	計算の仕組みを理解する
	7	相関分析①：データ分析機能による計算	相関係数の概念を復習する
	8	相関分析②：表計算	計算の仕組みを復習する
	9	相関分析③：様々なデータによる計算	計算の仕組みを理解する
	10	学習内容の復習1	計算結果を説明する
	11	回帰分析①：データ分析機能による計算	回帰分析の概念を復習する
	12	回帰分析②：表計算	計算の仕組みを復習する
	13	回帰分析③：様々なデータによる計算	計算の仕組みを理解する
	14	学習内容の復習2	計算結果を説明する
15	学習内容の復習3	学習内容を大まかに理解する	
16	4年次卒業論文発表会	最終的な到達目標を知る	

実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布して開設する。 参考文献 [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。 [2] 唐渡広志『44の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2013年。 [3] 山本祐・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。
----	---

学びの手立て	履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。
--------	---

評価	提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：基本統計量・相関係数・回帰分析のExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、調べる演習を続けます。 関連科目として、「産業情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を受講しておくとい良いでしょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>計算機の高機能低価格化およびインターネットの普及にともない、業務の効率化や顧客サービスの充実を実現する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものとなっている。また、近年の複雑化した経済状況を分析する上でも情報処理技術は必須だと言える。本演習では、受講生がシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目的とする。</p>	<p>本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。</p>
到達目標	システム開発プロセスについて理解し、Webシステム開発等に必要プログラミング技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/受講受付	次回講義の予習課題
	2	要件定義(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	3	要件定義(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	4	基本設計(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	5	基本設計(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	6	詳細設計(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	7	詳細設計(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	8	テスト計画(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	9	テスト計画(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	10	コーディングとデバッグ(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	11	コーディングとデバッグ(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	12	テスト(i)	本時の演習課題, 次週の予習課題
	13	テスト(ii)	本時の演習課題, 次週の予習課題
14	発表会(i)		
15	発表会(ii)		
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト未定 (第一回目の講義で周知します)。 参考文献・資料 (1) 高橋麻奈 著 「やさしいJava」, ソフトバンク (2) 廣川・桑村 著 「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ</p>		
学びの手立て	<p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>		
評価	基本的に欠席は認めない。授業態度とレポートで総合的に判断する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「専門演習 I」, 「専門演習 II」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい 講義当初はハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術の習得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を義務付けます。また本演習は、続く「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の基盤を形成する大切な科目であることに留意してもらいたいと考えます。	メッセージ 毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができず。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。
	到達目標 ①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 ガイダンス 2週目 コンピュータ・グラフィックス①（基礎的な技術） 3週目 コンピュータ・グラフィックス②（企業システムへの応用） 4週目 マルチメディア①（基礎的な技術） 5週目 マルチメディア②（企業システムへの応用） 6週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識① 7週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識② 8週目 データベース・システム①（基礎的な技術） 9週目 データベース・システム②（企業システムにおけるデータベースの役割） 10週目 データベース・システムの設計 11週目 データベース・プログラミング① 12週目 データベース・プログラミング② 13週目 システム部門で必要とされる情報セキュリティの知識 14週目 企業内ネットワーク・システムの知識 15週目 企業内情報システムの問題解決技法 16週目 データの集計と統計処理技法
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。 栢木 厚『イメージ&クレーパー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』技術評論社 城田 比佐子『情報処理教科書 出るところだけ! ITパスポート』翔泳社 五十嵐 聡『ITパスポートパーフェクトラーニング過去問題集』技術評論社
	学びの手立て ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。 ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。 ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。 ④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。
評価	出席状況、受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習に続く科目としては、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習Ⅱ」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	2年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、4年次の卒業論文制作に向けての第1段階となる。まず、情報技術全般に関する基本的な知識を学び、資格取得に向けた対策を行う。目標とする資格としては、「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」を設定している。この試験と連動した形で講義を進め、情報技術を学ぶ。講義後半では、3年次の専門演習に向けた個別テーマを決定する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な情報技術（プログラミング、データベース、ネットワーク関連等）の知識を得て、自分で個別テーマの選定をできるレベルまで引き上げる。どのようなツールや技術を用いれば、どのような事ができるのかなど、ウェブアプリケーションやスマホ・タブレット用のアプリ開発などの準備や手順確認などを自力でできるようにする。</p>	<p>1年、2年前期で学んだ情報技術および経済経営の知識を生かして、より実践的なアプローチをスタートさせる。積極的に講義参加する姿勢が重要である。高いモチベーションを持って望んで欲しい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキスト・参考書の内容確認
	2	ITパスポート試験対策1	過去問復習
	3	ITパスポート試験対策2	過去問復習
	4	ITパスポート試験対策3	過去問復習
	5	システム設計とは？	課題レポート1
	6	プログラミングの課題1	課題レポート2
	7	プログラミングの課題2	課題レポート3
	8	プログラミングの課題3	課題レポート4
	9	データベース設計1	設計練習
	10	データベース設計2	課題復習
	11	ネットワーク関連技術1	個人のサーバー設定1
	12	ネットワーク関連技術2	個人のサーバー設定2
	13	基本情報技術者試験対策1	過去問復習
14	基本情報技術者試験対策2	過去問復習	
15	基本情報技術者試験対策3	過去問復習	
16	個別テーマ提案プレゼン	プレゼンの考察	
<p>テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。</p>			
<p>学びの手立て</p> <p>卒業研究のテーマ選びがこの講義のメインテーマである。そのためには、色々な知識や技術を修得しなければならない。様々な技術やツールを学び、次のステップに進んで欲しい。</p>			
<p>評価</p> <p>評価は出席状況や課題レポート・プレゼンにより総合的に判断する。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義で得た知識や技術をベースに3年次の専門演習 I および専門演習 II での個別研究を進めていく。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を持ち、
解決力、創造力を養成します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習の目的は、地域の振興で財政がどのように関わっていくのか、どのような役割をはたしたほうが望ましいのかを研究することである。沖縄県は、地域経済と自治体の財政の関係が深い。まず、わが国経済の動向を学習した後、沖縄県経済について学習する。次に、沖縄の振興と財政の役割について検討していく。	身近な沖縄県の経済、産業について学び、さらに経済や地域を振興していくにはどうすればよいかいっしょに考えていきましょう。

到達目標
①基本的な情報収集力、情報の取捨選択力を見につける。 ②取捨選択した情報を読み取る能力を身につけ、テーマを設定する力をつける ③課題レポートに取り組み、テーマ設定、論理展開力、プレゼンテーション力を高める。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 専門演習基礎のオリエンテーション 第2回 日本経済の概要① 第3回 日本経済の概要② 第4回 日本経済の概要③ 第5回 沖縄県経済の概要① 第6回 沖縄県経済の概要② 第7回 沖縄県経済の概要③ 第8回 地域振興と財政① 第9回 地域振興と財政② 第10回 地域振興と財政③ 第11回 沖縄振興計画① 第12回 沖縄振興計画② 第13回 沖縄振興計画③ 第14回 専門演習基礎の総括① 第15回 専門演習基礎の総括②

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>第一回の演習の時間に説明します。資料とは印刷物、PDFファイルとして配布する予定です。</p>
-------	--

学びの手立て	<p>はじめに日本経済の概要について学び、次に沖縄県の産業、経済について学びます。この過程から、各自の関心のあるテーマを探っていきます。</p>
--------	--

評価	<p>演習への出席状況、課題の提出状況、演習における取り組み、ディスカッションにおける参加の姿勢等、総合的に評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 I</p>
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	E-mail: k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、情報技術に関する基礎知識をベースとして、デジタル技術を活用したコンテンツ制作およびメディア表現（コンピュータグラフィックス、映像メディア、デザイン等）に必要な知識と技能習得を目的とする。	メッセージ 本演習では、コンテンツ制作に必要な基礎知識ならびに技術習得を目指すため、講義外での取り組みが必要となる。また資格取得などに積極的に取り組むこと。
	到達目標 情報技術に関する基礎技術を修得し、コンテンツ制作に必要な基本技能を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回：ガイダンス 第2回～10回：個別の研究テーマの基礎となる情報技術、メディア技術に関する課題制作および研究に必要な調査に取り組む。また関連技術の学習および課題制作を行い、進捗状況の報告を行う。 第11回～14回：課題制作、研究調査を踏まえた成果の発表資料等の作成 第15回：課題発表 第16回：総括
	テキスト・参考文献・資料など ・初回の講義で周知する。
	学びの手立て 個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。 より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。
	評価 評価は、課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」がある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。
	到達目標 卒業論文演習までの全体の半分を終了する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。今後、それに続いて、テーマに沿った調査・研究をし、専門演習Ⅱに引き継ぎます。この専門演習Ⅰでテーマを確立しておくことを勧めます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。しっかりしましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度 50%。提出物 25%。プレゼンテーション 25%。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習Ⅱ。卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	3年	初回の授業時に決めます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「論理的に自分の主張を伝える」これから就職の面接に臨む皆さんにとっても大変重要なものでしょう。経済学は、様々な社会経済問題について、論理的思考を突き詰めて現象を説明・予測しようとする学問です。このゼミでは、テキストの輪読やグループ討論を通じて、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルを身につける事を目標とします。</p>	<p>前提知識は問いませんが、意欲のある学生を募集します。特に、次の項目に一つでも当てはまる方は是非、一緒に勉強しましょう。 ①ゼミが静かになった時、「そろそろ発言しなきゃいけないかな」と思って発言する人。②「ミクロ経済学」「マクロ経済学」等の社会科学の理論科目が好きな人。③ゼミの基本は学生同士で切磋琢磨しお互いに向上しあうことです。主体的に行動できる人。</p>
到達目標	論理的に自分の考えを伝える能力を養います。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、班分け	
2	資料作成方法の説明		
3	資料作成方法の説明		
4	報告		
5	報告		
6	報告		
7	報告		
8	報告		
9	報告		
10	報告		
11	報告		
12	報告		
13	報告		
14	報告		
15	報告		
16			
	テキスト・参考文献・資料など	大竹文雄『経済学的思考のセンス』，中公新書	
	学びの手立て	<p>・輪読の進め方 報告担当者がテキストのレジュメを準備し報告します。わからない点や納得のいかない点を議論します。 このゼミでは、テキストの輪読やグループ討論を通じて、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルを身につける事を目標とします。初回にも説明しますが、出席と課題の実践は必要条件ですから、自律的なスケジュールリングができない方は注意して下さい</p>	
	評価	出席状況30%、課題提出30%割、成果報告40%とする。但し、講義の 1/3 以上欠席したものは原則不可とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、専門演習基礎で習得した技能、調査をもとに、各自がテーマを設定して個別の研究に取り組む。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組む。	メッセージ 本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。
	到達目標 ・個別の研究テーマに基づいた、調査・研究を実施し考察する。 ・研究計画を立案し、課題制作に取り組む。	

学びの準備	到達目標 ・個別の研究テーマに基づいた、調査・研究を実施し考察する。 ・研究計画を立案し、課題制作に取り組む。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回：ガイダンス・研究テーマ調査計画 第2回～10回：個別テーマに関する調査・研究に取り組む。関連技術の学習および課題制作を行い、進捗状況の報告を行う。 第11回～14回：研究計画に基づいた調査研究および発表資料、課題等の作成 第15回：研究成果中間発表 第16回：総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義内で適宜指定する。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義内で適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。</p>
	<p>評価</p> <p>評価は、研究課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>評価は、研究課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「専門演習 I」で設定した研究計画・テーマに基づいて、「専門演習 II」へと継続して取り組む。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 ・研究計画が立案できる。 ・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。 ・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。 ・自身の研究内容を論理的に説明できる。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。 ・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。 ・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。 ・この演習の単位を取得していない場合、次の専門演習Ⅱ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。
--------	---

評価	<p>最終課題（100点満点）および出席率をもとに以下のような評価を算定する。</p> <p>（最終課題得点）×（出席率）</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文作成に向けて、プレゼンテーション、テーマ設定、統計分析の手法などの準備を行う。卒業論文の作成方法を身に付け、自身の卒業論文作成に適用できることを目的とする。	前半ではプレゼンテーションや統計分析、文書表現など卒論の作成に必要な考え方や作業を紹介します。そして徐々に卒業論文の作成に向けての準備作業を行ってまいります。最終的にはテーマを設定し、夏休み中に文献を読み進めてください。

到達目標	1. プレゼンテーションや統計分析など卒論の作成に必要な考え方や準備を行う。 卒論を作成するにはまず卒論がどのようなものかを知る、設計図が必要です。卒論の工程を学び段階的な作業方法を学びましょう。 2. 卒業論文のテーマを設定する。 身の回りや社会、授業で気になった問題点やテーマを見つけ、図書館で文献を探して卒論のテーマを選びましょう。
------	--

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1~5回プレゼンテーションの方法と各自発表 6~10テーマ設定方法と各自発表 11~15統計分析・手法の紹介</p>

テキスト・参考文献・資料など	講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。
----------------	-------------------------

学びの手立て	授業の内容を深めるため課題を与えます。また課題は卒論のテーマ設定やプレゼンなど、時間外の作業を伴い、しかも時間がかかるものもあります。締め切り直前に作業を行うのではなく、早めに少しずつ取り組み、わからないところがあればすぐに相談するようにしてください。
--------	--

評価	授業態度3割・授業内課題4割・最終課題3割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。 日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 上位科目：専門演習Ⅱ・卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ 関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 最小2乗法(OLS)に関するExcelの諸計算を自分で実行できるようになる。 貨幣需要関数の計量経済分析を通じて現実の金融経済を理解する力を身に着ける。	メッセージ Excelを利用した計量経済分析に習熟するだけでなく、金融経済論の学習に興味を持ち続けられるよう、工夫します。
	到達目標 ダミー変数を利用した検証の計算結果を説明できる。 多重共線性の原因と対応について説明できる。 系列相関とダービン・ワトソン比の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	専門演習基礎の復習	Excelファイルを復習する
	3	マネタリー・ベースとコール・レートの検証①	散布図と計算結果を対応
	4	マネタリー・ベースとコール・レートの検証②	計算結果のWord記述と理解
	5	貨幣需要関数の検証①：回帰分析	参考文献[3]の第10章
	6	貨幣需要関数の検証②：計算結果の理解	参考文献[3]の第10章
	7	学習内容の復習1	貨幣需要の理論と実際を復習
	8	ダミー変数を利用した検証①：定数項ダミー	参考文献[4]の第7章第1～3節
	9	ダミー変数を利用した検証②：係数ダミー	参考文献[4]の第7章第1～3節
	10	貨幣需要関数の検証③：多重回帰分析	参考文献[3]の第10章
	11	貨幣需要関数の検証④：多重共線性	参考文献[4]の第7章第4節
	12	学習内容の復習2	貨幣需要の理論と実際を復習
	13	貨幣需要関数と系列相関	参考文献[4]の第9章第1節
	14	貨幣需要関数とダービン・ワトソン比	参考文献[4]の第9章第2節
15	学習内容の復習3	貨幣需要の理論と実際を復習	
16	予備時間		
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。		
	評価 提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：ダミー変数、ダービン・ワトソン比のExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、③計算結果を理解する演習を続けます。 関連科目として、「産業情報分析 I・II」、「データ解析論 I・II」、「ファイナンシャルエコノミクス I・II」を受講しておくといでしょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習基礎で身につけたプログラミング技能を基に、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。</p> <p>（1週目）ガイダンス・担当スケジュールの調整</p> <p>（2-13週目）進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>（14週目）発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>（15週目）発表会 時間外の学習内容：取組課題の整理</p> <p>（16週目）総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料</p> <p>(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク</p> <p>(2) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ</p> <p>※その他、適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。取組状況および取組成果で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「専門演習 II」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3 年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付けます。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、モノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたいと考えます。	毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。
到達目標	①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：ガイダンス 2：研究資料の収集方法① 3：研究資料の収集方法② 4：研究資料の収集方法③ 5：データの整理と解析手法① 6：データの整理と解析手法② 7：データの整理と解析手法③ 8：資料に基づく調査結果報告① 9：資料に基づく調査結果報告② 10：資料に基づく調査結果報告③ 11：資料に基づく調査結果報告④ 12：資料に基づく調査結果報告⑤ 13：資料に基づく調査結果報告⑥ 14：専門演習 I 発表会① 15：専門演習 I 発表会② 16：専門演習 I 発表会の総括
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。 ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。 ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。 ④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。
評価	出席状況、受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習に続く科目としては、「専門演習Ⅱ」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習Ⅱ」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、専門演習基礎で学んだ基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。また、実際の企業ではどのような情報技術が必要でどのような人材が求められているのかなどを、インターンシップ企業を紹介しながら説明していく。</p>	<p>夏期休業中に実施される企業インターンシップに向けての心構えや関連技術のeラーニングコンテンツなどの取り上げる。個別研究テーマを掘り下げるというメインテーマに加えて、どのような就職先を選ぶのかも重要な意思決定となる。目標意識を持って積極的に演習に望んでもらいたい。</p>
到達目標	<p>基本的な情報技術の知識をベースに個別研究テーマを進めて行く。どのようなツールや技術を用い、どのレベルのアプリケーションやリサーチ結果を求めるのか客観的に考察しながら目標設定できる能力を養って欲しい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	システム設計系卒論の説明	考察
	3	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の説明	考察
	4	卒業論文と就職希望業種との連携	考察
	5	eラーニングコンテンツの説明	考察
	6	過去の卒論内容紹介 1	考察
	7	過去の卒論内容紹介 2	考察
	8	インターンシップ企業の紹介と将来の職業について	履歴書、エントリーシート課題
	9	インターンシップに向けての心構え 何を学ぶのか？	履歴書、エントリーシート課題
	10	インターンシップに向けての課題(コンテンツ系の場合)	履歴書、エントリーシート課題
	11	インターンシップに向けての課題(システム設計系の場合)	履歴書、エントリーシート課題
	12	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 1	個別テーマの考察
	13	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 2	個別テーマの考察
14	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 3	個別テーマの考察	
15	卒業論文中間発表 1	他の学生のテーマについて考察	
16	卒業論文中間発表 2 および総括	他の学生のテーマについて考察	
実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。		
学びの手立て	<p>将来の職業や自分の興味をベースにして個別研究テーマを選定できる能力（情報技術や経済経営の知識、考える力）を身につけることがメインテーマとなる。そのためには、自力で情報収集し、自力でツールやプログラム言語を選定し、開発できる能力が必須となるため、様々な経験を積んで欲しい。</p>		
評価	<p>評価は出席状況やプレゼンテーションにより総合的に判断する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、後期開講の専門演習Ⅱにつなげていく。</p>
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3 年	maemura@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	演習 I では、沖縄県の経済、振興について基本的な知識を学び、レポートをまとめ報告することを学習しました。演習 II では、各自でテーマをしばり、情報収集・整理・分析、論文作成、報告、質疑の能力をよりいっそう高めていきます。これは卒業論文演習で卒業論文をまとめる際の基本的な能力を身につけることとなります。	沖縄県の経済や産業について学び、地域の振興をはかるにはどうするかいっしょに考えていきましょう。
到達目標		
①多くの情報の中から、自分にとって必要な情報を取捨選択する能力をつける		
②レポートを作成することにより、テーマの設定、論理展開、情報の取集・分析能力を高める		
③レポートの報告を通じて、プレゼンテーション、ディスカッションの能力を高める。		

学 び の 実 践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	(1) 沖縄県の経済① (2) 沖縄県の経済② (3) 沖縄振興計画① (21世紀プラン) (4) 沖縄振興計画② (21世紀プラン) (5) 沖縄振興計画③ (21世紀プラン) (6) レポート・論文計画の作成① (7) レポート・論文計画の作成② (8) レポート・論文計画の作成③ (9) 情報収集と整理・分析① (10) 情報収集と整理・分析② (11) 論文計画のプレゼンテーション① (12) 論文計画のプレゼンテーション② (13) 論文計画のプレゼンテーション③ (14) 論文計画のプレゼンテーション④ (15) 論文計画のプレゼンテーション⑤ (16) 演習 II の総括
	テキスト・参考文献・資料など 演習の時間に説明します。
学びの手立て	専門演習基礎で学んだ基本事項を基に、沖縄県の経済、産業を中心として各自が取り組みたいテーマを絞っていきます。各自が関心のある分野、将来、就職して取り組む仕事を想定してテーマ設定を行います。
評価	演習への出席状況、課題の取り組み状況、レポートの作成、報告を基に評価します。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-----------------------	------------------------

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Androidアプリケーションの開発を通してオブジェクト指向による設計と実装について修得することを目指す。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 Androidアプリケーションの開発を通してオブジェクト指向による設計と実装について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 開発環境のAndroid Studioにてゲームの作成を通して画面デザインやプログラミング（Java）について学習していく。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義開始時に指定する 参考書籍： ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
	評価 出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「自分のテーマに沿った研究」を遂行すること以外にありません。	メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について引き続き、自ら吸収し、切磋琢磨すること。
	到達目標 自分のテーマに沿った専門演習のテーマを発表してもらいます。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。それに続いて専門演習Ⅰで、テーマに沿った調査・研究の概要を修了しています。それを専門演習Ⅱに引き継ぎ、研究発表をしてもらいます。</p> <p>その後、卒業年次の卒業論文演習Ⅰ・Ⅱにおいて、「論文」としてまとめてもらいます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。最新技術動向の調査研究から、技術の習得。あるいは各種統計データから導かれる結論について、積極的に取り組んで自らの解を得ること。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度50%。提出物25%。プレゼンテーション25%。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ</p>
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	3年	初回の授業時に決めます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「論理的に自分の主張を伝える」これから就職の面接に臨む皆さんにとっても大変重要なものでしょう。経済学は、様々な社会経済問題について、論理的思考を突き詰めて現象を説明・予測しようとする学問です。このゼミでは、テキストの輪読やグループ討論を通じて、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルを身につける事を目標とします。</p>	<p>前提知識は問いませんが、意欲のある学生を募集します。特に、次の項目に一つでも当てはまる方は是非、一緒に勉強しましょう。 ①ゼミが静かになった時、「そろそろ発言しなきゃいけないかな」と思って発言する人。②「ミクロ経済学」「マクロ経済学」等の社会科学の理論科目が好きな人。③ゼミの基本は学生同士で切磋琢磨しお互いに向上しあうことです。主体的に行動できる人。</p>
到達目標	論理的に自分の考えを伝える能力を養います。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、班分け	
	2	資料作成方法の説明	
	3	資料作成方法の説明	
	4	報告	
	5	報告	
	6	報告	
	7	報告	
	8	報告	
	9	報告	
	10	報告	
	11	報告	
	12	報告	
	13	報告	
	14	報告	
15	報告		
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 大竹文雄『経済学的思考のセンス』，中公新書</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読の進め方 <p>報告担当者がテキストのレジュメを準備し報告します。わからない点や納得のいかない点を議論します。このゼミでは、テキストの輪読やグループ討論を通じて、効果的かつ論理的なプレゼンテーションスキルを身につける事を目標とします。初回にも説明しますが、出席と課題の実践は必要条件ですから、自律的なスケジュールリングができない方は注意して下さい</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>出席状況30%、課題提出30%割、成果報告40%とする。但し、講義の 1/3 以上欠席したものは原則不可とする。</p>
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「
実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、「専門演習Ⅰ」で設定した個別の研究テーマの調査・研究を深め、更なる考察を行っていく。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組み、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」につなげていく。	メッセージ 本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。
	到達目標 ・個別の研究テーマに関する考察を深め、各自で設定した目標達成に向けて計画的に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回：ガイダンス 第2回～10回：個別テーマに関する取り組みについて進捗状況の報告を行う。 第11回～13回：研究計画に基づいた調査研究および発表資料、課題等の作成 第14回：発表会 第15回：発表会 第16回：総括
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜指定する。
	学びの手立て 毎回、個別の研究テーマに関連した課題を設定し取り組むこと。 より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。
	評価 評価は、研究課題への取り組みや成果等を総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「専門演習Ⅱ」で取り組んだ研究テーマを深め、「卒業論文演習Ⅰ」へと継続して取り組む。
-------	--

※ポリシーとの関連性 産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、問題解決力、創造力を養成します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習基礎で学習した沖縄県の経済、地域振興についてさらに掘り下げて学習していく。沖縄県の経済、地域振興についてテーマを絞り、情報収集、整理、分析について学ぶ。これによってレポートや論文としてまとめる基本的な能力を身につけていく。さらに、報告や質疑を通じてディスカッションの能力を高めていく。</p>	<p>演習Ⅰでとり上げたテーマをさらに掘り下げていきます。</p>
到達目標	<p>①テーマを設定し、テーマに沿って論理を展開する能力を高めます。 ②テーマに関連する情報を取捨選択し活かす能力を養います。 ③レポートの作成について学習し、卒業論文作成のための基本事項を身につけます。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 沖縄県の経済① (2) 沖縄県の経済② (3) 沖縄振興計画①（21世紀プラン） (4) 沖縄振興計画②（21世紀プラン） (5) 沖縄振興計画③（21世紀プラン） (6) レポート、論文の作成について① (7) レポート、論文の作成について② (8) テーマ設定と情報収集・分析① (9) テーマ設定と情報収集・分析② (10) レポート作成とプレゼンテーション① (11) レポート作成とプレゼンテーション② (12) レポート作成とプレゼンテーション③ (13) レポート作成とプレゼンテーション④ (14) レポート作成とプレゼンテーション⑤ (15) 演習Ⅱの総括① (16) 演習Ⅱの総括②
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>第一回の演習の時間に説明します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>演習Ⅰで取り組んだテーマをさらに掘り下げ、情報収集、分析を通して、テーマ、論理構成を再検討します。</p>
	<p>評価</p> <p>演習への出席状況、課題の取り組み状況、レポートの作成、報告を基本に評価します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ</p>
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は専門演習基礎、専門演習Ⅰおよび企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、特に興味のある事柄にテーマを絞り、各自、考察を進めていく。12月には個別テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その成果を公開する。4年次配当科目の「卒業論文」に向けた最終準備科目である。	メッセージ 個別研究テーマを掘り下げるといふメインテーマに加えて、どのような就職先を選ぶのかも重要な意思決定となる。目標意識を持って積極的に演習に望んでもらいたい。
	到達目標 基本的な情報技術の知識をベースに個別研究テーマを進めて行く。どのようなツールや技術を用い、どのレベルのアプリケーションやリサーチ結果を求めるのか客観的に考察しながら目標設定できる能力を養って欲しい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	過去の卒業論文の紹介	全体考察
	3	システム設計系卒論の目標設定	全体考察
	4	コンテンツ制作系卒論の目標設定	全体考察
	5	個別報告(プレゼン) 1	個別研究の開発作業
	6	個別報告(プレゼン) 2	個別研究の開発作業
	7	個別報告(プレゼン) 3	個別研究の開発作業
	8	個別報告(プレゼン) 4	個別研究の開発作業
	9	個別報告(プレゼン) 5	個別研究の開発作業
	10	個別報告(プレゼン) 6	個別研究の開発作業
	11	個別報告(プレゼン) 7	個別研究の開発作業
	12	個別報告(プレゼン) 8	個別研究の開発作業
	13	個別報告(プレゼン) 9	個別研究の開発作業
	14	卒業論文発表会 1	全体考察
	15	卒業論文発表会 2	全体考察
	16	総括	
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に個別テーマ毎に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業や自分の興味をベースにして個別研究テーマを選定できる能力(情報技術や経済経営の知識、考える力)を身につけることがメインテーマとなる。そのためには、自力で情報収集し、自力でツールやプログラム言語を選定し、開発できる能力が必須となるため、様々な経験を積んで欲しい。		
	評価 評価はプレゼンテーションの内容により判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、4年次開講の卒業論文演習Ⅰにつなげていく。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通知する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 ・研究計画が立案できる。 ・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。 ・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。 ・自身の研究内容を論理的に説明できる。 	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習Ⅰに引き続き、卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通知する。 ・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。 ・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。 ・この演習の単位を取得していない場合、次の卒業論文演習Ⅰ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。
	<p>評価</p> <p>最終課題（100点満点）および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 （最終課題得点）×（出席率）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。まずは前期で選んだテーマ設定をもとに必要な文献・資料を入手し、先行研究を整理、解説しテーマの研究手法や問題点を文章にまとめることである。これらの作業は卒業論文における文章の書き方やテーマの基本的な知識を身に着けることを目的としている。</p>	<p>専門演習Ⅱでは卒論の作業を本格的に進めていきます。とはいっても、いきなり執筆できるものではありません。これから卒業までの1年半、卒論工程を計画的に進めていく必要があります。前期からの準備をもとに段階的に作業を進めていきましょう。</p>
到達目標	<p>1. プレゼンテーション統計分析など卒論に向けた準備を行う。 発表の仕方、データの分析方法、文献検索など卒論の作成方法を学び作業に反映させましょう。</p> <p>2. 卒業論文のテーマを設定する。 授業や身の回りで気になった問題点やテーマについて深く考え、図書館で文献を読み卒論のテーマを選びましょう。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談とメールによって文献検索や作業の指示を行う。 ・先行研究部分の執筆方法について開設を行う。 ・各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。 <p>発表者は事前に資料を準備して、当日のプレゼンに臨み、参加者は資料と発表をもとに意見交換を行うものとする。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の作成は一朝一夕にできるものではありません。部分部分を少しずつ考え作成して行くことで完成することができます。まずは自分の意見を主張するのではなく、文献を通じて筆者の主張を整理することで、問題点が浮かび上がってきます。この問題点こそ最初に抱く自分の意見や考えです。こうしてまず自分の意見や疑問が浮かびやすい作業から自分の主張を思い付き、執筆することで、高次の自分の意見や主張を考え、卒論に書くことができます。</p>
評価	<p>受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>上位科目：卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ 関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ダービン・ワトソン比、コ克蘭・オーカット法のExcel計算を自分で実行できるようになる。 フィリップス曲線の計量経済分析を通じて現実の金融経済を理解する力を身に着ける。	メッセージ Excelを利用した計量経済分析に習熟するだけでなく、金融経済論の学習に興味を持ち続けられるよう、工夫します。
	到達目標 多重共線性、攪乱項の系列相関に対処しながら金融経済の実証分析を行い、計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	専門演習Ⅰの復習	ダービン・ワトソン比の復習
	3	非伝統的金融政策とダミー変数①：単回帰分析	参考文献[3]の第12・15章
	4	非伝統的金融政策とダミー変数②：重回帰分析	参考文献[3]の第12・15章
	5	フィリップス曲線の回帰分析①：データの確認	参考文献[3]の第14章
	6	フィリップス曲線の回帰分析②：ダービン・ワトソン比の計算	参考文献[3]の第14章
	7	フィリップス曲線の回帰分析③：コ克蘭・オーカット法の導入	参考文献[4]の第9章
	8	フィリップス曲線の回帰分析④：コ克蘭・オーカット法の計算	参考文献[4]の第9章
	9	学習内容の復習1	ファイルから計算方法を復習
	10	学習内容の復習2	フィリップス曲線の理論と実際
	11	計算結果の記述と理解①：フィリップス曲線とコ克蘭・オーカット法	参考文献[4]の第9章
	12	計算結果の記述と理解②：貨幣需要関数とコ克蘭・オーカット法	参考文献[4]の第9章
	13	コ克蘭・オーカット法の繰返し計算①	計算方法の確認を何度も行う
	14	コ克蘭・オーカット法の繰返し計算②	計算方法の確認を何度も行う
15	学習内容の復習3	異なるデータによる試算	
16	4年次卒業論文発表会	最終的な到達目標を知る	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。		
	評価 提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：ダービン・ワトソン比、コ克蘭・オーカット法のExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、③計算結果を理解する演習を続けます。 関連科目として、「産業情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「データ解析論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」を受講しておくといでしょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅰに引き続き、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。</p> <p>（1週目）ガイダンス・担当スケジュールの調整</p> <p>（2-11週目）進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>（12週目）発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>（13週目）発表会 時間外の学習内容：取組課題の整理</p> <p>（14週目）研究論文の作成ポイント</p> <p>（15週目）社会人特別講話</p> <p>（16週目）総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料</p> <p>(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク</p> <p>(2) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ</p> <p>※その他、適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。取組状況および取組成果で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習Ⅰ」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付けます。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、モノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたいと考えます。	毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。
到達目標		
準備	①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：ガイダンス 2：基本計画①・・・仕様書 3：基本計画②・・・システム化計画書 4：基本計画③・・・開発計画書 5：外部設計の基本 6：内部設計の基本 7：プログラム設計の基本① 8：プログラム設計の基本② 9：モジュール化とインターフェイス 10：処理手順のデザイン① 11：処理手順のデザイン② 12：設計内容の文章化① 13：設計内容の文章化② 14：設計内容の文章化③ 15：設計文書のレビュー① 16：設計文書のレビュー②
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。以下、参考文献。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。 ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。 ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。 ④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。
評価	出席状況、受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は、「卒業論文演習Ⅱ」そして「卒業論文演習Ⅲ」に向けた基礎的な講義内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。	原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

到達目標	卒業研究を行うにあたり、基礎的な技術修得、ならびに、文献検索などの情報収集能力を修得する。
------	---

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習Ⅰに引き続き、これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。 各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する</p> <p>参考書籍：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）
-------	--

学びの手立て	<p>「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。</p>
--------	--

評価	出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ</p>
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	4年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習基礎」から「専門演習Ⅱ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。本講義において研究テーマを選定し、研究計画を立案した後、先行研究調査、資料収集、言語選定と開発環境整備を行いながら、続く「卒業論文演習Ⅱ」に備えます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文のテーマに沿ったシステム開発を必須とする。 卒業研究発表会への参加を義務づける。 卒業論文を執筆し、製本する。 	<p>就職活動も重なり多忙となりますが、毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。また進捗が思わしくない、あるいは何かの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文演習 I について	
	2	具体的な研究テーマの検討と決定①	様々観点から熟考する。
	3	具体的な研究テーマの検討と決定②	様々観点から熟考する。
	4	研究テーマのレビュー①	積極的に報告する。
	5	研究テーマのレビュー②	積極的に報告する。
	6	研究計画の立案①	様々な観点から熟考する。
	7	研究計画の立案②	様々な観点から熟考する。
	8	研究計画のレビュー①	積極的に報告する。
	9	研究計画のレビュー②	積極的に報告する。
	10	先行研究の調査と整理	自主的に取り組む。
	11	開発に用いる言語の選定	研究テーマとの関連を考慮する。
	12	開発環境の構築と整備①	積極的に取り組む。
	13	開発環境の構築と整備②	積極的に取り組む。
14	開発に用いる言語の習得①	自主的に取り組む。	
15	開発に用いる言語の習得②	自主的に取り組む。	
16	開発に用いる言語の習得③	自主的に取り組む。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。		
	学びの手立て		
	① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。		
	② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。		
	③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。		
	④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。		
	評価		
	出席状況、受講態度、レポート、各種報告を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義は、「卒業論文演習Ⅱ」に向けた基礎的な講義内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 また、論文演習なので、成果物として紙媒体とPDFで提出してもらいます。
	到達目標 イメージとしては、卒業論文演習までの全体の半分を終了する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎週、適宜報告をしてもらいます。また、プレゼンテーションも2回ほど行います。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った文献。論文など。
	学びの手立て 学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。 しっかりしましょう。
	評価 授業態度50%。提出物25%。プレゼンテーション25%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	4年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アボ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅱに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。卒業論文の作成は情報処理、分析能力を高め、テーマについての問題点を発見・整理し、解決策や提言を文章にまとめること目標とする。卒業論文の作成で客観的な視点から、自らの主張を展開し聞き手に理解を深められるような能力を養うことができる。</p>	<p>4年生前期は就職活動と卒業研究の両立（さらに単位取得）で忙しい時期です。どちらも時間がたくさん必要ですが、手帳などで予定を管理し、空いている時間を見つけてその時間で何ができるかを効率的に考える必要があります。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門演習Ⅱに引き続き、次の作業を行い適宜指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究部分の執筆（文献収集・整理と問題点の指摘） ・上記に基づく、自分の意見・主張を展開させる 2. さらに卒業論文演習Ⅰでは自分の意見や主張を裏付ける客観的事実（事例や統計データ）を収集し、論の展開と執筆を行う。この際統計分析を行うことが望ましい。 3. 講義最後の中間発表会で発表を行い、問題点についてゼミ生との間で議論・意見交換を行う。 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。また出席者は発表者の内容を聞き意見や議論に参加しなければならない。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の作成は一朝一夕にできるものではありません。部分部分を少しずつ考え作成して行くことで完成することができます。今すこしでもできることは何かを常に考え、就活や授業の合間に時間を作り、文献を読み、テーマのことについて考え、行き詰ったらゼミ生と意見を述べ合ったり、すぐに指導教授に相談してください。考えず何もしないのは就活・人生においても有効な時間の使い方ではありません。</p>
評価	<p>発表者への意見質問などの受講態度、発表状況、卒業論文の進捗状況について下記の3点総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒論指導における指摘個所の改善 2. 事前発表の参加・貢献（自分の発表会とそれ以外を含めて） 3. 中間発表会での発表（準備状況を含めて評価）

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：卒業論文演習Ⅱ、専門演習Ⅱ</p> <p>上位科目：卒業論文演習Ⅱ</p> <p>類似科目：データ解析論Ⅱ、産業情報分析Ⅱ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	4年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済財政白書をヒントに、卒業論文のテーマを決定する。 卒業論文の検証の対象になる、現実の金融経済の状況を大まかに理解する。	メッセージ 現実の金融経済への興味から卒業論文の作業を持続できるよう、工夫します。
	到達目標 卒業論文で利用する分析方法の経済学的な考え方を説明できるようになる。 卒業論文で利用する計量経済分析の考え方を説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	専門演習Ⅱの復習	ファイルから学習内容を復習
	3	データの観察と記述	参考文献[1]の第12章
	4	代表的な金融データの紹介	参考文献[1]の第13章
	5	卒業論文執筆例の紹介	参考文献[3]の第10章
	6	経済財政白書の参照①	内閣府HP経済財政白書
	7	経済財政白書の参照②	内閣府HP経済財政白書
	8	卒業論文の分析対象の決定①	経済財政白書の要約
	9	卒業論文の分析対象の決定②	経済財政白書の要約
	10	卒業論文のテーマと経済学①	参考文献[1]・[3]の概要
	11	卒業論文のテーマと経済学②	参考文献の要約
	12	卒業論文のテーマと経済学③	参考文献の要約
	13	計量経済分析の復習①	ダミー変数の復習
	14	計量経済分析の復習②	ダービン・ワトソン比の復習
15	計量経済分析の復習③	コ克蘭・オーカット法の復習	
16	夏期休暇中の作業へ	本格的な計量経済分析の開始	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本拓・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なると卒業論文の執筆が大幅に遅れるので注意すること。		
	評価 提出課題50%：到達目標の達成度を測る。 実習状況30%：卒業論文作成のためのExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活での金融経済に対する理解、そして「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 ・研究計画が立案できる。 ・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。 ・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。 ・自身の研究内容を論理的に説明できる。 	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>専門演習Ⅱに引き続き、卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。 ・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。 ・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。
	<p>評価</p> <p>最終課題 (100点満点) および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 (最終課題得点) × (出席率)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である卒業論文演習Ⅱ、および卒業論文発表へと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	4年	LINE使用（授業開始時通知）	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において、論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につけることが求められています。また、在学中に卒業論文演習Ⅱの履修や卒業論文の作成に役立つように、そのような能力の向上を目標とする。</p>	<p>（1）本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1～2回、また適宜懇親会をやります。勉強のみならず日常的なことでも気軽に相談できるように対応しています。</p> <p>（2）積極的に就職活動を展開すること。</p>
到達目標	<p>（1）ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身につける。 （2）インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。 （3）情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身につけ、分析力を高める。 （4）プレゼンの能力を高める。 （5）卒業論文の中間発表</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	3	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	4	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	5	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	6	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	7	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
8	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
9	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
10	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
11	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
12	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
13	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
14	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
15	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析	
16	卒業論文中間発表		
テキスト・参考文献・資料など	各自の研究テーマに即して、適宜、プリントやPDFファイルを配布し、図書を紹介する。		
学びの手立て	<p>（1）分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。 （2）ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。</p>		
評価	<p>平常点・・・50点（普段の出席状況、学習態度、学習状況など） 発表点・・・50点（資料作成や発表状況など）</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の卒業論文演習Ⅱ
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	調査結果・取組成果を文書として取りまとめる確に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の習得を目指す。	本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習で取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料は、適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。取組状況および取組成果で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習 II」がある。</p>
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業論文演習 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4 年	maemura@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの演習(専門演習基礎、演習 I II) で論文のテーマ設定と展開、情報収集と分析、論文のまとめ方について学習してきた。これらの基本的な知識を基に、各自のテーマにそって卒業論文を作成していく。卒業論文演習 I では、主にテーマの確定と情報収集、分析を中心として各自で論文をとりまとめ、概要報告およびディスカッションを通じて論文を完成させていく。</p>	
	到達目標	

学 び の 実 践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第 1 回 卒業論文のテーマと展開① 第 2 回 卒業論文のテーマと展開② 第 3 回 卒業論文のテーマと展開③ 第 4 回 情報収集と分析① 第 5 回 情報収集と分析② 第 5 回 情報収集と分析③ 第 6 回 卒業論文概要報告① 第 7 回 卒業論文概要報告② 第 8 回 卒業論文概要報告③ 第 9 回 情報収集・分析と論文構成① 第 1 0 回 情報収集・分析と論文構成② 第 1 1 回 情報収集・分析と論文構成③ 第 1 2 回 情報収集・分析と論文作成④ 第 1 4 回 情報収集・分析と論文作成⑤ 第 1 5 回 中間発表準備① 第 1 6 回 中間発表準備②</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>演習のはじめの時間に紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>演習 I ・ II で取り組んだ論文テーマを継続して取り組んでいきます。</p>
	<p>評価</p> <p>演習への出席状況、論文作成の取り組み、論文の概要報告等により総合的に評価します。</p>

学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習 II</p>
-----------------------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性

産業社会の課題を分析し、自らの社会的責任を自覚し積極的に貢献
できることを目的として、個別の卒業論文制作する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	4年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習基礎、専門演習 I・II および企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、個別テーマを選定し研究成果をプレゼンテーションにより公開したが、本演習では、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。	メッセージ 4年間学んできた知識や得た技術を使い、卒業論文を制作する。内容も重要であるが、その内容を人に伝える技術も大切である。よって、研究内容の成果プラスプレゼンテーション技術習得を求める。
	到達目標 現代社会における産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、近未来に対する解決力・創造力を養うという目的のために、個別研究テーマを掘り下げて、多くの人達にプレゼンテーションを行い、自らの考えや成果を伝えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	個別報告	開発およびプレゼン準備
	3	個別報告	開発およびプレゼン準備
	4	個別報告	開発およびプレゼン準備
	5	個別報告	開発およびプレゼン準備
	6	個別報告	開発およびプレゼン準備
	7	個別報告	開発およびプレゼン準備
	8	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
9	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
10	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
11	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
12	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
13	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
14	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
15	考察	論文制作およびプレゼン準備	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に個別に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業に就くための準備を行い、個別研究テーマも連動させて自分の主張する事を自らの言葉でプレゼンテーションできることが重要である。4年間学んだことの集大成として卒業論文があるので、その内容を相手に効率良く短時間で伝える技術や熱意などが必要である。		
	評価 個別報告内容を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、後期開講の卒業論文演習 II につなげていく。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する 参考書籍： ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
	評価 出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。</p>	<p>原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。</p>

到達目標	テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する</p> <p>参考書籍：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 また、論文演習なので、紙媒体とPDFで研究成果を提出してもらいます。
	到達目標 卒業論文を作成し提出する。	

学びの実践	学びのヒント <u>授業計画</u> (テーマ・時間外学習の内容含む) 毎週、適宜報告をしてもらいます。また、プレゼンテーションを適宜してもらい、最終発表をしてもらいます。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った文献。論文など。
	学びの手立て 学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。 しっかりしましょう。
	評価 授業態度18%。提出物41%。プレゼンテーション41%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 就職
-------	-------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	4年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室(5-604、アボ必要)で対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅰに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。卒業論文の作成は情報処理、分析能力を高め、テーマについての問題点を発見・整理し、解決策や提言を文章にまとめること目標とする。卒業論文の作成で客観的な視点から、自らの主張を展開し聞き手に理解を深められるような能力を養うことができる。さらに最終的には卒業論文を完成し、最終発表会で発表を行う。	卒業論文演習Ⅱは卒論論文の完成させ卒業を確定させる最後の必修科目です。これまでの計画性や単位修得や就職活動次第で難易度は個人によって変わってきます。もう卒業は目前です。油断せずに作業を進めましょう。もちろん取得単位の確認も忘れずに。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 卒業論文演習Ⅰにひき続き、卒業論文の作業を行い適宜指導を行い卒業論文を完成させる。 <ul style="list-style-type: none"> 様式、表現への指導 自分の意見・主張を展開させる 客観的根拠や合理性を、科学的手法を用いていること。 最終発表会で発表を行い、自分の主張など卒論の内容をプレゼンを行う。 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。卒論作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要であるため、講義時間外でも適宜指導・添削・助言のための時間と機会を設置する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の作成は一朝一夕にできるものではありません。部分部分を少しずつ考え作成して行くことで完成することができます。今すこしでもできることは何かを常に考え、就活や授業の合間に時間を作り、文献を読み、テーマのことについて考え、行き詰ったらゼミ生と意見を述べ合ったり、すぐに指導教授に相談してください。</p>
評価	<p>発表者への意見質問などの受講態度、発表状況、卒業論文内容について下記の点で総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 卒論指導における指摘個所の改善 事前発表の参加・貢献(自分の発表会とそれ以外を含めて) 最終発表会での発表と修正版(様式への適合)の提出 科学的手法を用い合理性や客観性のある卒業研究にふさわしい内容であること。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：卒業論文演習Ⅰ</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。 ・研究計画が立案できる。 ・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。 ・研究に必要な情報技術の調査およびプログラムをはじめとした実装ができる。 ・自身の研究内容を論理的に説明できる。 	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、卒業論文発表および卒業論文の制作に臨む。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や欠席の多い者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。 ・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。 ・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。
	<p>評価</p> <p>卒業論文発表（50点満点）と卒業論文（50点満点），および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 （卒業論文発表得点＋卒業論文得点）×（出席率）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習までに学んだことを礎として、今後も学習に臨み、更なる知識と技術を身に付けていくこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	4年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の完成のために必要な参考文献・資料、およびデータを追加する。 卒業論文の完成のために必要な計量経済分析の修正を行う。	メッセージ 現実の金融経済への興味から卒業論文の作業を持続できるよう、工夫します。
	到達目標 卒業論文の作成、報告会での発表を通じて、金融経済の検証結果を自分の言葉で説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	分析対象の再確認	経済財政白書を確認する
	3	モデルの再確認	参考文献を確認する
	4	グラフ記述の再確認①	計量経済分析につながるか確認
	5	グラフ記述の再確認②	計量経済分析につながるか確認
	6	計量経済分析の修正①	モデルに誤りがないか確認する
	7	計量経済分析の修正②	モデルに誤りがないか確認する
	8	計量経済分析の修正③	適切な計算結果を抽出する
	9	計量経済分析の修正④	適切な計算結果を抽出する
	10	計算結果の文章記述①	計算結果を文章化する
	11	計算結果の文章記述②	計算結果を文章化する
	12	結論の執筆①	計算結果を解釈する
	13	結論の執筆②	計算結果を解釈する
	14	パワーポイント作成①	卒論内容を視覚的にまとめる
15	パワーポイント作成②	卒論内容を視覚的にまとめる	
16	卒業論文発表会	プレゼンテーションの練習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なると卒業論文の執筆が大幅に遅れるので注意すること		
	評価 卒業論文60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：卒業論文作成のためのExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活での金融経済に対する理解、そして「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兪 炳強	4年	LINE使用（授業開始時通知）	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において、論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につけることが求められています。本演習では、そのような能力の向上を目標とする。	（1）本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1～2回、また適宜懇親会を行います。勉強のみならず日常的なことでも気軽に相談できるように対応しています。 （2）積極的に就職活動を展開すること。

到達目標
（1）ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身につける。 （2）インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。 （3）情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身につけ、分析力を高める。 （4）プレゼンの能力を高める。 （5）卒業論文の作成。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	卒業論文研究指導	データの整理分析
	3	卒業論文研究指導	データの整理分析
	4	卒業論文研究指導	データの整理分析
	5	卒業論文研究指導	データの整理分析
	6	卒業論文研究指導	データの整理分析
	7	卒業論文研究指導	データの整理分析
	8	卒業論文研究指導	データの整理分析
	9	卒業論文研究指導	データの整理分析
	10	卒業論文研究指導	データの整理分析
	11	卒業論文研究指導	データの整理分析
	12	卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
	13	卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
	14	卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
15	卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成	
16	卒業論文最終発表		

実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに即して、適宜、プリントやPDFファイルを配布し、図書を紹介する。
----	---

学びの手立て	（1）分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。 （2）ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。
--------	---

評価	平常点・・・50点（普段の出席状況、学習態度、学習状況など） 発表点・・・50点（資料作成や発表状況など）
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 就職後の社会人としての活躍。または、大学院などへの進学。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 email: ntaira@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。	本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習および卒業論文演習Ⅰで取り組んだ内容を基に、卒業研究として取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目) 総括</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料は、適宜紹介します。</p>
学びの手立て	<p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。取組成果で総合的に判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージは、大学で学んだ知識・技能を就職先の業務に活かすことである。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	4年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習基礎」から「卒業論文演習Ⅰ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。「卒業論文演習Ⅰ」において作成された研究計画書に基づきシステム開発を行い、有用性をはじめとしたフィージビリティスタディを検証した後、卒業論文として整理し、卒業論文研究発表会に備えます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文のテーマに沿ったシステム開発を必須とする。 卒業研究発表会への参加を義務づける。 卒業論文を執筆し、製本する。 	<p>就職活動も重なり多忙となりますが、毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。また進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文演習Ⅱについて	
	2	システム開発①	自主的にシステム開発にあたる。
	3	システム開発②	自主的にシステム開発にあたる。
	4	システム開発③	自主的にシステム開発にあたる。
	5	システム開発④	自主的にシステム開発にあたる。
	6	システム開発⑤	自主的にシステム開発にあたる。
	7	システムレビュー①	積極的にレビューに参加する。
8	システムレビュー②	積極的にレビューに参加する。	
9	システムレビュー③	積極的にレビューに参加する。	
10	卒業論文作成①	卒業論文を執筆する。	
11	卒業論文作成②	卒業論文を執筆する。	
12	卒業論文作成③	卒業論文を執筆する。	
13	卒業論文作成④	卒業論文を執筆する。	
14	卒業論文作成⑤	卒業論文を執筆する。	
15	卒業論文中間発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
16	卒業論文研究発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
	テキスト・参考文献・資料など	適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。	
	学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</p> <p>② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。</p> <p>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</p> <p>④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>	
	評価	出席状況、受講態度、レポート、各種報告、卒業論文、卒業論文研究発表会等を総合的に判断する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒業論文の作成において、培った情報収集力、読解力、文章力、プレゼン力、システム開発力といった様々な能力を、社会人となって大いに発揮してもらいたいと思います。

※ポリシーとの関連性

産業社会の課題を分析し、自らの社会的責任を自覚し積極的に貢献できることを目的として、個別の卒業論文制作する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	4年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰに引き続き、卒業論文演習Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、最終的な卒業研究論文を完成させる。	メッセージ 4年間学んできた知識や得た技術を使い、卒業論文を制作する。内容も重要であるが、その内容を人に伝える技術も大切である。よって、研究内容の成果プラスプレゼンテーション技術習得を求める。
	到達目標 現代社会における産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、近未来に対する解決力・創造力を養うという目的のために、個別研究テーマを掘り下げて、多くの人達にプレゼンテーションを行い、自らの考えや成果を伝えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	個別報告	
	2	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	3	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	4	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	5	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	6	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	7	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	8	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	9	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	10	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	11	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	12	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	13	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	14	卒業論文最終発表会	全体考察
15	全体考察	全体考察	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に個別に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業に就くための準備を行い、個別研究テーマも連動させて自分の主張する事を自らの言葉でプレゼンテーションできることが重要である。4年間学んだことの集大成として卒業論文があるので、その内容を相手に効率良く短時間で伝える技術や熱意などが必要である。		
	評価 提出された卒業論文を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年間学んだ知識および技術より個別テーマを自ら選定し、自ら作成したスケジュールを基にして論文を作成し、多くの人達の前でプレゼンテーションを実施する。この経験により、問題発見力、分析力を身につけ、現代社会の情報化に対応し、近未来に対する解決力・想像力を得ることが可能となる。このような複合的、総合的能力を次のステージである卒業後の実社会において発揮することを希望する。
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4 年	maemura@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅰで論文のテーマ・展開について確定し、情報収集、分析、概要報告を通じて論文作成に取りかかっている。卒業論文演習Ⅱでは、情報収集、分析をより進め、論文の作成を進めていく。中間報告で論文の全体的な進み具合を確認し、ディスカッションを通じてより良い論文となるよう取り組んでいく。最終報告で研究した知見を報告し、質疑を通じて知見を深める。	
	到達目標	

学 び の 実 践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回 情報収集・分析と論文作成① 第2回 情報収集・分析と論文作成② 第3回 情報収集・分析と論文作成③ 第4回 情報収集・分析と論文作成④ 第5回 情報収集・分析と論文作成⑤ 第6回 卒業論文中間報告① 第7回 卒業論文中間報告② 第8回 卒業論文中間報告③ 第9回 卒業論文中間報告④ 第10回 卒業論文の修正① 第11回 卒業論文の修正② 第12回 卒業論文の修正③ 第13回 卒業論文最終報告① 第14回 卒業論文最終報告② 第15回 卒業論文最終報告③ 第16回 卒業論文の総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>演習のはじめの時間に紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒用論文演習Ⅰで論文の構成を立て情報収集、論文作成の基本を学びました。卒業論文演習Ⅱでは、中間報告、最終報告に向けて取り組みます。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文演習Ⅱへの出席状況、論文の取り組み、中間報告、最終報告の状況を総合的に判断して評価します。</p>

学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文で学んだ論理構成力、展開力を社会において応用し、問題解決力を高めます。</p>
-----------------------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多変量解析論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文やレポートの作成において「原因と結果」という因果関係を証明・主張するためには、客観的な情報やデータに基づいて論拠をしめす必要がある。こうした因果関係を統計的に明らかにする手法として多変量解析が存在する。	「気温と温かい飲料は関係がある」ではなく、「気温が1度減少すると温かい飲料は、いくつ・いくら売れる」がわかると仕入れは助かります。因果関係を探るとき関係の有無だけではなく、「どれくらい」の関係があるかを数値で示すことが必要です。ここで学んだツールは売上予測から卒業論文までや自分の主張を大きく支える、論拠づける道具になります。
到達目標	<p>1. 二変数・多変数の関係を統計的に分析する。 異なる複数のデータを使うことで、相関関係や因果関係など背景や原因を明らかにすることが可能となります。しかしその分析手法はデータの性質や求めたい結果によって異なります。分析手法の使用条件と限界（明らかにできること）を理解しましょう。</p> <p>2. 回帰分析の手法を習得し、応用能力を身につける。 売上予測や卒業論文作成に応用できるような事例・データを使い、回帰分析を実践できる知識・能力を身につけましょう。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	散布図・相関係数①：相関係数の計算	
	3	散布図・相関係数②：実践例	
	4	単回帰分析①：回帰式	
	5	単回帰分析②：重相関・寄与率	
	6	単回帰分析③：誤差項の仮定	
	7	単回帰分析④：統計的仮説検定 単回帰分	
8	単回帰分析⑤：信頼区間		
9	単回帰分析⑥：まとめ		
10	重回帰分析①：回帰式と単回帰分析の違い		
11	重回帰分析②：自由度調整済み寄与率		
12	重回帰分析③：検定・信頼区間・予測		
13	重回帰分析④：ダミー変数□		
14	回帰分析の実践例		
15	まとめ & テスト		
16			
テキスト・参考文献・資料など	高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学回帰分析編』オーム社2005年		
学びの手立て	<p>数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。 課題3割・期末試験7割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。</p>		
評価	課題3割・期末試験7割を原則とする		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域産業概論	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當銘 栄一	1年	ptt467@okiu.ac.jp (電子メール)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、地域産業の構造変化や振興のあり方について各種データなどを用いて概観する。具体的に前半では地域と産業の関わり方、地域の産業構造、産業の立地および集積などに関する基礎的理論を講義する。後半では、沖縄を事例に、地位産業の実態および今日的課題について講義する。</p>	<p>目まぐるしく変化する経済社会において、将来的にどのような職種に就くにしても専門的な見地からの説明力(客観性)、自律性や問題解決力(実行力)は必須条件となっている。本講義を通して、あらゆる情報を自分なりに読み解き、分析する力を養ってほしい。</p>
到達目標	<p>①専門性の確保：各種データ分析などから今起きていることを自ら整理し、それらを読み解くことで地域経済の個性(産業構造など)を読み解けるようにしたい。さらに、地域経済の個性を牽引するものは何なのか、当該産業のみならずそれらを取り巻く環境(他者とのつながり)を踏まえたマクロ的な視点での分析力を身につけることができるようにしたい。②自律性と問題解決力の向上：毎回の講義テーマなどを通して、先述①の視点を踏まえた上で自らの考えをまとめながらアウトプットし、ビジネスシーンで求められる客観的な視点での提案力を培うことができるようにしたい。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>地域と産業・経済</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>地域と産業構造</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>産業の立地</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>産業集積</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>小テスト①</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>産業ネットワーク</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>産業クラスター</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>沖縄の産業・経済の全体像</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>沖縄の産業政策</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>小テスト②</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>沖縄の産業構造</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>沖縄の第一次産業</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>沖縄の第二次産業</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>沖縄の第三次産業、地域が良くなるためには(総復習)</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>期末テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション		2	地域と産業・経済		3	地域と産業構造		4	産業の立地		5	産業集積		6	小テスト①		7	産業ネットワーク		8	産業クラスター		9	沖縄の産業・経済の全体像		10	沖縄の産業政策		11	小テスト②		12	沖縄の産業構造		13	沖縄の第一次産業		14	沖縄の第二次産業		15	沖縄の第三次産業、地域が良くなるためには(総復習)		16	期末テスト		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	イントロダクション																																																				
2	地域と産業・経済																																																				
3	地域と産業構造																																																				
4	産業の立地																																																				
5	産業集積																																																				
6	小テスト①																																																				
7	産業ネットワーク																																																				
8	産業クラスター																																																				
9	沖縄の産業・経済の全体像																																																				
10	沖縄の産業政策																																																				
11	小テスト②																																																				
12	沖縄の産業構造																																																				
13	沖縄の第一次産業																																																				
14	沖縄の第二次産業																																																				
15	沖縄の第三次産業、地域が良くなるためには(総復習)																																																				
16	期末テスト																																																				
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義時に必要な資料やデータを提供する。参考文献としては、伊藤正昭「新版 地域産業論」学文社、田中史人「地域企業論」同文館出版、内田真人「現代沖縄経済論」沖縄タイムス社など。</p>																																																				
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容は積み上げ方式で進行するので、なるべく休まないこと。(欠席する場合は翌週までに欠席届と添付資料を提出すること) 講義中の私語は厳禁とする。 																																																				
評価	<ul style="list-style-type: none"> 評価配分：期末試験70%、小テストや出席ポイント30%(出席は毎回とる予定) 評価基準：毎回の演習(出席票を兼ねる)や定期的なテストにおいて、講義内容をベースとして客観性を踏まえた上で自らの考えが述べられているか、受講態度(講義への参加や熱意)などを評価する。 																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>他講義における各種レポート作成時に、本講義で習得した手法や考え方を活かしてほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域財政論Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地方公共団体はこれまで国の財政と連携して、地域公共財の供給をはじめとした役割を果たしてきました。今日、地方分権の推進により、国と地方の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっており、また、地方公共団体の地域公共財の供給、地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方分権の流れや、財政依存の高い沖縄県の財政について学習します。</p>	<p>都道府県や市町村の役割は重要であり、自治体の財政を理解することが重要になっています。皆さんの住んでいる市町村や沖縄県の財政を理解する基本を学びます。</p>
到達目標	<p>①地方財政の基本的なしくみを理解する。 ②国と都道府県、市町村の財政関係を理解する。 ③財政依存の高い沖縄県の財政の実情について理解する。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域と財政①（地方財政について） (2) 地域と財政②（都道府県、市町村の役割） (3) 地方分権と国、地方の役割① (4) 地方分権と国、地方の役割② (5) 地域公共財① (6) 地域公共財② (7) 地方歳入について (8) 地方歳出について (9) 地方交付税による財源調整① (10) 地方交付税による財源調整② (11) 国庫支出金のしくみと課題① (12) 国庫支出金のしくみと課題② (13) 沖縄県の財政と課題① (14) 沖縄県の財政と課題② (15) 期末試験 (16) 講義の総括
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書については第一回の講義の時間に連絡します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文社 ②『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス ③『地方財政白書』、総務省
	<p>学びの手立て</p> <p>制度を調べる場合は、比較的新しい文献を読んでもください。また、地方財政を所管する総務省HP、都道府県、市町村のHPも参考になります。新聞報道などで実情を知ることができます。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況、課題レポートの提出状況、期末試験の結果を基に総合的に行います。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域財政論Ⅱ</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域財政論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	まず、地方分権と税財源の拡充、地方債、地方公営企業、第三セクター、都市の財政問題について理解を深めます。次に地方公共団体の地域振興における役割と産業振興における政策展開について取り上げます。今日、地域間の競争が高まる中で、地方公共団体の地域振興における役割が益々高まってきており、とくに産業振興について検討することが重要になってきています。	都道府県や市町村の役割が高まっており、これを理解することが重要になっています。皆さんの住んでいる市町村や、沖縄県の財政を理解するための基本を学びましょう。
到達目標	①地方財政の基本的なしくみを理解する。 ②国と都道府県・市町村の財政関係を理解する。 ③沖縄県の財政の実情について理解する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地方分権と税財源の拡充① (2) 地方分権と税財源の拡充② (3) 地方債と財源調達弾力化 (4) 地方公営企業と第三セクターの課題① (5) 地方公営企業と第三セクターの課題② (6) 都市財政① (7) 都市財政② (8) 高齢社会と地方財政① (9) 高齢社会と地方財政② (10) 財政分析① (11) 財政分析② (12) 沖縄県の財政① (13) 沖縄県の財政② (14) 沖縄県の財政③ (15) 期末試験 (16) 講義の総括
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は第一回目の講義の時間に連絡します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文堂 ②『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス ③『地方財政白書』、総務省
	<p>学びの手立て</p> <p>「地域財政論Ⅰ」をできるだけ履修し、地方財政の基本的なしくみを理解してください。「地域財政論Ⅱ」は「地域財政Ⅰ」で学習した基本内容を踏まえて、地方財政の個別の課題についてとりあげます。</p>
評価	成績評価は、出席状況、課題レポートの提出状況、期末試験の結果を基に総合的に行います。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ツーリズムビジネス論Ⅰ・Ⅱ、アジア経済論、環境資源経済論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱ、ファイナンスエコノミクスⅠ・Ⅱなどを履修すると経済、産業についての理解が深くなります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域発展論	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當銘 栄一	3年	ptt467@okiu.ac.jp (電子メール)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、地域の視点から科学的に発展について分析・議論できる素養を身につけることを目的としている。具体的には、経済発展論や地域分析論などの視点から地域の経済システムの全体像を把握させる。さらに、トピックスとして「シェアリング・エコノミー」などのホットな事例もおりませながら、今後における地域発展とは何かについて共有していきたい。</p>	<p>目まぐるしく変化する経済社会の中において、将来的にどのような職種に就くにしても専門的な見地からの説明力(客観性)、自律性や問題解決力(実行力)は必須条件となっている。本講義を通して、あらゆる情報を自分なりに読み解き、分析する力などを養ってほしい。</p>
到達目標	<p>①専門性の確保：各種データ分析などから今起きていることを自ら整理し、それらを読み解くことで地域経済の個性(産業構造など)を読み解けるようにしたい。さらに、地域経済の個性を牽引するものは何なのか、当該産業のみならずそれらを取り巻く環境(他者とのつながり)を踏まえたマクロ的な視点での分析力を身につけることができるようにしたい。②自律性と問題解決力の向上：講義で毎回行う予定の演習などを通して、先述①の視点を踏まえた上で自らの考えをまとめながらアウトプットし、ビジネスシーンで求められる客観的な視点での提案力を培うことができるようにしたい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域の定義や地域分析の視点	
	2	地域の産業構造の把握と整理	
	3	地域経済の成長・発展について	
	4	地域人口分析	
	5	人口減少社会と地域経済	
	6	小テスト①	
	7	地域の産業政策について	
	8	産業ネットワーク	
	9	産業クラスター	
	10	地域振興政策	
	11	小テスト②	
	12	まちづくりコミュニティ	
	13	経済特区	
	14	地域政策の評価	
	15	持続的な経済発展にむけて	
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義時に必要な資料やデータを提供する。</p>	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容は積み上げ方式で進行するので、なるべく休まないこと。(欠席する場合は翌週までに欠席届と添付資料を提出すること) 講義中の私語は厳禁とする。 	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> 評価配分：期末試験70%、小テストや出席ポイント30%(出席は毎回とる予定) 評価基準：毎回の演習(出席票を兼ねる)や定期的なテストにおいて、講義内容をベースとして客観性を踏まえた上で自らの考えが述べられているか、受講態度(講義への参加や熱意)などを評価する。 	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文や各種レポート作成時に、本講義で習得した手法や考え方などを活かしてほしい</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	知的情報処理	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	今日の企業では、変動の激しい市場や社会からの多様なニーズに対して迅速かつ柔軟に応えていくことが必要である。このことを実現するためには、経験や勘に頼るだけでなく、得られた情報を柔軟に捉え知的に処理するための理論的枠組みが重要となる。本講義では、人間の嗜好や予測を定量的に扱う概念として知られるファジィ理論を中心に知的情報処理について学習する。	具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。
到達目標	人間の知的情報とは何かを理解し、その科学的アプローチを習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	
	2	知的情報処理の概要	講義の復習および課題演習
	3	情報と曖昧さ(1)	同上
	4	情報と曖昧さ(2)	同上
	5	不確定情報の処理(1)	同上
	6	不確定情報の処理(2)	同上
	7	知的尺度の処理(1)	同上
	8	知的尺度の処理(2)	同上
	9	知的尺度の処理(3)	同上
	10	システム制御とファジィ関係(1)	同上
	11	システム制御とファジィ関係(2)	同上
	12	システム制御とファジィ関係(3)	同上
	13	知的情報処理と推論アルゴリズム(1)	同上
14	知的情報処理と推論アルゴリズム(2)	同上	
15	知的情報処理と推論アルゴリズム(3)	同上	
16	試験・総括		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・中島信之「ファジィ数学のおはなし」倍風館 ・井上、天笠「ファジィ理論の基礎」朝倉書店		
学びの手立て	「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
評価	試験結果、出席状況、課題レポートにより評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「オペレーションズ・リサーチ」がある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アポ必要) で対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	統計・統計学についての基本的な概念について解説し、具体的かつ身近に使われている統計学の実例を紹介し、表計算ソフトを使用した統計処理などの実用的な演習などを行います。講義の目的は統計学的な知識を身につけて客観的な根拠に基づく判断を養うことです。また後期科目データ解析論Ⅱにおける卒業論文作成に必要な統計分析能力を身につける講義です。	身長が「高い、低い」というのは人によって違う主観的なものですが、身長「170cm」は誰の基準でも同じ客観的なものです。こうした数値のことをデータや統計といい、自分の主張を理解・納得させる有効な手段です。また体重計で身長はわからないように、理解せずに扱ってしまうと間違った結論や主張になってしまいます。定義や計算方法を学び、統計・データと上手に付き合い使いましょう。
到達目標	<p>1. 記述統計学の基本的な考え方について理解する。 テストが平均点より上か下か一喜一憂するかもしれませんが、統計学ではデータの真ん中、分布の中心を示す指標は3つあります。定義によって真ん中、中心は変わります。さらに中心だけでなくデータの分布、ばらつき、散らばり具合を示す指標も重要です。</p> <p>2. 推測統計学、標本調査の仕組みを理解する。 世の中のデータのほとんどは一部の人を調査したもので、全員（例：日本国民全員）を調べたものではありません。推測統計学ではそれで「ある程度」十分であると保証しています。しかし、その理由と十分である条件を知らないと誤った結論になってしまいます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要、データの性質について	定性と定量の違い
	2	記述統計学①平均	代表値の計算
	3	記述統計学②分散、標準偏差	標準偏差の計算
	4	記述統計学③基準値と偏差値	基準値と偏差値の計算
	5	確率論の基礎（正規分布、確率変数、確率密度関数）	基準値と正規分布の計算
	6	母集団と標本	標本調査・抽出方法の復習
	7	大数の法則、中心基本定理	推測統計学に関する課題
	8	母平均の推定	母平均の推定の計算
	9	母比率の推定	母比率の推定の計算
	10	統計的仮説検定	帰無仮説・対立仮説の設定
	11	t分布、t推定	t推定の計算
	12	t検定、母平均の検定	検定統計量、P値の計算
	13	散布図、相関とは	相関関係の復習
	14	相関係数	相関係数の計算
15	無相関の検定	無相関検定についての課題	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

学びの実践	学びの手立て
	履修の心構えについて ・出席と遅刻を区分し、出席点に反映させます。 ・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行いますので、課題に取り組むには講義・演習にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめる必要があります。そうすることで試験問題を解答することができます。

学びの実践	評価
	授業態度3割・課題3割・期末試験4割を原則とします。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表します。 授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与えますので毎回授業に出て演習などに取り組むこと。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	類似科目：共通科目、他学部の統計・社会調査科目 関連科目：データ解析論Ⅱ、ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ（田口担当） 上位科目：データ解析論Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	3年	メール (n.taguchi@okiu.ac.jp)、授業終了後、研究室 (5-604、アポ必要) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文やレポートの作成において原因と結果・因果関係を証明・主張するためには、客観的な情報やデータに基づいて論拠をしめす必要がある。こうした因果関係を統計的に明らかにする手法として多変量解析が存在する。本講義では多変量解析の手法として一般的である重回帰分析を中心に行う。	原因と結果といった因果関係を探るときどちらが原因でどちらが結果かがわからない場合があります。あるいは間違った原因を断定しているかもしれません。この講義ではデータに基づき、客観的に関係性を特定することができます。難しいかもしれませんが、ここで学んだツールは卒業論文や自分の主張を大きく支える、論拠づけるものになります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 回帰分析とその分析手法を理解する 異なる複数のデータを使うことで、相関関係や因果関係など背景や原因を明らかにすることが可能となります。しかしその分析手法はデータの性質や求めたい結果によって異なります。分析手法の使用条件と限界（明らかにできること）を理解しましょう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要、前期講義の復習	前期講義内容の復習
	2	単回帰モデル、最小二乗法	変数の定義
	3	重回帰モデル	Excelによる回帰分析
	4	重相関・決定係数	重相関・決定係数の計算
	5	自由度調整済み決定係数	最適な回帰モデルの判別
	6	誤差項の仮定	これまでの復習と演習
	7	統計的仮説検定、t検定	Excelによる検定方法と分析
	8	信頼区間、予測	Excelによる演習
	9	回帰分析の応用例	応用問題を解く
	10	ダミー変数	演習問題を解く
	11	数量化理論	
	12	非線形回帰	Excelによる演習
	13	ログ・リニア分析	Excelによる演習
	14	ロジスティック回帰分析	Excelによる演習
15	まとめ	定義・計算方法・分析方法の復習	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

学びの実践	学びの手立て
	履修の心構えについて ・出席と遅刻を区分し、出席点に反映させます。 ・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行いますので、課題に取り組むには講義・演習にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめる必要があります。そうすることで試験問題を解答することができます。

学びの実践	評価
	授業態度3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。 ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。 授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：データ解析論Ⅰ・ビジネス情報分析Ⅱ 上位科目：卒業論文演習（卒論におけるデータ分析）

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーの「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基盤技術を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	データベース	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-金城 秀樹	後期	月 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。	メッセージ	データベースの活用、JavaによるWebアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。
	到達目標	関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。データベースと連携したアプリケーションを作成できる。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データベースの概要	講義の復習・次回講義の予習
	2	データベースの設計	講義の復習・次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの基本	講義の復習・次回講義の予習
	4	SQL (1)	講義の復習・次回講義の予習
	5	SQL (2)	講義の復習・次回講義の予習
	6	SQL (3)	講義の復習・次回講義の予習
	7	SQL (4)	講義の復習・次回講義の予習
	8	トランザクションとロック	講義の復習・次回講義の予習
	9	インデックス - データベースの性能向上	講義の復習・次回講義の予習
	10	ビュー - 仮想表による定義	講義の復習・次回講義の予習
	11	ストアードプロシージャ - データベースアクセスの手續き化	講義の復習・次回講義の予習
	12	ストアードファンクションとトリガー	講義の復習・次回講義の予習
	13	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)	DB連携アプリの作成
14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)	DB連携アプリの作成	
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (3)	DB連携アプリの作成	
16	総まとめ・学期末試験	講義の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書：山田祥寛「MySQLで学ぶデータベース超入門」翔泳社、「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ 参考書：アंक「SQLの絵本」翔泳社(2004)、谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえたデータベース基礎の基礎」技術評論社(2009)、柴田 望洋「新・明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ(2016)		
	学びの手立て 以下の理由により、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。ウェブプログラミングではPHPとMySQLによるウェブアプリケーションの構築を行った。本講義ではデータベース管理システムであるMySQLについてさらに深く学びます。Javaによるアプリケーションの作成があります。そのため、Javaに関するある程度の知識が必要です。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。講義への参加状況・調査課題(20%)・期末試験(80%)の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、情報処理システム論、プログラミングⅠ・Ⅱ、ウェブプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーの「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基盤技術を学びます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	データベース	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-金城 秀樹	後期	月 4	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。	メッセージ	データベースの活用、JavaによるWebアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。
	到達目標	関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。データベースと連携したアプリケーションを作成できる。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データベースの概要	講義の復習・次回講義の予習
	2	データベースの設計	講義の復習・次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの基本	講義の復習・次回講義の予習
	4	SQL (1)	講義の復習・次回講義の予習
	5	SQL (2)	講義の復習・次回講義の予習
	6	SQL (3)	講義の復習・次回講義の予習
	7	SQL (4)	講義の復習・次回講義の予習
	8	トランザクションとロック	講義の復習・次回講義の予習
	9	インデックス - データベースの性能向上	講義の復習・次回講義の予習
	10	ビュー - 仮想表による定義	講義の復習・次回講義の予習
	11	ストアードプロシージャ - データベースアクセスの手續き化	講義の復習・次回講義の予習
	12	ストアードファンクションとトリガー	講義の復習・次回講義の予習
	13	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)	DB連携アプリの作成
14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)	DB連携アプリの作成	
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (3)	DB連携アプリの作成	
16	総まとめ・学期末試験	講義の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書：山田祥寛「MySQLで学ぶデータベース超入門」翔泳社、「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ 参考書：アंक「SQLの絵本」翔泳社(2004)、谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえたデータベース基礎の基礎」技術評論社(2009)、柴田 望洋「新・明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ(2016)		
	学びの手立て 以下の理由により、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。ウェブプログラミングではPHPとMySQLによるウェブアプリケーションの構築を行った。本講義ではデータベース管理システムであるMySQLについてさらに深く学びます。Javaによるアプリケーションの作成があります。そのため、Javaに関するある程度の知識が必要です。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。講義への参加状況・調査課題(20%)・期末試験(80%)の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、情報処理システム論、プログラミングⅠ・Ⅱ、ウェブプログラミング
-------	--

科目基本情報	科目名	ハイブリッド型人材育成特別講義	期別	曜日・時限	単位
	担当者	山崎 暁、常磐木 龍治、山路 康文、鈴木 康元	後期	金 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	098-921-1055	

学びの準備	ねらい	様々な産業分野がテクノロジーの発展に伴い、変化やイノベーションを求められている。2020年には小学生にプログラミングが義務づけられることが決定するなど、未来を生きる人材にとって、テクノロジーは欠かせないアイテムです。最初から難しい技術を学ぶのではなく、ワークショップや講座の中からテクノロジーの必要性や可能性に気づき、技術だけでなく、デザインやプレゼンテーションな	メッセージ	株式会社レキサスの主要講師とRyukyufrogs協賛企業やサポーターがゲストスピーカーを務めるという豪華ラインナップです。インプットだけでなく、体感型のワークショップもあり、楽しみながら、自分たちでも未来を創れる、変えられるということを実感してもらいたいと考えてます。 ※受講対象：産業情報学科1・2年次
	到達目標	1) 既存産業の課題と向き合い、テクノロジーを掛け合わせることで課題解決を行うワークショップを通じて、日常に流されない問題意識を持つ自立人材を育む。 2) テクノロジーの可能性に気づくことで、技術習得に興味を湧かす。 3) 文系・理系の枠を超えた、ハイブリッド人材を育む。		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション		
	2	テクノロジーの可能性と未来（講話）		
	3	〇〇×ITの事例紹介と各産業界の課題を考える（講話とワークショップ）		
	4	課題発表とチームビルディング（ワークショップ）		
	5	チームで新サービスを考える①（ワークショップ）		
	6	デザインワークショップ		
	7	チームで新サービスを考える②（ワークショップ）		
	8	中間プレゼンテーション		
9	プレゼンテーションの基礎を学ぶ			
10	チームで新サービスを考える③（ワークショップ）			
11	プロトタイプを作るには（講義）			
12	チームでサービスを創る①（ワークショップ）			
13	チームでサービスを創る②（ワークショップ）			
14	プレゼンテーションワークショップ			
15	最終成果報告会			
16				
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストはありませんが、スマートフォンやノートPCなどを所有している人は持参してください。		
	学びの手立て	インプットとアウトプットを繰り返しながら学ぶスタイルです。能動的かつ積極的に参加できる学生を希望します。定員は50名とし、登録希望者多数の場合には事前に選考を行います。初回講義時には必ず出席するようにしてください。		
	評価	最終成果報告のクオリティと、全講座を通じ受講時の言動などを評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目	創ることの楽しみに気づいた学生には、レキサスが運営する勉強会情報を提供し、参加を促します。
-------	-------------	---

※ポリシーとの関連性 産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高めるために、経済における財政の役割を学習します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	パブリックファイナンス	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	maemura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>公共部門（中央政府，地方公共団体）の役割は，市場を通じては供給不可能か困難である公共財を供給すること及び民間部門（家計，企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにある。講義では国の財政についてとりあげる。はじめに財政の役割，しくみを学習し，所得税，消費税，法人税について学ぶ。次に，公共事業，社会保障といった支出についてふれる。とくに日本の財政赤字の問題と財政</p> <p>経済は企業や家計のほかに、財政が関係しています。日本の財政のしくみや今後の課題を理解することが重要になってきています。</p>	
	到達目標	
	<p>①市場の働きを補完する国の財政のしくみを理解する。 ②基本的な歳入、歳出の内容を理解する。 ③財政赤字や社会保障について理解を深める。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	市場と公共部門の役割①	参考文献①の該当箇所を読む
	2	市場と公共部門の役割②	参考文献①の該当箇所を読む
	3	財政のしくみ①	参考文献②の該当箇所を読む
	4	財政のしくみ②	参考文献②の該当箇所を読む
	5	租税について①（所得税）	財務省HP等からの資料閲覧
	6	租税について②（消費税、法人税）	財務省HP等からの資料閲覧
	7	公債について	財務省HP等からの資料閲覧
	8	公共支出について①（公共事業）	参考文献①の該当部分読む
	9	公共支出について②（社会保障）	参考文献①の該当部分読む
	10	財政赤字と財政の持続可能性①	参考文献②の該当部分読む
	11	財政赤字と財政の持続可能性②	参考文献②の該当部分読む
	12	社会保障と財政①（年金）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧
	13	社会保障と財政②（医療）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧
14	情報化と公共部門の役割①	情報通信白書、該当部分閲覧	
15	情報化と公共部門の役割②	情報通信白書、該当部閲覧	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	教科書は特に指定しません。以下の書籍を参考文献としてあげておきます。 ①「財政学」林宜嗣，新世社、②図説「日本の財政」東洋経済		
	学びの手立て		
	経済学概論で基本的な経済学の知識を理解しておくことが重要です。市場を通じて、企業や家計が経済活動をおこないますが、公共サービス（社会資本、教育、福祉）を供給する政府の役割が重要になっています。		
	評価		
	成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，中間・期末試験の結果を基に総合的に行います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域財政論Ⅰ、地域財政論Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス英語	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	2年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスシーンに登場する様々なシチュエーションやトピックを通して英語の4 Skills (Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。国際的なシーンや海外で仕事をするを想定したアクティビティやロールプレイを取り入れ、実践的な授業を行う。またビジネスマナー、外国人対応、異文化の知識と理解を深めることを目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書や授業で学んだ英単語や表現の理解ができる。 ビジネスシーンで基本的な英語を使い、意思疎通ができる。 ビジネスシーンで想定される問題を自分なりに考え、解決できる。 異文化に対する理解を深める。 	<p>これまでは「英語が使えると得をする」と言われてきましたが、今後は間違いなく「英語が使えないと損をする」時代になります。英語が出来ればより多くの情報を得ることができますし、仕事の幅も増え、言語や文化の違う人と協力し合い仕事ができるでしょう。就職後、「ビジネス英語を取って良かった!」と思ってもらえるように楽しく、有意義な授業にしたいと思います。See you in class!</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	Unit 1予習
	2	Unit 1: Checking in	Unit 1復習、Unit 2予習
	3	Unit 2: At a trade fair	Unit 2復習、Unit 3予習
	4	Unit 3: Schedulets	Unit 3復習、Unit 4予習
	5	Unit 4: Companies	Unit 4復習、Unit 5予習
	6	Unit 5: Meeting People	Unit 5復習、Unit 6予習
	7	Unit 6: In the office	Unit 1-6復習
	8	Mid-term Exam	Unit 7予習
	9	Unit 7: Work	Unit 7復習、Unit 8予習
	10	Unit 8: Appointments	Unit 8復習、Unit 9予習
	11	Unit 9: Directions and shopping	Unit 9復習、Unit 10予習
	12	Unit 10: Reservations	Unit 10復習、Unit 11予習
	13	Unit 11: Requests and offers	Unit 11復習、Unit 12予習
	14	Unit 12: Socializing	Unit 7-12復習、TOEIC問題
15	TOEIC practice	Unit 7-12 復習	
16	Final Exam		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Business Venture <Beginner> (Student Book), Oxford University Press その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。 ほぼ毎回クイズを行い、学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。 スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection (20%) ②課題 (20%) ③クイズ・小テスト (20%) ④ 中間テスト (20%) ⑤ 期末テスト (20%) を総合的に判断して評価する。</p> <p>また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日常生活に英語を取り入れる方法を自分なりに考え、工夫し、学習の継続に努めてほしい。自分の目的にあった共通英語の授業や他の英語関連の教科も積極的に受講すること。特にV-VI (英検) とVII (TOEIC) は、資格取得と同時にモチベーション向上にもなるので是非チャレンジしてほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ビジネス情報分析 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	2年		

学びの準備	ねらい 本講義では、産業に関わるデータや情報の収集および分析能力の向上を目標とします。具体的には、インターネットなどから産業・経済データを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法について、PCを用いた演習形式で行います。	メッセージ データを全く収集せずに述べられた意見は「思い込み」でしかありません。しかし、データを収集すれば良いということでもありません。自分の意見を効率的に伝えるには、データを整理・分析する能力を養います。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	推移・比較分析	
	3	順位・比較分析	
	4	内訳・比較分析	
	5	関係分析	
	6	比較・関係分析	
	7	階層分析	
	8	集中度・格差分析	
9	原因の影響度分析		
10	売上傾向分析		
11	伸び率分析		
12	データの集積分析		
13	CS分析		
14	データの基本的統計分析		
15	まとめ & テスト		
16			
	テキスト・参考文献・資料など PDFファイルやプリントなどを配布する。		
	学びの手立て 基本的な受講マナー（私語、携帯電話など）を守ってください。 【受講に際して】 出席と課題の実践は必要条件ですから、自律的なスケジューリングができない方は注意して下さい。		
	評価 課題提出30%、期末試験70%とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉川 丈	2年		

学びの準備	ねらい 本講義では、産業に関わるデータや情報の収集および分析能力の向上を目標とします。具体的には、インターネットなどから産業・経済データを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法について、PCを用いた演習形式で行います。	メッセージ データを全く収集せずに述べられた意見は「思い込み」でしかありません。しかし、データを収集すれば良いということでもありません。自分の意見を効率的に伝えるには、データを整理・分析する能力を養います。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	推移・比較分析	
	3	順位・比較分析	
	4	内訳・比較分析	
	5	関係分析	
	6	比較・関係分析	
	7	階層分析	
	8	集中度・格差分析	
	9	原因の影響度分析	
	10	売上傾向分析	
	11	伸び率分析	
	12	データの集積分析	
	13	CS分析	
	14	データの基本的統計分析	
	15	まとめ & テスト	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など PDFファイルやプリントなどを配布する。		
	学びの手立て 基本的な受講マナー（私語、携帯電話など）を守ってください。 【受講に際して】 出席と課題の実践は必要条件ですから、自律的なスケジューリングができない方は注意して下さい。		
	評価 課題提出30%、期末試験70%とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田口 順等	2年	メール (yu@okiu.ac.jp)、 または研究室 (5-634) に対応	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネット上からのビジネスおよび経済産業データの収集、表計算ソフト (Microsoft Excel) などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で進める。	前期のビジネス情報分析Ⅰとは異なり、視覚的なデータ処理ではなく、数量分析や統計分析を解説し演習を行う授業です。演習形式で行いますが、授業中のみならず、授業外でも不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。

到達目標
1. 統計分析の手法を把握する。 授業は統計学やデータ分析の概説部分から始まり、定義・計算の方法や背景、理由を解説します。背景や理由を知ることによって分析手法が必要な理由や応用事例を知ることが出来ます。
2. 統計分析を実践する。 ただ知識として把握するだけでなく、練習問題や課題を行うことで社会などの現場や卒業論文のデータ分析に活用できる能力を身につけます。今は何に役立つか実感が分からないかもしれませんが、ツールを先に知っておかないと必要な時に役立ちません。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要ガイダンス	
	2	既存統計資料の収集と読み方	
	3	記述統計量 (平均)	
	4	記述統計量 (分散、標準偏差)	
	5	記述統計量 (変動係数)	
	6	時系列データの分析指標 (指数化、成長率、寄与率)	
	7	単純集計と度数分布	
	8	クロス集計とクロス集計表	
	9	散布度、散布図	
	10	相関関係、疑似相関、因果関係の概念	
	11	相関分析 (相関係数)	
	12	相関分析 (相関比)	
	13	相関分析 (連関係数)	
	14	因果関係分析 (直線回帰)	
15	因果関係分析演習 (直線回帰)		
16	まとめ		

テキスト・参考文献・資料など
菅民郎『らくらく図解統計分析教室』オーム社、2006年、渡辺美智子・神田智弘『実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析』秀和システム、2010年、など。

学びの手立て
履修の心構えについて
・無断の遅刻や欠席はしないこと。
・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行うので、課題に取り組むには講義や演習にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめる必要があります。
・疑問点や不明な点があったら、授業時間のみならず、授業時間外においても積極的に質問し、解決に努めてほしい。

評価
平常点およびテスト点に基づいて評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目
関連科目：ビジネス情報分析Ⅰ、データ解析論ⅠⅡ
上位科目：専門演習ⅠⅡ、卒業論文演習ⅠⅡ

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、IT技術における基礎知識を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジュアル情報処理	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい CG技術に関する基礎的な理解と、プログラミングなどに知識を利用する技術を修得することを目指します。	メッセージ アニメーション、映像、ゲーム、VR、ARアプリなどのソフトウェア開発を行うために必要な知識です。
	到達目標 CG分野において簡単な開発や設計を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	次回講義の予習
	2	デジタルカメラモデル (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	デジタルカメラモデル (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	モデリング (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	モデリング (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	レンダリング (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	レンダリング (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	アニメーション (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
9	アニメーション (2)	当該講義の復習/次回講義の予習	
10	画像の濃淡変換とフィルタリング処理	当該講義の復習/次回講義の予習	
11	画像の解析	当該講義の復習/次回講義の予習	
12	パターン・特徴の検出とパターン認識	当該講義の復習/次回講義の予習	
13	シーンの復元	当該講義の復習/次回講義の予習	
14	ビジュアル情報処理システム (1)	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	ビジュアル情報処理システム (2)	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「ビジュアル情報処理 -CG・画像処理入門- [改訂新版]」画像情報教育振興協会 (2017) 参考書：「コンピュータグラフィックス [改訂新版]」画像情報教育振興協会 (2015) 「2級・3級CGエンジニア検定エキスパート・ベーシック公式問題集 [改訂第二版]」画像情報教育振興協会		
	学びの手立て 難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献、またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：3DCGアニメーション演習、ゲーム開発演習
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャルエコノミクス I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>預金による貯蓄に必要な基本的な考え方を理解する。 企業の投資プロジェクトに必要な基本的な考え方を理解する。 株式による貯蓄に必要な基本的な考え方を理解する。</p>	<p>ファイナンスは「貯める・借りる」を考える計算のことです。 「実生活に役立つExcel計算」としてファイナンスを身に着けるきっかけにしてください。</p>

到達目標
<p>株式を保有して貯蓄する時のリスク・リターンを説明できる。 株式を保有して貯蓄する時の分散効果の計算結果を説明できる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済活動とファイナンス：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	現在価値と将来価値①	金額と利率を変えて試算する
	3	現在価値と将来価値②	第3回練習問題(プリント配布)
	4	NPV法とIRR①	第4回練習問題(プリント配布)
	5	NPV法とIRR②	第5回練習問題(プリント配布)
	6	投資収益率①	第6回練習問題(プリント配布)
	7	投資収益率②	第7回練習問題(プリント配布)
	8	学習内容の復習 1	第8回配布プリントの復習
	9	期待収益率・分散・標準偏差①	公式の復習
	10	期待収益率・分散・標準偏差②	第9回との違いを確認する
	11	共分散・相関係数①	公式の復習
	12	共分散・相関係数②	第11回との違いを確認する
	13	分散効果①	分散効果の意味を復習する
	14	分散効果②	第14回練習問題(プリント配布)
15	学習内容の復習2	第15回配布プリントの復習	
16	期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など
<p>教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]齋藤誠『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』有斐閣、2000年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。</p>

学びの手立て
<p>履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。</p>

評価
<p>期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：リスクとリターン、分散効果についてExcel計算できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているか、特にExcelファイルの作成状況を測る。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活で「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャルエコノミクスⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 株式を利用した貯蓄の諸計算を自分で実行できるようになる。 ファイナンスの考え方・計算に基づいて株価の変動を観察する力を身に着ける。 金融商品が様々な貯蓄の契約であることを理解する。	メッセージ ファイナンスは「貯める・借りる」を考える計算のことです。 「実生活に役立つExcel計算」としてファイナンスを身に着けるきっかけにしてください。
	到達目標 効率的に複数の株式を保有して貯蓄する比率の計算結果を説明できる。 効率的に貯蓄の資金を預金と株式に配分する比率の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済活動とファイナンス：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	期待収益率・標準偏差(分散)・相関係数①	第2回内容を別の株価データで計算
	3	期待収益率・標準偏差(分散)・相関係数②	第3回内容を別の株価データで計算
	4	分散効果①	第4回内容を別の株価データで計算
	5	分散効果②	第5回内容を別の株価データで計算
	6	投資比率とポートフォリオの標準偏差①	第6回内容を別の株価データで計算
	7	投資比率とポートフォリオの標準偏差②	第7回内容を別の株価データで計算
	8	投資比率とポートフォリオの標準偏差③	第8回内容を別の株価データで計算
	9	学習内容の復習1	第9回配布プリントの復習
	10	3種類のポートフォリオの比較①	第10回練習問題(配布プリント)
	11	3種類のポートフォリオの比較②	第10回までのExcelシートの確認
	12	機会曲線	機会曲線の課題内容
	13	有効フロンティア	有効フロンティアの課題内容
	14	資本市場線	資本市場線の課題内容
15	学習内容の復習2	課題の計算結果を理解する	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]齋藤誠『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』有斐閣、2000年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て 履修の心構え 講義中のスマートフォンの操作は減点とする。 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。 欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。 遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：機会曲線、資本市場線についてExcel計算できるかを測る。 平常点20%：出席を含め、履修の心構えを満たしているか、特にExcelファイルの作成状況を測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活で「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのも良い。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングにおける基礎知識を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング理論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的なアルゴリズムを理解し、プログラミングに必要となる論理的な思考力を修得することを目指す。問題解決に至るまでの考え方を数多く段階的に演習することで、最適なアルゴリズムについて学習する。	メッセージ 2017年度入学生は、上級情報処理士の資格取得、基本情報技術者試験 午前試験免除制度の適用に必要な科目です。 プログラミングの基本を本講義では学ぶが、入学時のベースがかなり異なるため、今までに全く学んだことがない者は予習・復習を必ず行うこと。それでも、わからない場合は授業外に質問すること。
	到達目標 探索や整列など基本的なアルゴリズムを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	次回講義の予習
	2	アルゴリズムの基本 (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	アルゴリズムの基本 (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	アルゴリズムの基本 (3)	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	データ構造 (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	データ構造 (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	データ構造 (3)	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	データ構造 (4)	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	探索アルゴリズム (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	探索アルゴリズム (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	整列アルゴリズム (1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	整列アルゴリズム (2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	整列アルゴリズム (3)	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	文字列探索	当該講義の復習/次回講義の予習
15	グラフ処理	当該講義の復習	
16	総まとめ・期末試験		
テキスト・参考文献・資料など テキスト：「データ構造とアルゴリズム」インフォテック・サーブ 参考文献： ・「ITワールド」インフォテック・サーブ (2015) ・アंक「アルゴリズムの絵本」翔泳社 (2003) ・杉山 行浩「Javaで学ぶデータ構造とアルゴリズム」東京電機大学出版局 (2012) ・近藤 嘉雪「定本Javaプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」ソフトバンククリエイティブ (2011)			
学びの手立て 情報処理概論テキスト「ITワールド」第7部 データ構造とアルゴリズムも参考にしてください。 予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献、またWeb上の資料を積極的に利用するようにしてください。			
評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義形式：プログラミング理論、情報処理システム論、情報通信ネットワーク論 演習形式：プログラミングI・II、ウェブプログラミング、データベース、情報処理システム演習、ロボットシミュレーション
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 実際のソフトウェア開発スキルの修得を目指す。 プログラミング言語にはJavaを用いる。 Javaの文法をきちんと理解した上で、基本的なプログラムを読み書きできるようにすることを旨とする。	メッセージ 履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する基本的な知識を有し、簡単なプログラムが書ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション, 画面に文字を表示しよう	次回講義の予習
	2	変数を使おう (1)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	3	変数を使おう (2)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	4	プログラムの流れの分岐 (1)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	5	プログラムの流れの分岐 (2)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	6	プログラムの流れの分岐 (3)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	7	プログラムの流れの繰り返し (1)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	8	プログラムの流れの繰り返し (2)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	9	総合問題	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	10	基本形と演算	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	11	配列	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	12	メソッド (1)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	13	メソッド (2)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
	14	クラスの基本 (1)	当該講義の復習 / 次回講義の予習
15	クラスの基本 (2)	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：柴田 望洋「新・明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016) 参考書籍： 柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008) アंक「プログラミングの絵本」翔泳社 (2016) アंक「Javaの絵本 増補改訂版」翔泳社 (2005) リンダ・リウカス「ルビオのぼうげん こんにちは！プログラミング」翔泳社 (2016)		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：プログラミング理論, データベース, ロボットプログラミング 次のステージ：プログラミングⅡ, ウェブプログラミング
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	1 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、手続き型プログラミングの基礎的な理解を目指す。</p>	<p>プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム言語とは何か、その概要と仕組みを理解し、説明できる。 ・統合開発環境を利用することができる。 ・画面出力・入力のプログラムを実装することができる。 ・基本的な演算プログラムを実装することができる。 ・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。 ・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装することができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・Javaをはじめよう	ガイダンスの理解
	2	画面時文字を表示しよう (1) Javaプログラムの作成と実行	教科書の理解・課題の提出
	3	画面時文字を表示しよう (2) 画面への表示とストリーム	教科書の理解・課題の提出
	4	変数を使おう (1) 型	教科書の理解・課題の提出
	5	変数を使おう (2) 初期化と代入	教科書の理解・課題の提出
	6	プログラムの流れと分岐 (1) if文	教科書の理解・課題の提出
	7	プログラムの流れと分岐 (2) アルゴリズム	教科書の理解・課題の提出
	8	プログラムの流れと繰り返し (1) do文	教科書の理解・課題の提出
	9	プログラムの流れと繰り返し (2) 多重ループ	教科書の理解・課題の提出
	10	基本型と演算 (1) 基本型と参照型	教科書の理解・課題の提出
	11	基本型と演算 (2) 演算と型	教科書の理解・課題の提出
	12	配列 (1) 配列と多次元配列	教科書の理解・課題の提出
	13	配列 (2) 配列の操作と拡張for文	教科書の理解・課題の提出
14	メソッド (1) メソッド	教科書の理解・課題の提出	
15	メソッド (2) 多重定義	教科書の理解・課題の提出	
16	期末試験	試験勉強・採点後の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007) <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008) ・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8) ・アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005) 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。) ・課題(締め切り厳守)を提出しない者には期末試験の受験を認めない。 ・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。 		
評価	<p>期末試験(100点満点)および出席率をもとに以下のような評価を算定する。</p> <p>(期末試験得点) × (出席率)</p> <p>但し、課題提出を怠った時点で期末試験の受験は認めない。受験したとしてもその結果は受理しない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングⅡに臨む場合、2ヵ月の期間が空くので、その間は自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めること。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となるため、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つこととなります。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、基本的なプログラミング技術の習得を目指します。プログラミング言語としてJavaを採用していますが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮します。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指します。</p>	<p>プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム言語とは何か、その概要と仕組みを理解し、説明できる。 ・画面出力・入力の実装できる。 ・基本的な演算プログラムを実装できる。 ・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。 ・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	プログラミング言語とJava	教科書の読み込みと理解
	2	変数における識別子と型	教科書の読み込みと理解
	3	変数における宣言と利用	課題への真摯な取り組み
	4	式と演算子	教科書の読み込みと理解
	5	演算子の優先順位と型変換	課題への真摯な取り組み
	6	関係演算子とif文	教科書の読み込みと理解
	7	if-else文とswitch文	課題への真摯な取り組み
8	for文とwhile文	教科書の読み込みと理解	
9	do-while文	課題への真摯な取り組み	
10	配列	教科書の読み込みと理解	
11	多次元配列	課題への真摯な取り組み	
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解	教科書の読み込みと理解	
13	フィールドとメソッド	課題への真摯な取り組み	
14	オブジェクトの作成	教科書の読み込みと理解	
15	オブジェクトの利用	課題への真摯な取り組み	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007) ・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008) ・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8) ・アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005) <p>また理解の手助けとなる資料を随時配布します。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。</p> <p>② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。</p> <p>③ 配布される参考資料そしてデータファイルは、毎回の講義に持参してください。</p> <p>④ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。</p> <p>⑤ 講義に関する疑問は放置せず、講義中に教員に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解消してください。</p>		
評価	<p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、出席状況および受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(10点)、タイピング(10点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングⅡに臨む場合、2ヵ月の期間が空きますので、その間は自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めてもらいたいと考えます。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となるため、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つこととなります。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。よって、プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。	プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングⅠの学習範囲を習得している。 ・オブジェクト指向について基本的な事柄が理解できる。 ・オブジェクトとクラスの理解に基づいた実装ができる。 ・パッケージ、派生と多相性、抽象クラスを実装できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	構造化プログラミングの復習①	配布資料の読み込みと理解
	3	構造化プログラミングの復習②	配布資料の読み込みと理解
	4	オブジェクト指向の基本的理解	配布資料の読み込みと理解
	5	クラスの基本①	教科書の読み込みと理解
	6	クラスの基本②	教科書の読み込みと理解
	7	単純なクラスの実装	課題への真摯な取り組み
8	クラス変数とクラスメソッド①ー理解	教科書の読み込みと理解	
9	クラス変数とクラスメソッド②ー実装	課題への真摯な取り組み	
10	パッケージ①ー理解	教科書の読み込みと理解	
11	パッケージ②ー実装	課題への真摯な取り組み	
12	クラスの派生と多相性①ー理解	教科書の読み込みと理解	
13	クラスの派生と多相性②ー実装	課題への真摯な取り組み	
14	抽象クラス①ー理解	教科書の読み込みと理解	
15	抽象クラス②ー実装	課題への真摯な取り組み	
16	学期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> ・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007) ・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008) ・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8) ・アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005) また理解の手助けとなる資料を随時配布します。		
	学びの手立て		
	① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。 ③ 配布される参考資料そしてデータファイルは、毎回の講義に持参してください。 ④ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。 ⑤ 講義に関する疑問は放置せず、講義中に教員に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解消してください。		
	評価		
	学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、出席状況および受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(10点)、タイピング(10点)そして学期末試験(60点)の総合評価とします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習においてプログラミングの基礎力を習得したことを前提とし、その展開として、「ウェブプログラミング」、「情報処理システム演習」、「データベース」、「UIデザイン論」、「ビジュアル情報処理」の履修を推奨します。

※ポリシーとの関連性

「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。	メッセージ プログラミングⅠを履修済みの者、もしくは、同等の知識を有している者のみが登録することができる。また、履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する一般的な知識を有し、小規模なプログラムが適切に書ける。オブジェクト指向についての一般的な概念を理解している。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・プログラミングⅠの復習	次回講義の予習
	2	メソッド（1）	当該講義の復習／次回講義の予習
	3	メソッド（2）	当該講義の復習／次回講義の予習
	4	クラス（1）	当該講義の復習／次回講義の予習
	5	クラス（2）	当該講義の復習／次回講義の予習
	6	クラス（3）	当該講義の復習／次回講義の予習
	7	クラス（4）	当該講義の復習／次回講義の予習
	8	クラス変数とクラスメソッド（1）	当該講義の復習／次回講義の予習
	9	クラス変数とクラスメソッド（2）	当該講義の復習／次回講義の予習
	10	パッケージ	当該講義の復習／次回講義の予習
	11	クラスの派生と多相性（1）	当該講義の復習／次回講義の予習
	12	クラスの派生と多相性（2）	当該講義の復習／次回講義の予習
	13	抽象クラス（1）	当該講義の復習／次回講義の予習
	14	抽象クラス（2）	当該講義の復習／次回講義の予習
15	インタフェース	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：柴田 望洋「新・明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2016） 参考書籍： 柴田 望洋，由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2008） アंक「プログラミングの絵本」翔泳社（2016） アंक「Javaの絵本 増補改訂版」翔泳社（2005） リンダ・リウカス「ルビィのぼうけん こんにちは！プログラミング」翔泳社（2016）		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：プログラミング理論，プログラミングⅠ，ウェブプログラミング，データベース，ロボットプログラミング
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、オブジェクト指向プログラミングの基礎的な理解を目指す。	プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。 ・クラス変数とクラスメソッドの仕組みを理解し、利用・開発できる。 ・パッケージの仕組みを理解し、利用・開発できる。 ・クラスの派生と多相性の仕組みを理解し、活用できる。 ・抽象クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。 ・インタフェースの仕組みを理解し、利用・開発ができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習	ガイダンスの理解・教科書の復習
	2	クラスの基本（1）クラス・クラス型変数・メンバアクセス演算子	教科書の理解・課題の提出
	3	クラスの基本（2）フィールドとインスタンス変数	教科書の理解・課題の提出
	4	日付クラスの作成（1）アクセッサ（ゲッターとセッター）	教科書の理解・課題の提出
	5	日付クラスの作成（2）文字列化とtoStringメソッド	教科書の理解・課題の提出
	6	クラス変数とクラスメソッド（1）クラス変数（静的フィールド）	教科書の理解・課題の提出
	7	クラス変数とクラスメソッド（2）静的初期化子とインスタンス初期化子	教科書の理解・課題の提出
	8	パッケージ（1）パッケージ・型インポート宣言（単一／オンデマンド）	教科書の理解・課題の提出
	9	パッケージ（2）パッケージとアクセス制御	教科書の理解・課題の提出
	10	クラスの派生と多相性（1）派生による資産の継承	教科書の理解・課題の提出
	11	クラスの派生と多相性（2）参照型のキャスト（アップ／ダウン）	教科書の理解・課題の提出
	12	抽象クラス（1）抽象メソッド	教科書の理解・課題の提出
	13	抽象クラス（2）文書化コメント	教科書の理解・課題の提出
14	インタフェース（1）インタフェース宣言	教科書の理解・課題の提出	
15	インタフェース（2）クラスの派生とインタフェースの実装	教科書の理解・課題の提出	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト ・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2007） 参考文献 ・柴田 望洋、由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2008） ・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス（2014/8） ・アंक「Javaの絵本」翔泳社（2005）		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・指定した教科書の第1章から第7章までの内容は、前もって完全に理解しておくこと。 ・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・課題（締め切り厳守）を提出しない者には期末試験の受験を認めない。 ・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。 		
評価	期末試験（100点満点）および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 （期末試験の点数）×（出席率） 但し、課題提出を怠った時点で期末試験の受験は認めない。受験したとしてもその結果は受理しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報コースに進むには、まずプログラミングⅡで十分に基礎を身に付けるべきである。但し、プログラミングⅡまではあくまで基礎でしかないため、今後は自身でプログラミングの学習を進める必要がある。
-------	--

科目基本情報	科目名 ベンチャー起業論	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -大嶺 聡	前期	土2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	授業終了後に受け付けます。E-mailでの質問も対応できます。	

学びの準備	ねらい ベンチャー起業家の成功事例を参考に、起業における成功のポイントを学びます。また、ビジネスアイデアを立案し、演習（グループワーク）を通してビジネスプランを作成し、その重要性和必要性を理解してもらいます。また、ベンチャー起業家から起業動機や体験談、そこで培った知識やノウハウ等を聴講し、ベンチャーマインドや成功の秘訣を学んでもらいます。	メッセージ ベンチャー企業の特徴や成功事例など、講義とビデオ観賞、起業家の講演をとおして学んでもらいます。ビジネスアイデア発想法を学習し、受講者全員がビジネスアイデアを考え、グループ演習を通して、ビジネスプランを完成させ、ビジネスプランコンテストで発表してもらいます。ビジネスアイデアの発想法、ビジネスプランの作成方法、プレゼンテーションスキルが学べます。
	到達目標 本講義を受講することにより、①ベンチャー企業の定義、②成功するベンチャー企業の特徴、③ビジネスアイデア発想法、④ビジネスプラン作成方法、⑤プレゼンテーションスキルなどの基礎知識を習得することができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	概要説明：講義内容及び講義計画の説明、ベンチャー起業家の事例	ビジネス関連のテレビ番組鑑賞
	2	講義1：ベンチャー企業とは、ベンチャー起業家事例〔VTR観賞〕	ビジネステレビ番組鑑賞（毎週）
	3	講義2：ビジネスアイデア発想法、ビジネスアイデアの事例	ビジネスアイデアを探索
	4	講義3：ビジネスアイデア発想のためのワークショップ	ビジネスアイデアの探索
	5	講義4：ビジネスプランの作り方①	ビジネスアイデアの探索
	6	講義5：ビジネスプランの作り方②	ビジネスアイデアの探索
	7	講演1：ベンチャー企業経営者による講演①	レポートの作成
	8	講演2：ベンチャー企業経営者による講演②	レポートの作成
	9	演習1：ビジネスアイデアの提出・発表	事業計画書等（書籍）の読書
	10	演習2：ビジネスプランの作成：グループ演習	業界・競合情報等の収集
	11	演習3：ビジネスプランの作成：グループ演習	事業計画書の作成
	12	演習4：ビジネスプランの作成：グループ演習	事業計画書の作成
	13	演習5：ビジネスプランの作成：グループ演習	事業計画書の作成
	14	演習6：ビジネスプランの最終発表のまとめ：グループ演習	プレゼンテーション資料の作成
	15	演習7：ビジネスプラン・コンテスト（発表）・講義まとめ	プレゼンテーション資料の作成
16	講義6：＜予備日＞		

実践	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは指定しない。 ・時間外の自主学習方法として、ビジネスに関連したテレビ番組（「がっちりマンデー」（TBS）、「サキどり」（NHK）、「カンブリヤ宮殿」（テレビ東京）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京）、「プロフェッショナル仕事の流儀」（NHK））等の鑑賞を勧める。 ・特に推薦する図書はないが、「ビジネスアイデア発想法」、「起業家・創業者」、「事業計画」、「プレゼンテーションのしかた」等に関連する書籍を事前に読んでおくことよい。
----	---

学びの手立て	履修の心構えとして注意して欲しいこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・全講義を通すことによって内容が理解できるようになっているため、出席を重視し、毎回出席を取ります。 ・講義最初に配布するテキストをベースに講義及び演習を進めるため、毎回忘れずに持参して下さい。 ・ベンチャー起業家による講演後に、レポート（A4 1枚）を提出してもらいます（レポートを出席確認の代わりとする）。 ・全員にビジネスアイデアを提出してもらいます。身近なところや自身の夢の実現など、常にアンテナを張ってアイデアを模索し、見つけてください。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験は行いません。・出席回数（16）、レポート（2）、提出物（1）、受講態度、グループ演習の取組姿勢等にて総合的に評価します。・ビジネスプランコンテスト発表にて、ビジネスアイデア、ビジネスプラン、プレゼンテーション力を評価します。・講義を4回以上欠席した場合は、無条件で不可となります。 ・ただし、適切な欠席理由があり、かつ、欠席届を提出している場合は除きます。 ・遅刻は0.5回の欠席扱いとし、また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：エグゼクティブセミナー
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	1年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 「簿記Ⅰ」は簿記入門を扱っており、簿記会計の基礎となる教科である。「なぜそうなるのか」「どうして、こうするのか」常に考えながら原理・原則を学講義としたい。	メッセージ 簿記を初めて学習する人達が、簿記を正しく、かつ楽しみながら理解できるように、簿記の基礎原理・原則に基づいてわかりやすく講義をすすめて行く。
	到達目標 簿記の基礎的な知識を有し、特にサービス等における基本的な記帳処理ができる。	

学びの準備	到達目標 簿記の基礎的な知識を有し、特にサービス等における基本的な記帳処理ができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	複式簿記の意義と目的	
	2	資産・負債・純資産	練習問題
	3	貸借対照表	同上
	4	収益・費用と損益計算書	同上
	5	取引と勘定	同上
	6	仕訳・転記	同上
	7	仕訳・転記	同上
	8	試算表	同上
	9	精算表	同上
	10	決算(その1)	同上
	11	決算(その1)	同上
	12	現金・預金	同上
	13	現金・預金	同上
	14	商品売買の処理	同上
	15	商品売買の処理	同上
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記Ⅱを続けて受講することにより、簿記検定試験3級の範囲となる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	1年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 簿記Ⅰで学んだ簿記の基礎を踏まえ、更に進んだ簿記システム理論と記帳技術を講義する。つまり、「簿記Ⅰ」が入門編で、「簿記Ⅱ」は初級編となる。	メッセージ 企業は簿記会計の知識を有した人材を強く求めており、多数の学生の受講を望む。
	到達目標 小規模企業における経営者又は経理担当者として、最低限必要な簿記に関する知識を有し、かつ簡易な実務処理ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	簿記Ⅰのまとめ	
	2	商品売買	練習問題
	3	売掛金・買掛金元帳	同上
	4	手形	同上
	5	手形記入帳	同上
	6	その他の債権・債務	同上
	7	有価証券	同上
	8	有価証券	同上
9	固定資産	同上	
10	固定資産	同上	
11	資本金と引出金	同上	
12	税金	同上	
13	決算(その2)	同上	
14	決算(その2)	同上	
15	決算(その2)	同上	
16	期末テスト	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。		
	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。		
	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記検定2級の勉強に進むことを望む。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア論	後期	土 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	3年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報とメディア、コミュニケーションとメディアテクノロジーとの関係を中心に講義を行う。特にマルチメディアの特性について考察し、その利用による効果を考える。情報の表現、つまり各種メディアをコンピュータで処理するためのデータの表現方法や、マルチメディア情報を取り扱う上での基礎知識、マルチメディアとインターネットを活用したビジネスについての説明も行う。	テキストだけでなく、実際にサービスが行われている画面やコンテンツ、CGアニメーションや特撮のメイキング紹介を用いる事で、視覚と聴覚の両方で情報を感じてもらえる講義を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツを構成する要素の成立ちと技術について理解する事で、サービスやコンテンツの提案ができるようになる。 インターネットを活用したビジネスモデルの内容と動向を学ぶ事で、新しいプランの提案ができるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス マルチメディアとは	講義概要の確認
	2	コミュニケーションと情報	テキスト内容の事前確認
	3	インターネットとマルチメディア	同上
	4	マルチメディアの構成要素（1）音声情報	同上
	5	マルチメディアの構成要素（2）画像情報	同上
	6	マルチメディアの構成要素（3）映像情報	同上
	7	CG作成技術について（1）グラフィックソフト、CAD	テキスト内容の事前確認、試験準備
	8	中間試験	
	9	CG作成技術について（2）3Dモデリングソフト	テキスト内容の事前確認
	10	CG作成技術について（3）アニメーション	同上
	11	CG、特撮作品についての紹介、解説	特撮に関するコンテンツ鑑賞（題材自由）
	12	マルチメディアの発達をもたらす社会（1）	同上
	13	マルチメディアの発達をもたらす社会（2）	同上
14	マルチメディアの発達をもたらす社会（3）	同上	
15	最終試験	テキスト内容の事前確認、試験準備	
16	試験解答・総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル ～公益財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）～ https://www.cgarts.or.jp/book/multimedia/index.html		
	併せて、各講義の2日前までにpdfファイルを沖国大ポータル授業共有フォルダにアップロードする		
	学びの手立て		
	講義に使用するテキストは、各回のテーマに関連した参考となるコンテンツやwebサイトのURLを記載したPDFファイルを用いる。可能な学生はインターネットにアクセスできるノートPC、タブレットなどで随時内容が確認しながらの受講をお願いしたい。		
	評価		
	試験および出席状況を総合的に判断し評価する。 中間試験45%、期末試験45%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	普段から映画やゲーム、webコンテンツなどに積極的に、継続的に触れ、ハードやインフラの進化によりどのように表現が変わっていくのかを実感してほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ロボットプログラミング	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい LEGO MINDSTORMSを用いた移動自律ロボットを題材として、チームによる課題解決に取り組む。 センサからの外部入力に応じたロボットの制御に、メンバーとの協力を以て臨むことで、プログラミング能力・協調性・課題解決能力の向上を図る。	メッセージ ロボットを構想の通りに制御するには多くの試行錯誤と創意工夫が必要になります。実行結果と粘り強く向き合い、チームのメンバーと知恵を出し合い、自ら積極的に行動することで、C言語の理解を含めたロボット制御の基本および課題解決能力を身に付けましょう。
	到達目標 ・チームで課題を共有し、協力して解決に臨むことができる。 ・ロボットの構造・動作の仕組みが説明できる。 ・C言語を用い、自作のロボットを実装・稼働させることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・ロボットの組み立て	ガイダンスの理解
	2	順次処理・分岐処理・繰り返し処理	課題の理解・課題の提出
	3	センサ入力による制御（1）	課題の理解・課題の提出
	4	センサ入力により制御（2）	課題の理解・課題の提出
	5	センサ入力により制御（3）	課題の理解・課題の提出
	6	ライントレース制御（1）	課題の理解・課題の提出
	7	ライントレース制御（2）	課題の理解・課題の提出
	8	複数のセンサ入力による制御（1）	課題の理解・課題の提出
	9	複数のセンサ入力による制御（2）	課題の理解・課題の提出
	10	変数（1）	課題の理解・課題の提出
	11	変数（2）	課題の理解・課題の提出
	12	マルチスレッド	課題の理解・課題の提出
	13	課題制作（1）	課題の理解・課題の提出
	14	課題制作（2）	課題の理解・課題の提出
	15	最終発表会（期末試験）（1）	課題の理解・課題の提出
	16	最終発表会（期末試験）（2）	
	テキスト・参考文献・資料など 講義にて指定する。		
	学びの手立て 第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。 プログラミング言語としてC言語を用いる。ある程度のシステム開発の知識、プログラミング技術が必要なため情報処理システム論、プログラミング理論、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。		
	評価 期末試験（100点満点）および出席率をもとに以下のような評価を算定する。 （期末試験の点数）×（出席率） 但し、課題提出を怠った時点で期末試験の受験は認めない。受験したとしてもその結果は受理しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 センサと制御およびC言語の知識は利用価値が高い。将来的に使う機会があれば、本講義で学んだことをもとに、更なる研鑽を望む。
-------	---